

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

共通仮設費

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

1 節

回航・えい航費

1 節 回航・えい航費

1. 総則

1-1	適用範囲	5-1-1
1-2	積算ツリー	5-1-1
1-3	用語の定義	
1-3-1	回航・えい航	5-1-1
1-3-2	回航	5-1-1
1-3-3	えい航	5-1-1
1-4	積算フロー	5-1-2

2. 回航

2-1	標準的な積算手順	5-1-2
2-2	積算条件の設定	
2-2-1	設定手順	5-1-3
2-2-2	回航方式	5-1-4
2-2-3	回航距離の算出	5-1-4
2-2-4	回航用引船の選定	5-1-5
2-2-5	航行速度	5-1-6
2-2-6	運転時間および運転日数の算出	5-1-6
2-2-7	艀装日数の算出	5-1-6
2-2-8	供用日数の算出	5-1-6
2-3	回航の積算	
2-3-1	艀装費の算出	5-1-7
2-3-2	運転費の算出	5-1-7
2-3-3	損料の算出	5-1-9
2-3-4	回航保険料の算出	5-1-9
2-3-5	検査料の算出	5-1-11
2-3-6	旅費等の算出	5-1-12
2-3-7	代価表	5-1-13

3. えい航

3-1	標準的な積算手順	5-1-14
3-2	積算条件の設定	
3-2-1	設定手順	5-1-14
3-2-2	えい航方式	5-1-15
3-2-3	えい航距離の算出	5-1-15
3-2-4	えい航用引船の選定	5-1-15
3-3	えい航の積算	
3-3-1	運転費の算出	5-1-17
3-3-2	損料の算出	5-1-18
3-3-3	代価表	5-1-18

付属資料

付属資料-1	回航積算手順	5-1-(1)
付属資料-2	えい航積算手順	5-1-(3)
付属資料-3	総トン数一覧表	5-1-(5)

補足資料

補足資料-1	間接工事費（回航・えい航費）	5-1-(8)
--------	----------------	---------

1 節 回航・えい航費

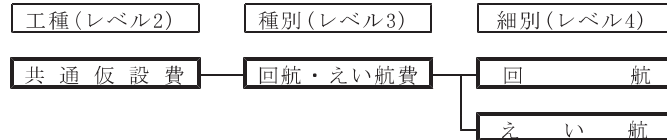
1. 総則

1-1 適用範囲

船舶および機械器具等の回航・えい航に要する費用の算定に適用する。

ただし、本基準によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

1-3 用語の定義

1-3-1 回航・えい航

1) 回航：航行距離が片道25浬（約46.3km）以上（一平水区域内の回航は除く）の場合

2) えい航：航行距離が片道25浬（約46.3km）未満または一平水区域内の場合

回航費は、原則として往復の費用を計上する。

1-3-2 回航

構成要素	説明
回航費	○船舶および機械器具等を所在する場所から工事現場、その他の目的場所まで回航するための、往復に要する費用をいう。 ○艀装費、運転費、損料、回航保険料、検査料、旅費等を計上する。
艀装費	○回航される船舶・機械器具等を目的場所まで安全に航行するために必要な船体の補強、固縛、防水工事等に要する費用あるいは回航のための解体または組立に要する費用をいう。
運転費 燃料費	○回航用引船または自力回航船舶等の回航中の運転に要する費用をいう。 ・回航用引船または自力回航船舶の運転に要する燃料費（潤滑油、消耗品等の雑品を含む）の費用をいう。
労務費 上乘費	・回航用引船または自力回航船舶等の運転に要する乗組員の費用をいう。 ・回航される船舶・機械器具等の回航中における保安に要する乗組員の費用をいう。
損料	○回航用引船および回航される船舶等または自力回航船舶の運転時間（または日数）および供用日数に対する損料をいう。 ・回航用引船運転時間（または日数）に対する損料および供用日数に対する損料をいう。
回航用引船の損料	・被回航船舶等の供用日数に対する損料をいう。
被回航船舶等の損料 自力回航船舶の損料	・自力回航船舶の運転時間数（または日数）に対する損料および供用日数に対する損料をいう。
回航保険料	○回航される船舶等の回航中における全損てん補を付保する保険をいう。
被回航船舶等の保険料	・被回航船舶等の普通期間保険（第2種）または航海保険（第2種）に要する保険料をいう。
自力回航船舶の保険料	・自力回航船舶の普通期間保険（第2種）または航海保険（第2種）に要する保険料をいう。
検査料	○回航保険料を契約するために、回航される船舶等の現状および艀装状態並びに回航用引船の適否などの検査に要する費用をいう。
旅費等	○回航要員等が旅行する場合の費用をいう。

注) 原則として往復の費用を計上するが、次の場合は往路の費用のみ計上する。

1. 当該工事現場付近で使用の見込みがある場合
2. 当該工事現場を次期工事のため基地として利用する場合

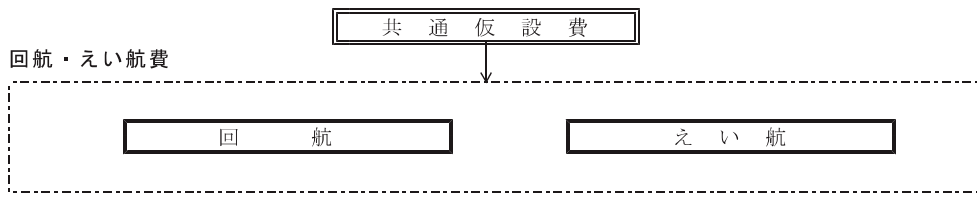
1-3-3 えい航

構成要素	説明
えい航費	○船舶および機械器具等を所在する場所から工事現場、その他の目的場所までえい航するための、往復に要する費用をいう。 ○運転費、損料を計上する。
運転費 燃料費	○えい航用引船のえい航中の運転に要する費用をいう。 ・えい航用引船の運転に要する燃料費（潤滑油、消耗品等の雑品を含む）の費用をいう。
労務費	・えい航用引船および被えい航船舶の労務費をいう。
損料	○えい航用引船および被えい航船舶等の運転または供用に対する損料をいう。 ・運転時間（日数）に対する損料および供用日数に対する損料をいう。
えい航用引船の損料 被えい航船舶等の損料	・被えい航船舶等の供用日数に対する損料をいう。

注) 1. 原則として往復の費用を計上するが、次の場合は往路の費用のみ計上する。

- ① 当該工事現場付近で使用の見込みがある場合
- ② 当該工事現場を次期工事のため基地として利用する場合
2. 自航付属作業船舶が自力で航行する場合は計上しない。

1-4 積算フロー

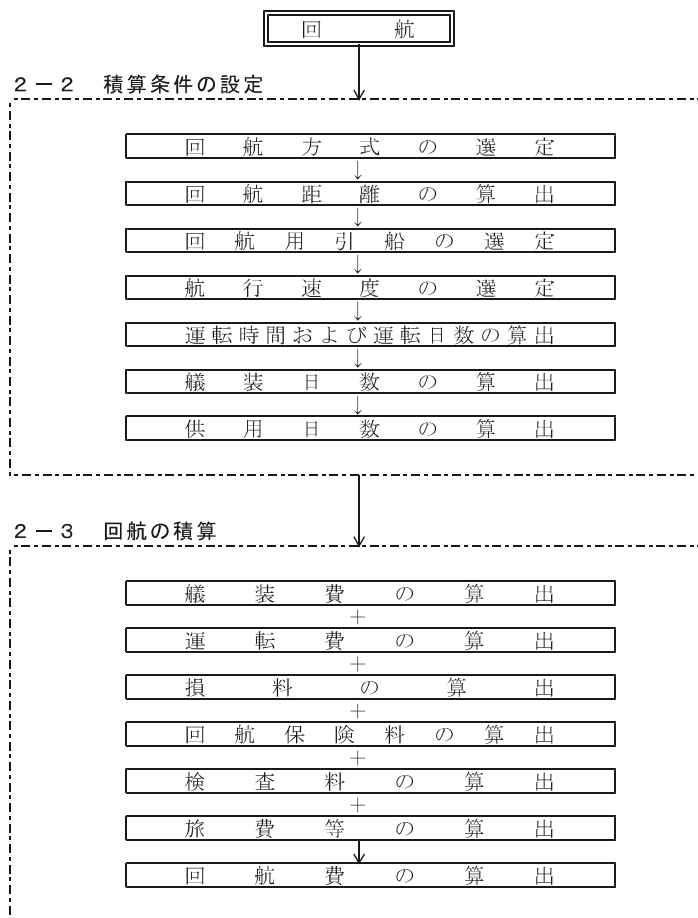


2. 回航

回航に含まれる代価表は、下表のとおりである。

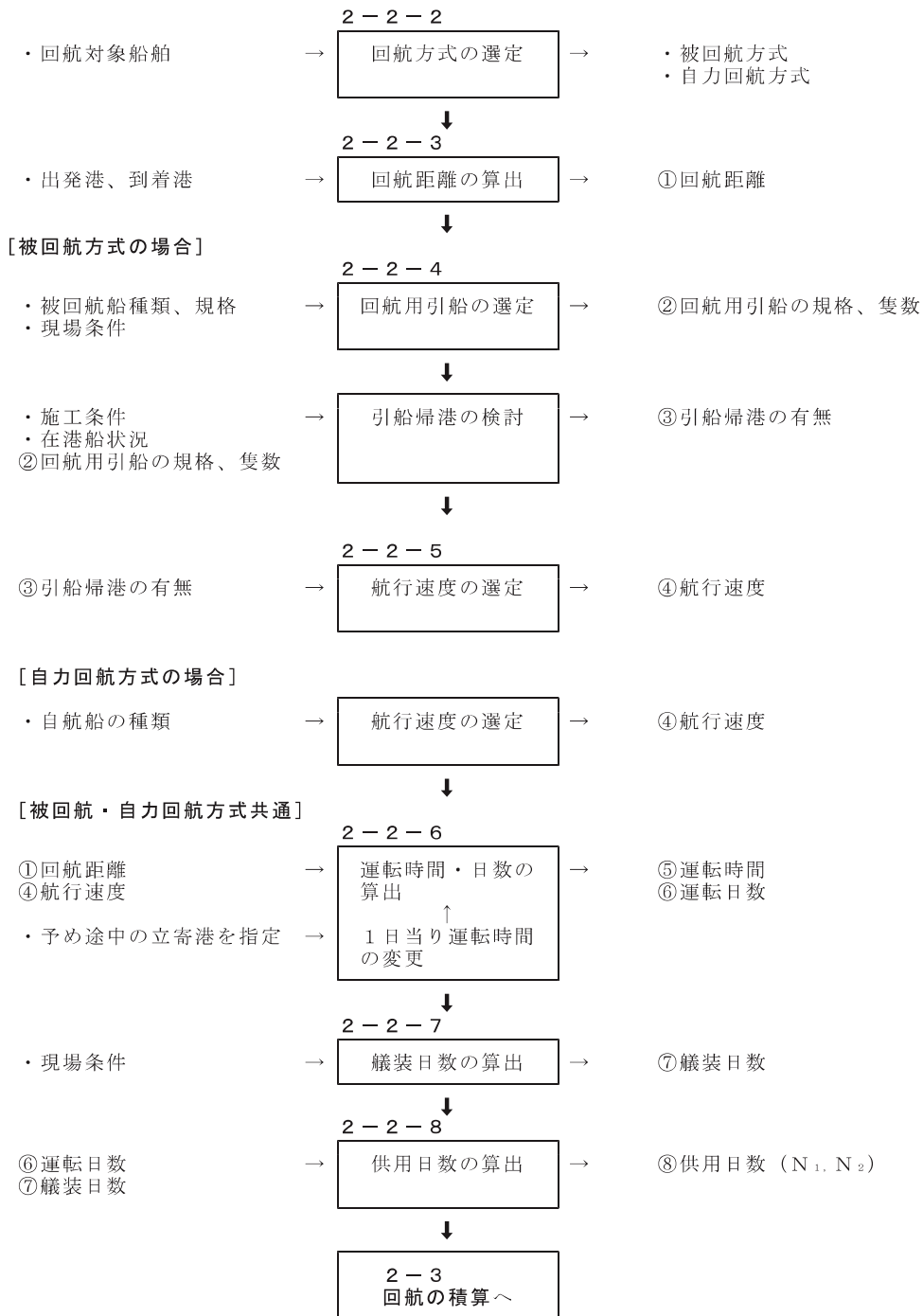
種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
回航・えい航費	回航	回航	回航費 1回当り

2-1 標準的な積算手順



2-2 積算条件の設定

2-2-1 設定手順



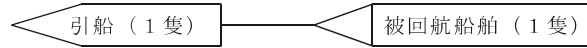
2-2-2 回航方式

回航方式は、次を標準とする。

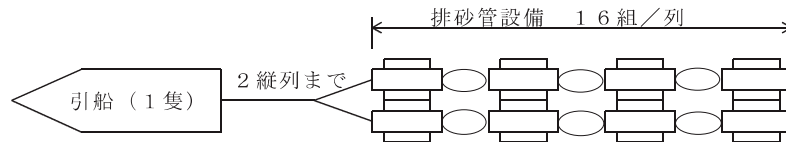
ただし、次によることが不適当な場合は条件等を考慮して別途定めるものとする。

1) 被回航方式

(1) 非航船舶の回航方式



(2) 排砂管設備の回航方式



排砂管設備は、原則としてフロータ、排砂管、ジョイント3.2組をもって1隻とする。

2) 自力回航方式

当該船舶が自力で航行する。

2-2-3 回航距離の算出

出発港から到着港までの回航距離は、海上保安庁海洋情報部編集の「距離表」または(社)日本海運集会所発行「内航距離表」により算出することを原則とする。

2-2-4 回航用引船の選定

1) 回航用引船と被回航船舶の組合せ

回航用引船と被回航船舶の組合せは、「回航用引船と被回航船舶の組合せ表」を標準とする。

ただし、気象、海象および回航経路の現場状況により、標準組合せが不適当な場合（航行環境が厳しい外洋、狭隘な海域、潮流が速い海域、航行船舶が多い海域を回航する場合等）は、引船規格、隻数を別途考慮することができる。

回航用引船と被回航船舶の組合せ表

回航用 引船 (PS型)	被回航船舶												
	ポンプ 浚渫船 (PS型)	ハーフ アローグ 船 (PS型)	空 気 圧送船 (PS型)	グラブ浚渫船			バックホ ウ浚渫 船 (m ³)	起重機船		杭打船 (型)	サト コンパ ク ション 船 (連続)	サト ドレン 船 (連続)	ガット ハーフ (m ³)
				普 通 地盤用 (m ³)	硬土盤 用 (m ³)	岩盤用 (m ³)		旋回 (t吊)	固定 (t吊)				
鋼D 350													
" 450		420					1.0						
" 500				2.5									
" 600		1,000						30		D- 25			
" 800	1,350	1,600			3.5	3.5							
" 1,000							2.0	70		H- 65 D- 45			1,000
" 1,200	2,250		2,000	5.0	5.5	5.5							
" 1,500	3,200		3,000			7.5		250	500	H-125 D- 72 H-150 D- 80		6	
" 2,000	4,000			15.0	7.5			300				12	
" 2,500					11.5								
" 3,000	6,000	2,500	6,000	30.0									
" 4,000	8,000								2,000		3		

回航用 引船 (PS型)	被回航船舶										
	土運船 (1隻) (m ³)	土運船 (2隻) (m ³)	台 船 (1隻) (t積)	クレーン付 台 船 (t吊)	フローティ ングドック (t積)	コンクリートミキサー船		深層混 合処理 船 (m ²)	排砂管設備		
						バッチ式 (m ³)	コンテ ィ アス式 (型)		フロータ 長(m)、径(mm)	排砂管 長(m)、径(mm)	
鋼D 350			100								
" 450			200								
" 500	300		300	40							
" 600		300									
" 800			500	50			25		4.5×1,100	6.0×560	
" 1,000	650			150	1,500						
" 1,200		650									
" 1,500			2,000		2,500	1.0	45				
" 2,000	1,300				3,200	1.5	90	2.2			
" 2,500		1,300							5.0×1,300 ~1,500	6.0×660 ~760	
" 3,000						2.5		4.6			
" 4,000					7,000			5.7			

注) 1. 上記組合せ表にない大型船舶の回航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。

2. 起重機船（固定）の2,000t吊を超え3,000t吊までは、引船4,000PS型と3,000PS型の2隻引きとする。

起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型2隻と3,000PS型の3隻引きとする。

3. 被回航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。

2) 回航用引船の帰港の有無

引き続き回航用引船を本工事で使用する場合は、回航用引船の費用は片道とする。

2-2-5 航行速度

1) 回航用引船の航行速度

航 行 区 分	航 行 速 度	摘 要
回 航 時	5ノット (9.3km/h)	
独 航 時	10 " (18.5 ")	

2) 自力回航船の航行速度

船 種	航 行 速 度	摘 要
起重機船 (自航旋回)、揚錨船、押 船	8ノット (14.8km/h)	
ガット船、引 船、潜水土船、安全監視船	10 " (18.5 ")	

2-2-6 運転時間および運転日数の算出

1) 運転時間

$$\text{運転時間} = \frac{\text{回航距離 (湮またはkm)}}{\text{航行速度 (ノットまたはkm/h)}} \quad (\text{小数1位切上げ})$$

2) 運転日数

$$\text{運転日数} = \frac{\text{運転時間 (h)}}{\text{1日当り運転時間 (h/日)}} \quad (\text{小数2位四捨五入})$$

1日当り運転時間は16h/日を標準とする。

ただし、予め途中の立寄港を指定する場合などで、上記によることが不適切な場合は、1日当り運転時間を変更することができる。

2-2-7 艀装日数の算出

艀装 (解体を含む) 日数は検査の有無にかかわらず、往路、復路とも、2日間を標準とする。

ただし、上記標準日数が不適当な場合は、条件等を考慮して別途所要日数を計上することができる。

2-2-8 供用日数の算出

1) 運転費算定時の供用日数 (N₁)

労務費および上乘費の算定に使用する供用日数 (N₁) は下式による。

$$N_1 = \text{運転日数} \times 1.30 \quad (\text{0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を1日として0.5日単位にする。})$$

2) 損料算定時の供用日数 (N₂)

回航用引船、被回航船舶等および自力回航船舶の損料算定に使用する供用日数 (N₂) は以下による。

(1) 回航用引船の供用日数の算出

$$N_2 = \text{運転日数} \times 1.30 \quad (\text{0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を1日として0.5日単位にする。})$$

(2) 被回航船舶等の供用日数の算出

$$N_2 = \text{運転日数} \times 1.30 + \text{艀装日数} \quad (\text{0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を1日として0.5日単位にする。})$$

ただし、国有船舶については算出しない。

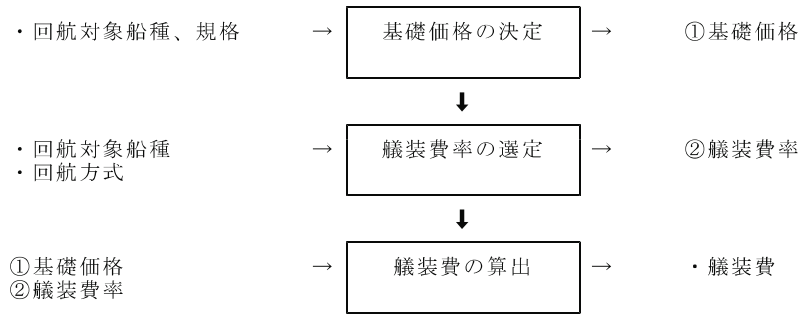
(3) 自力回航船舶等の供用日数の算出

$$N_2 = \text{運転日数} \times 1.30 + \text{艀装日数} \quad (\text{0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を1日として0.5日単位にする。})$$

2-3 回航の積算

2-3-1 艀装費の算出

1) 算出手順



2) 艀装費の算出

艀装費 = 被回航船舶等の購入価格 × 艀装費率 (小数1位切捨て)

ただし、これによることが不適当な場合は条件等を考慮して別途算出することができる。

- (1) 購入価格は「船舶および機械器具等の損料算定基準」に定める基礎価格とする。
- (2) 艀装費率は艀装費の購入価格に対する割合とし、下表を標準とする。

被回航船舶等の種別	被回航の場合	自力回航の場合
主 作 業 船	0.0025 (0.0020)	0.00030
付 属 作 業 船	0.0015	0.00015
作 業 船 用 付 属 品	0.0010	—

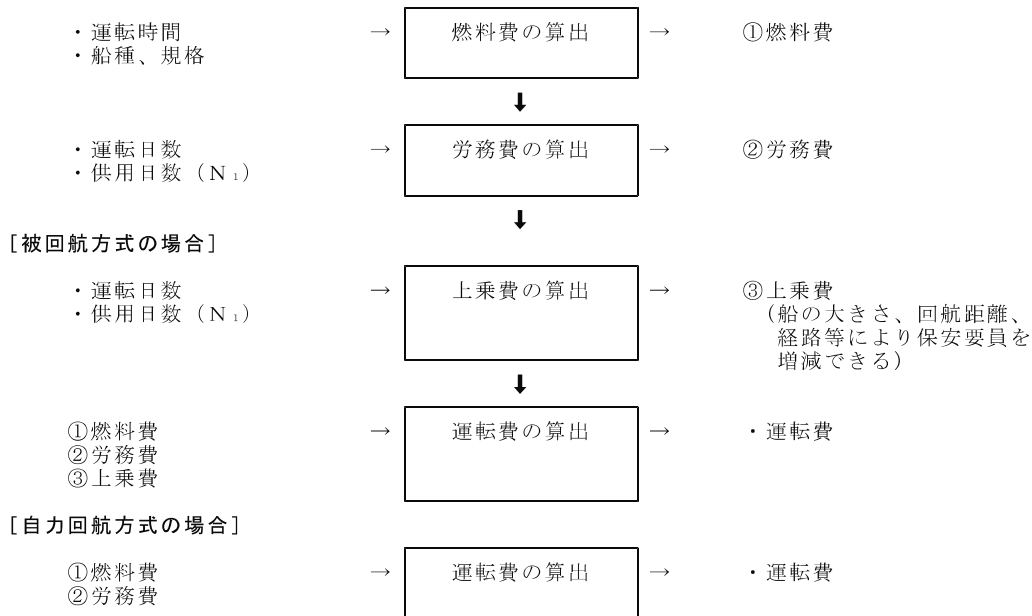
注) ()の艀装費率は、静穏な海域のみを回航する被回航船舶の艀装費率

注) 被回航船舶等のうち主作業船は以下のとおりとする。

ポンプ浚渫船、バージンローダ船、空気圧送船、グラブ浚渫船、バックホウ浚渫船、起重機船、杭打船、サンドコンパクション船、サンドドレーン船、ケーソン製作用台船、コンクリートミキサー船、深層混合処理船

2-3-2 運転費の算出

1) 算出手順



2) 運転費の算出

運転費 = 燃料費 + 労務費 + 上乘費

(1) 燃料費

燃料費 = { 回航用引船(または自力回航船舶)の燃料消費量(ℓ/h) × 運転時間(h) } × 燃料単価(円/ℓ)
({ } は小数1位四捨五入、全体は小数1位切捨て)

- ① 回航用引船の燃料消費量(雑品含む)は「回航用引船歩掛表」による。

(2) 労務費

労務費 = (※労務単価 + 乗船手当) × 乗組員数 × 供用日数 (N₁) (小数1位切捨て)

※労務単価は「第1部 第2章 1節 2-1-2 労務単価の補正 2) 2交代制の場合の労務単価」による。

- ① 回航用引船の乗組員数は「回航用引船歩掛表」による。
- ② 乗船手当は「国土交通省日額旅費支給規則」による。
ただし、供用日数 (N₁) が、1日未満の場合は乗船手当を計上しない。
- ③ 自力回航船舶の乗組員数は「単価表」の内訳数量による。
ただし、潜水士船の乗組員数は、「潜水士船歩掛表」によるものとする。

潜水士船歩掛表

代表船名	規格	乗組員 (人)				摘要
		潜水世話役	潜水士	潜水連絡員	潜水送気員	
潜水士船	D 270PS型 3~5t吊	0.2	1.0	1.0	1.0	単独潜水方式
		0.2	2.0	1.0	1.0	2人潜水方式 (交互)

(3) 上乘費

上乘費 = (※労務単価 + 乗船手当) × 上乘員数 × 供用日数 (N₁) (小数1位切捨て)

※労務単価は「第1部 第2章 1節 2-1-2 労務単価の補正 2) 2交代制の場合の労務単価」による。

- ① 被回航船舶等のうち主作業船については、回航中の保安要員として乗組員のうち船団長1名と普通船員2名を乗船させることを標準とする。
ただし、保安要員は、船の大きさ、回航距離、経路等により増減することができる。
- ② 乗船手当は「国土交通省日額旅費支給規則」による。
ただし、供用日数 (N₁) が、1日未満の場合は乗船手当を計上しない。

(4) 回航用引船の歩掛

回航用引船歩掛表

規格	燃料消費量 (雑品含む) ℓ/h	乗組員 (人)		摘要
		高級船員	普通船員	
鋼D 350PS型	39.8	1	1	
〃 450 〃	51.3	2	1	
〃 500 〃	57.0	2	1	
〃 600 〃	68.4	2	1	
〃 800 〃	91.1	2	1	
〃 1,000 〃	114.1	2	1	
〃 1,200 〃	136.9	3	1	
〃 1,500 〃	171.0	3	1	
〃 2,000 〃	228.0	3	1	
〃 2,500 〃	285.0	3	2	
〃 3,000 〃	342.1	4	2	
〃 4,000 〃	456.0	4	3	

(5) 自力回航船舶の燃料消費量

自力回航船舶の運転1時間当りの燃料消費量は、下式による。

- 自航起重機船；燃料消費量 (ℓ/h) = 主機関の定格出力 × 0.191 ℓ/kW・h (小数2位四捨五入)
- ガ ッ ト 船；燃料消費量 (ℓ/h) = 主機関の定格出力 × 0.277 ℓ/kW・h (小数2位四捨五入)
- 揚錨船・引船・押船；燃料消費量 (ℓ/h) = 主機関の定格出力 × 0.155 ℓ/kW・h (小数2位四捨五入)
- 潜水士船；燃料消費量 (ℓ/h) = 主機関の定格出力 × 0.108 ℓ/kW・h (小数2位四捨五入)
- 安全監視船；燃料消費量 (ℓ/h) = 主機関の定格出力 × 0.046 ℓ/kW・h (小数2位四捨五入)

(6) 乗船手当

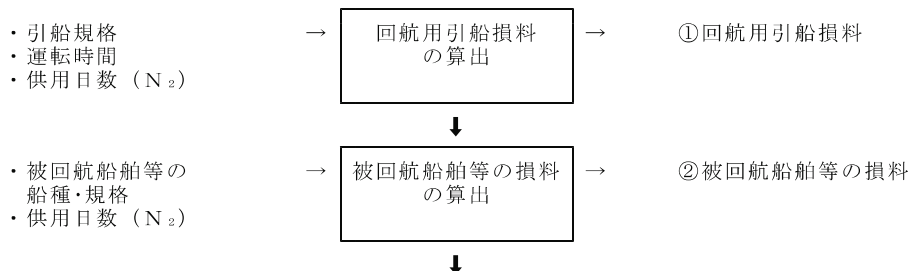
乗船手当は、下表のとおりとする。

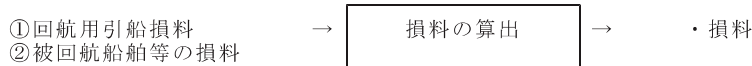
職種	乗船手当	摘要
船団長 高級船員	2,854円	国土交通省日額旅費支給規則第6条(作業船乗組日額旅費)別表第四の乙、宿日直手当が支給されない場合に準ずる。 金額は消費税を含まない金額である。
普通船員	2,336円	

2-3-3 損料の算出

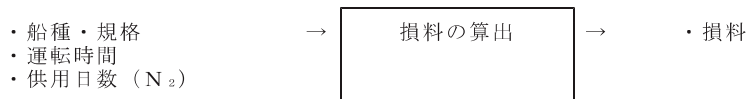
1) 算出手順

[被回航方式の場合]





[自力回航方式の場合]



2) 損料の算出

(1) 回航用引船の損料

$$\text{損料} = (\text{運転時間当り損料} \times \text{運転時間}) + (\text{供用日当り損料} \times \text{供用日数})$$

(() 内は各々、小数1位切捨て)

(2) 被回航船舶等の損料

$$\text{損料} = \text{供用日当り損料} \times \text{供用日数} \quad (\text{小数1位切捨て})$$

(3) 自力回航船舶の損料

$$\text{損料} = (\text{運転時間当り損料} \times \text{運転時間}) + (\text{供用日当り損料} \times \text{供用日数})$$

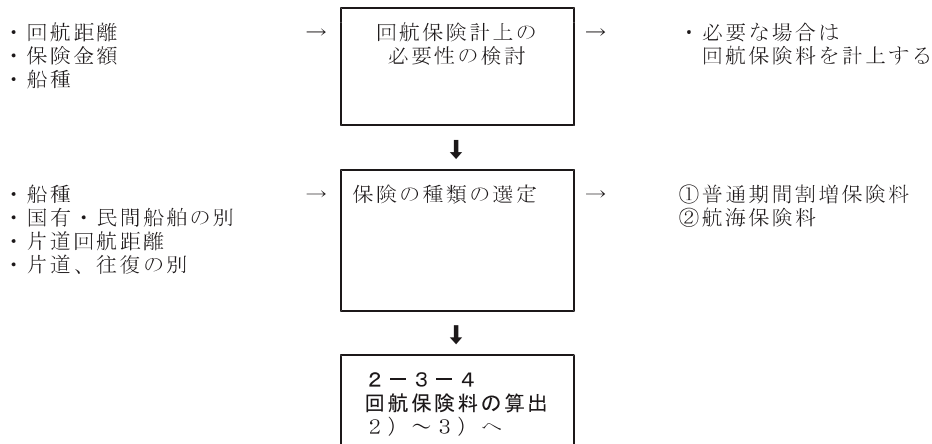
(() 内は各々、小数1位切捨て)

(4) 国有の船舶は、損料を計上しない。

2-3-4 回航保険料の算出

1) 回航保険料の種類の設定

(1) 選定手順



(2) 回航保険の種類

作業船等を回航する場合は、回航保険料として普通期間保険の割増保険料または航海保険料を積算する。
なお、作業船の普通期間保険は「損料」に含む。

①回航保険料の種類と保険料を積算する条件

回航保険の種類	積算条件
普通期間割増保険料	作業船を航路定限（一平水区域内または一定作業場所を起点に水路25哩の範囲内）の範囲を超えて回航する場合
航海保険料	①排砂管設備を回航する場合 ②国有の船舶および機械器具を回航する場合

なお、次の場合は回航保険料を計上しないものとする。

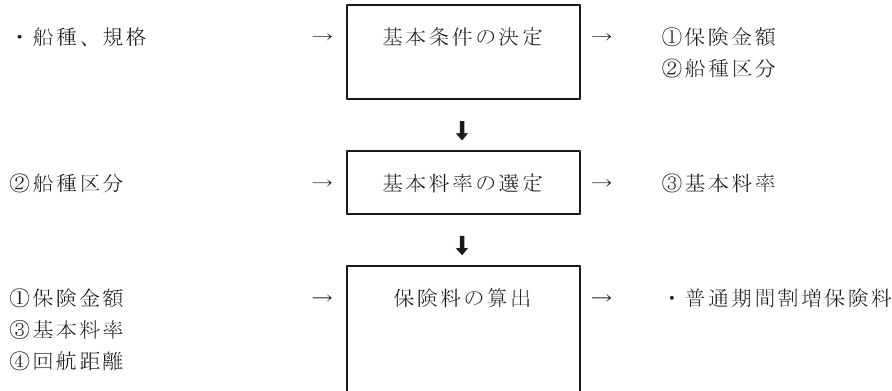
イ. 保険金額が100万円未満の場合

ロ. 回航用引船

ハ. 100総トン以上の自力航行の普通船形船(ただし、国有船舶および自力航行の箱形船を除く)

2) 普通期間割増保険料

(1) 算出手順



(2) 保険料の算出

$$\text{保険料} = [\text{保険金額} \times \{ \text{基本料率} \times \text{回航距離係数} \}] \div 1.10$$

({ } は小数 6 位四捨五入、 [] は小数 1 位切捨て、全体は小数 1 位切捨て)

① 保険金額の算出

$$\text{保険金額} = \text{購入価格} \times \text{平均残存価格率} (0.515)$$

注) 1. 購入価格は「船舶および機械器具等の損料算定基準」に定める基礎価格とする。

2. 平均残存価格率 = $0.97/2 + 0.03 = 0.515$

② 基本料率

船種区分	基本料率	摘要
主 作 業 船	0.000009	
付 属 作 業 船	0.000023	
自 航 作 業 船	0.000014	

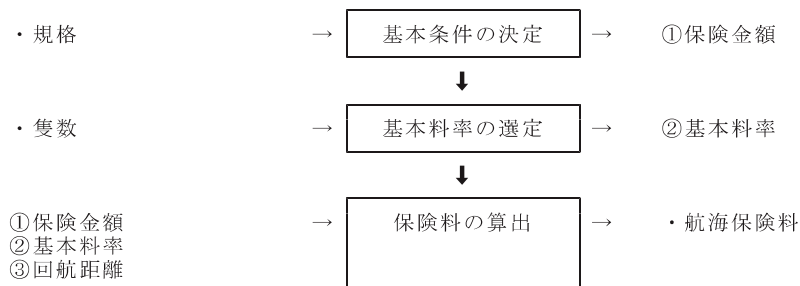
③ 回航距離係数

船種区分	回航距離係数	摘要
主 作 業 船	$K^{0.7950}$	K : 回航距離 (哩)
付 属 作 業 船	$K^{0.4017}$	
自 航 作 業 船	$K^{0.7468}$	

3) 航海保険料

(1) 算出手順

[排砂管設備の場合]



(2) 保険料の算出

①排砂管設備

保険料 = [保険金額 × { 基本料率 × 回航距離係数 }] ÷ 1.10

({ } は小数 6 位四捨五入、 [] は小数 1 位切捨て、全体は小数 1 位切捨て)

注) 回航保険料は、消費税の課税対象外である。

イ. 保険金額の算出

対象船舶等	保 険 金 額
排砂管設備等を指定しない場合	購入価格 × 平均残存価格率 (0.515) 注) 1. 購入価格は「船舶および機械器具等の損料算定基準」に定める基礎価格とする。 2. 平均残存価格率 = $0.97 / 2 + 0.03 = 0.515$

ロ. 基本料率

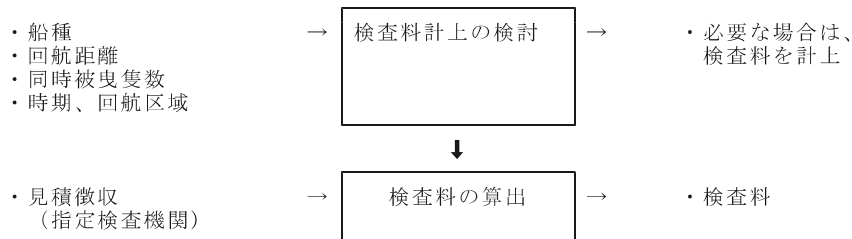
品 名	基本料率	摘 要
排砂管設備	0.00016	

ハ. 回航距離係数

品 名	回航距離係数	摘 要
排砂管設備	$K^{0.6912}$	K : 回航距離 (浬)

2-3-5 検査料の算出

1) 算出手順



2) 検査料の算出

(1) 計上条件

①非航船の場合

イ. 片道の回航距離が 500 浬以上の場合

ロ. 片道の回航距離が 400 浬以上で、3隻以上同時被曳される場合

ハ. 片道の回航距離が 400 浬以上で、12月1日から3月31日までの間に出帆し、北海道全域・日本海沿岸 (青森県～福岡県) ・太平洋沿岸 (青森県～千葉県) を航行する場合

②排砂管設備の場合

イ. 片道の回航距離が 500 浬以上の場合

ロ. 片道の回航距離が 400 浬以上で、3隻以上同時被曳される場合

ハ. 片道の回航距離が 400 浬以上で、12月1日から3月31日までの間に出帆し、北海道全域・日本海沿岸 (青森県～福岡県) ・太平洋沿岸 (青森県～千葉県) を航行する場合

③自力回航船舶の場合

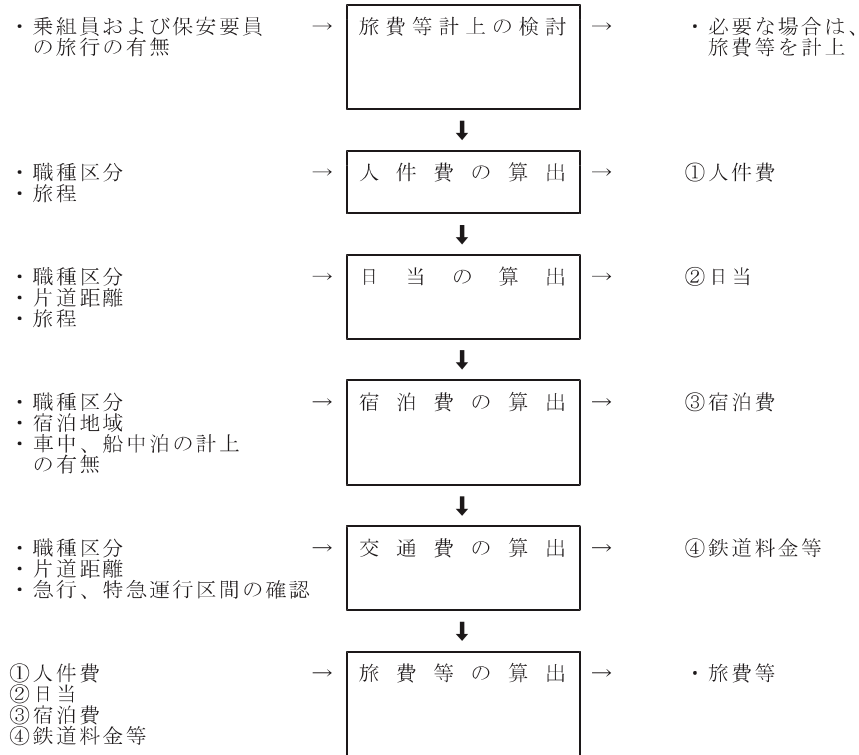
長期間 (6ヶ月程度) 稼働していなかった船舶の場合

(2) 検査料

検査料は、日本海事検定協会等の専門の検定機関の見積を徴収の上決定する。

2-3-6 旅費等の算出

1) 算出手順



2) 旅費等の算出

(1) 旅費等の計上

- ①被回航船舶の乗組員が旅行する場合
- ②自力回航船舶の回航用乗組員が帰途を旅行する場合
- ③その他必要な場合

(2) 旅費等の算出方法

旅費等算出の基本式は下記のとおりとする。

①宿泊を要しない場合

$$\text{旅費} = \text{人件費} + \text{普通日額旅費} + \text{交通費}$$

注) 交通費とは、鉄道賃、船賃、航空賃、車賃とする。

②宿泊を要する場合

$$\text{旅費} = \text{人件費} + \text{日当} + \text{宿泊費} + \text{交通費}$$

注) 交通費とは、鉄道賃、船賃、航空賃、車賃とする。

旅費は、「国土交通省所管旅費取扱規則」および「国土交通省日額旅費支給規則」に基づき算出する。

(3) 旅費の算出

①普通日額旅費および日当については、下記による。

(a) 宿泊を要しない場合（普通日額旅費）

区 分	職 種	普 通 日 額 旅 費	
		船団長・高級船員	普通船員
行程8キロメートル以上16キロメートル未満 又は引き続き5時間以上8時間未満の場合		536円	481円
行程16キロメートル以上25キロメートル未満 又は引き続き8時間以上の場合		818円	718円
行程25キロメートル以上の場合 (在勤地以外の地に限る)		1,081円	954円

注) 1. 在勤地内の旅行の場合は、計上しない。
2. 上表中の金額は、消費税を含まない額である。

(b) 宿泊を要する場合（日当）

職 種	日 当	摘 要
船団長・高級船員	2,000円	金額は、消費税を含まない額である。
普通船員	1,545円	

注) 鉄道片道50km未満、水路片道25km未満、陸路片道12.5km未満の旅行の場合における日当は、上記表定額の1/2とする。

②宿泊費

職 種	甲 地 方	乙 地 方	摘 要
船団長・高級船員	9,909円	8,909円	金額は、消費税を含まない額である。
普通船員	7,909円	7,090円	

注) 1. 甲地方とは、東京都、千葉市、横浜市、川崎市、大阪市、堺市、名古屋市、京都市、神戸市、広島市、福岡市およびその他これらに準ずる地域で財務省令で定める地域をいい、乙地方とは、甲地方以外の地域をいう。
2. 車中泊が必要な場合には、乙地方相当の宿泊費を計上することができる。
3. 船中泊の場合は宿泊費に替え、船賃に食費が含まれていない場合に限り食卓料を計上することができる。

③鉄道料金

- イ. 片道50km以上100km未満は普通急行料金を計上する。
- ロ. 片道100km以上は特別急行料金を計上する。
- ハ. 急行・特急料金は、急行・特急を通行している路線の場合に適用する。
- ニ. 急行・特急料金の和数は、急行・特急の運行区間を対象とする。

2-3-7 代価表

1) 回航費 1回当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
艀 装 費		式	1	
運 転 費		〃	1	
損 料		〃	1	
回航保険料		〃	1	
検 査 料		〃		
旅 費 等		〃		

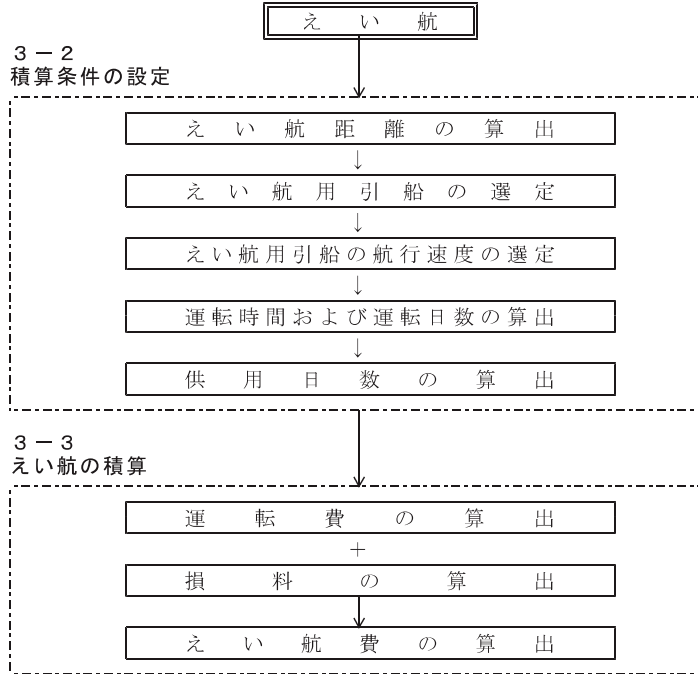
注) 1. 検査料、旅費等は、現場条件により計上する。

3. えい航

えい航に含まれる代価表は、下表のとおりである。

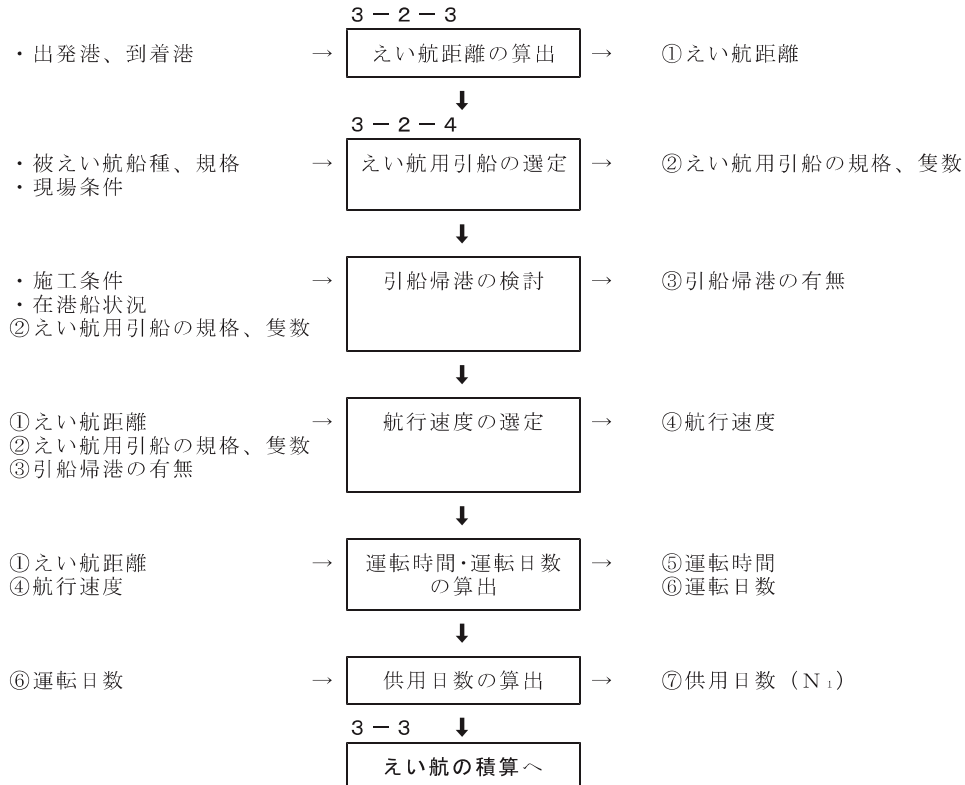
種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
回航・えい航費	えい航	えい航	えい航費 1回当り

3-1 標準的な積算手順



3-2 積算条件の設定

3-2-1 設定手順

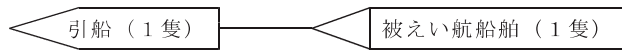


3-2-2 えい航方式

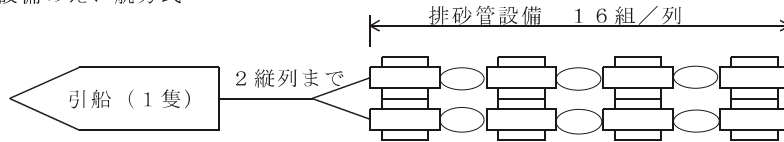
えい航方式は、次を標準とする。

ただし、次によることが不適当な場合は条件等を考慮して別途定める。

1) 非航船舶のえい航方式



2) 排砂管設備のえい航方式



排砂管設備は、原則としてフロータ、排砂管、ジョイント32組をもって1隻とする。

3-2-3 えい航距離の算出

えい航距離は、海上保安庁海洋情報部発行の「海図」により算出することを原則とする。

3-2-4 えい航用引船の選定

1) えい航用引船と被えい航船舶の組合せ

えい航用引船と被えい航船舶の組合せは、「えい航用引船と被えい航船舶の組合せ表」を標準とする。

ただし、気象、海象およびえい航経路の現場状況により、標準組合せが不適当な場合（航行環境が厳しい外洋、狭隘な海域、潮流が速い海域、航行船舶が多い海域をえい航する場合等）は、引船規格、隻数を別途考慮することができる。

2) えい航用引船の帰港の有無

引き続きえい航用引船を本工事で使用する場合は、えい航用引船の費用は片道とする。

3) 航行速度

引船の規格	航行区分	航行距離（片道）	航行速度
鋼D 300PS型	えい航時	25哩未満	4ノット（7.4km/h）
		25哩以上	5 "（9.3 "）
	独航時		7 "（13.0 "）
鋼D 350PS型～ 鋼D 4,000PS型	えい航時	25哩未満	4ノット（7.4km/h）
		25哩以上	5 "（9.3 "）
	独航時		10 "（18.5 "）

4) 運転時間および運転日数の算出

(1) 運転時間

$$\text{運転時間} = \frac{\text{えい航距離（哩またはkm）}}{\text{航行速度（ノットまたはkm/h）}} \quad (\text{小数1位切上げ})$$

(2) 運転日数

$$\text{運転日数} = \frac{\text{運転時間（h）}}{\text{1日当り運転時間（h/日）}} \quad (\text{小数2位四捨五入})$$

1日当り運転時間は航行距離が片道25哩未満の場合は8h/日、25哩以上の場合は16h/日を標準とする。

5) 供用日数の算出

労務費およびえい航用引船、被えい航船舶の損料算定に使用する供用日数（ N_1 ）は以下による。

(1) えい航用引船の供用日数（ N_1 ）の算出

$$N_1 = \text{運転日数} \times 1.30$$

(0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を1日として0.5日単位にする。)

(2) 被えい航船舶等の供用日数（ N_1 ）の算出

えい航用引船のえい航時の供用日数に同じ。

えい航用引船と被えい航船舶の組合せ表

えい航用 引船 (PS型)	被えい航船舶											
	ポンプ 浚渫船 (PS型)	ハロー アロータ 船 (PS型)	空 気 圧送船 (PS型)	グラブ浚渫船			ハックホ 浚渫船 (m ³)	起重機船		杭打船 (型)	サト コンバク ション船 (連装)	サト ドレン 船 (連装)
				普 通 地盤用 (m ³)	硬土盤 用 (m ³)	岩盤用 (m ³)		旋回 (t吊)	固定 (t吊)			
鋼D 300		1,000					1.0			D- 25		
350	1,350	1,600					2.0					
450				2.5				40		H- 65 D- 45		
500		2,000	2,000									
550												
600	2,250	2,500				3.5	3.5			H-125 D- 72 H-150 D- 80		6
800												
1,000	3,200		3,000					100				12
1,200	4,000			5.0	5.5	5.5					3	
1,500				15.0	7.5	7.5		300	1,200			
2,000	6,000					11.5						
2,500									2,000			
3,000	8,000		6,000	30.0								
4,000									3,000			

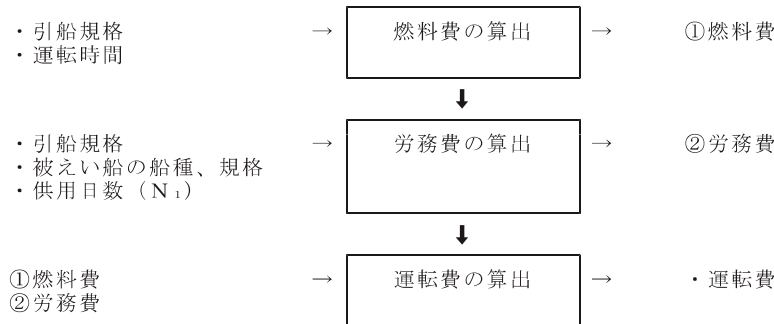
えい航用 引船 (PS型)	被えい航船舶										
	ガット ハロー (m ³)	土運船 (m ³)	台 船 (t積)	クレーン付 台 船 (t吊)	フローティ ン グドック (t積)	コンクリートミキサー船		深層混 合処理 船 (m ²)	排砂管設備		
						ハッチ式 (m ³)	コンテナ 式 (型)		フロータ 長(m)、径(mm)	排砂管 長(m)、径(mm)	
鋼D 300			100							4.5×1,100	6.0× 560
350			200								
450			300	40							
500		300					25				
550											
600				50	1,300						
800	1,000		500	150	1,500				5.0×1,300 ~1,500	6.0×660 ~760	
1,000		650	1,500		2,500	1.0	45				
1,200			2,000								
1,500					3,200	1.5	90	2.2			
2,000		1,300				2.5					
2,500								4.6			
3,000					7,000			5.7			
4,000											

- 注) 1. 土運船、台船については、引船1隻で2隻までえい航できる。
 2. 土運船をえい航する引船規格については、土運船運搬時の作業船の組合せを原則とする。
 3. 上記組合せ表にない大型船舶のえい航用引船規格は、現場条件を考慮して決定する。
 4. 被えい航船舶等の規格範囲の表示がないものについては（まで）と読み取るものとする。
 5. 起重機船（固定）の3,000t吊を超え3,700t吊までは、引船4,000PS型と4,000PS型の2隻引きとする。

3-3 えい航の積算

3-3-1 運転費の算出

1) 代価表作成手順



2) 運転費の算出

$$\text{運転費} = \text{燃料費} + \text{労務費}$$

(1) 燃料費

$$\text{燃料費} = \{ \text{えい航用引船の燃料消費量 (ℓ/h)} \times \text{運転時間 (h)} \} \times \text{燃料単価 (円/ℓ)}$$

({ } は小数 1 位四捨五入、全体は小数 1 位切捨て)

① えい航用引船の燃料消費量 (雑品含む) は「えい航用引船歩掛表」による。

(2) 労務費

(25 哩未満 (航行距離 (片道)) の場合)

$$\text{労務費} = \text{※労務単価} \times \text{※乗組員数} \times \text{供用日数 (N1)} \quad (\text{小数 1 位切捨て})$$

※労務単価は就業 8 時間単価による。

※乗組員数はえい航船舶のほか被えい航船舶も含む。

① えい航用引船の乗組員数は「えい航用引船歩掛表」による。

(25 哩以上 (航行距離 (片道)) の場合)

$$\text{労務費} = (\text{※労務単価} + \text{乗船手当}) \times \text{※乗組員数} \times \text{供用日数 (N1)} \quad (\text{小数 1 位切捨て})$$

※労務単価は「第 1 部 第 2 章 1 節 2-1-2 労務単価の補正 2) 2 交代制の場合の労務単価」による。

※乗組員数はえい航船舶のほか被えい航船舶も含む。

① えい航用引船の乗組員数は「えい航用引船歩掛表」による。

② 乗船手当は「国土交通省日額旅費支給規則」による。

ただし、供用日数 (N1) が、1 日未満の場合は乗船手当を計上しない。

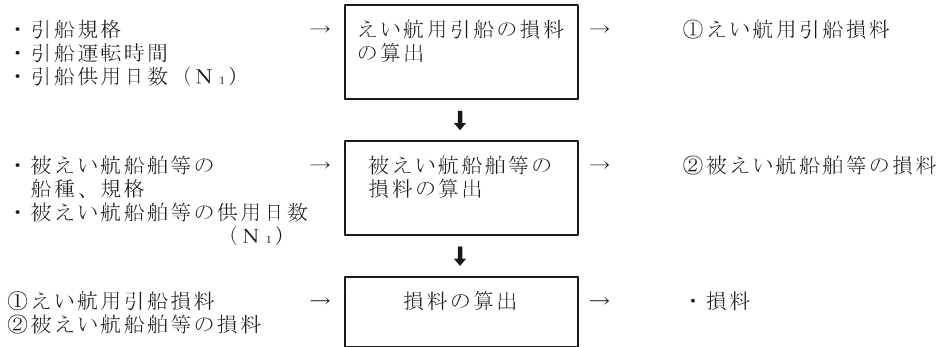
(3) えい航用引船の歩掛

えい航用引船歩掛表

規 格	燃料消費量 (雑品含む) (ℓ/h)	乗 組 員 (人)		摘 要
		高級船員	普通船員	
鋼D 300 PS型	34.3	1	1	
" 350 "	39.8	1	1	
" 450 "	51.3	2	1	
" 500 "	57.0	2	1	
" 550 "	62.8	2	1	
" 600 "	68.4	2	1	
" 700 "	79.8	2	1	
" 800 "	91.1	2	1	
" 1,000 "	114.1	2	1	
" 1,200 "	136.9	3	1	
" 1,500 "	171.0	3	1	
" 2,000 "	228.0	3	1	
" 2,500 "	285.0	3	2	
" 3,000 "	342.1	4	2	
" 4,000 "	456.0	4	3	

3-3-2 損料の算出

1) 代価表作成手順



2) 損料の算出

(1) えい航用引船の損料

$$\text{損料} = \{ \text{運転時間当り損料} \times \text{運転時間} \} + \{ \text{供用日当り損料} \times \text{供用日数} \}$$

({ } 内は各々、小数1位切捨て)

(2) 被えい航船舶等の損料

$$\text{損料} = \text{供用日当り損料} \times \text{供用日数} \quad (\text{小数1位切捨て})$$

(3) 国有の船舶は、損料を計上しない。

3-3-3 代価表

1) えい航費 1回当り

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量	摘 要
運 転 費		式	1	
損 料		〃	1	

(6) 保険料

$$\text{保険金額①} = \text{被回航船舶購入価格⑩} \times 51.5/100$$

被回航船舶船種		基本料率⑫
回航距離	哩	

普通期間保険料

$$\text{保険料} = \text{保険金額①} \times \text{基本料率⑫} \times \text{回航距離係数}$$

航海保険料

$$\text{保険料} = \text{保険金額①} \times \text{基本料率⑫} \times \text{回航距離係数}$$

(7) 検査料 見積書による。

(8) 旅費

$$\text{旅費} = A_1 \times F_1 + A_2 \times F_2 + A_3 \times F_3$$

	職 種	乗組員	8時間単価	宿泊費	普通日額旅費 または 日 当	交通費	計
被回航船舶	船 団 長	A ₁ 人	円	円	円	円	F ₁
	高級船員	A ₂ 人					F ₂
	普通船員	A ₃ 人					F ₃

注) 1. 交通費 = 鉄道運賃 + 特急または急行料金 + 船賃 + 航空賃 + 車賃

2. 被回航船舶のうち主作業船については、船団長1名 + 普通船員2名を除いた乗組員とする。

付属資料－２ えい航積算手順

被えい航船舶 名称 規格 隻数
 えい航用引船 規格 曳航時①ノット 独航時②ノット
 えい航経路等 経路 距離 ③ 哩 往復、片道の別
 えい航日数等 えい航方式 方式

1) 2.5 哩未満 (航行距離 (片道))

	被えい航船舶	えい航用引船	摘要
運転時間	④ = $\frac{③}{①}$	⑦ = $\frac{③}{①} + \frac{③}{②}$	小数1位切上げ
運転日数	⑤ = $\frac{④}{8}$	⑧ = $\frac{⑦}{8}$	小数2位四捨五入
供用日数	⑥ = ⑤ × 1.30	⑨ = ⑧ × 1.30	0.1 未満 … 切捨て 0.1~0.6 … 0.5日 0.6 以上 … 1.0日

(1) 燃料費

燃料費 = {時間当り燃料消費量 (雑品含む) × 運転時間数⑦} × 燃料単価
 ({ } 内は小数1位四捨五入、全体は小数1位切捨て)

(2) 労務費

	職 種	乗組員	8時間単価	摘要
引 船	高級船員	A ₁ 人	B ₁ 円	
	普通船員	A ₂ 人	B ₂ 円	
被えい船	船 団 長	A ₃ 人	B ₃ 円	
	高級船員	A ₄ 人	B ₄ 円	
	普通船員	A ₅ 人	B ₅ 円	

賃金 = (A₁ × B₁ + A₂ × B₂) × ⑨ + (A₃ × B₃ + A₄ × B₄ + A₅ × B₅) × ⑥ (小数1位切捨て)

(3) 損料

合計 { えい航用引船損料 = (運転損料 × 運転時間⑦) + (供用損料 × 供用日数⑨)
 { () 内は各々、小数1位切捨て }
 被えい航船舶損料 = 供用損料 × 供用日数⑥ (小数1位切捨て)

2) 25 哩以上 (航行距離 (片道))

	被えい航船舶	えい航用引船	摘要
運転時間	$\text{④} = \frac{\text{③}}{\text{①}}$	$\text{⑦} = \frac{\text{③}}{\text{①}} + \frac{\text{③}}{\text{②}}$	小数1位切上げ
運転日数	$\text{⑤} = \frac{\text{④}}{16}$	$\text{⑧} = \frac{\text{⑦}}{16}$	小数2位四捨五入
供用日数	$\text{⑥} = \text{⑤} \times 1.30$	$\text{⑨} = \text{⑧} \times 1.30$	0.1 未満 … 切捨て 0.1~0.6 … 0.5日 0.6 以上 … 1.0日

(1) 燃料費

$$\text{燃料費} = \{ \text{時間当り燃料消費量 (雑品含む)} \times \text{運転時間数} \text{⑦} \} \times \text{燃料単価}$$

({ } 内は小数1位四捨五入、全体は小数1位切捨て)

(2) 労務費

	職 種	乗組員	11時間単価	乗船手当	摘 要
引 船	高級船員	A ₁ 人	B ₁ 円	C ₁ 円	11時間単価は2交代制の場合の労務単価の例による。 (第1部 第2章 1節 2-1-2 労務単価の補正)
	普通船員	A ₂ 人	B ₂ 円	C ₂ 円	
被えい船	船 団 長	A ₃ 人	B ₃ 円	C ₃ 円	
	高級船員	A ₄ 人	B ₄ 円	C ₄ 円	
	普通船員	A ₅ 人	B ₅ 円	C ₅ 円	

$$\left. \begin{aligned} \text{合計} \quad & \text{賃金} = (A_1 \times B_1 + A_2 \times B_2) \times \text{⑨} + (A_3 \times B_3 + A_4 \times B_4 + A_5 \times B_5) \times \text{⑥} \\ & \hspace{15em} \text{(小数1位切捨て)} \\ & \text{乗船手当} = (A_1 \times C_1 + A_2 \times C_2) \times \text{⑨} + (A_3 \times C_3 + A_4 \times C_4 + A_5 \times C_5) \times \text{⑥} \\ & \hspace{15em} \text{(小数1位切捨て)} \end{aligned} \right\}$$

(3) 損料

$$\left. \begin{aligned} \text{合計} \quad & \text{えい航用引船損料} = (\text{運転損料} \times \text{運転時間} \text{⑦}) + (\text{供用損料} \times \text{供用日数} \text{⑨}) \\ & \hspace{10em} \{ () \text{内は各々、小数1位切捨て} \} \\ & \text{被えい航船舶損料} = \text{供用損料} \times \text{供用日数} \text{⑥} \hspace{10em} \text{(小数1位切捨て)} \end{aligned} \right\}$$

付属資料－３ 総トン数一覧表

１．被回航船舶総トン数一覧表

被回航船舶	規 格	標 準 形 状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘 要
ポンプ浚渫船	鋼D 1,350PS型	36.0×11.2×2.7	380	
	〃 2,250 〃	44.0×13.4×3.3	690	
	〃 3,200 〃	50.0×15.0×3.8	1,000	
	〃 4,000 〃	54.0×16.0×4.0	1,200	
	〃 6,000 〃	64.0×17.5×4.4	1,700	
	〃 8,000 〃	72.0×19.0×4.8	2,300	
ハブシミアンロータ船	鋼D 420PS型	27.0× 9.0×2.4	210	
	〃 1,000 〃	33.0×10.5×2.6	320	
	〃 1,600 〃	39.0×11.5×2.8	440	
	〃 2,000 〃	43.0×12.5×3.0	570	
	〃 2,500 〃	48.0×13.5×3.1	710	
空気圧送船	鋼D 2,000PS型	35.0×22.0×2.5	680	
	〃 3,000 〃	50.0×25.0×3.0	1,320	
	〃 6,000 〃	60.0×25.0×3.8	2,010	
グラブ浚渫船 (普通地盤用)	鋼D 2.5m ³	23.0×10.0×2.2	180	
	〃 5.0 〃	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 9.0 〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 15.0 〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 23.0 〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船 (硬土盤用)	鋼D 3.5m ³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5 〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5 〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃 11.5 〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船 (岩盤用)	鋼D 3.5m ³	30.0×13.2×2.7	380	
	〃 5.5 〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃 7.5 〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
ハックホリ浚渫船	鋼D 1.0m ³	20.0× 8.9×1.8	110	
	〃 2.0 〃	24.0×10.4×2.1	190	
起重機船 (非航旋回)	鋼D 40t吊	27.3×12.4×2.3	270	
	〃 50 〃	29.5×13.4×2.5	350	
	〃 70 〃	33.0×15.0×2.8	490	
	〃 80 〃	34.5×15.8×2.9	560	
	〃 100 〃	37.0×16.8×3.1	680	
	〃 120 〃	39.5×18.0×3.3	830	
	〃 150 〃	43.0×20.0×3.4	1,000	
	〃 200 〃	47.1×21.6×3.8	1,400	
	〃 250 〃	50.8×23.3×4.1	1,700	
起重機船 (非航固定)	鋼D E 300t吊	50.0×22.7×4.1	1,600	
	〃 500 〃	60.0×27.3×5.0	2,900	
	〃 1,400 〃	85.0×36.0×6.0	9,400	
	〃 2,000 〃	88.0×40.0×7.2	8,900	
	〃 2,200 〃	90.4×41.1×7.4	9,700	
	〃 3,000 〃	100.0×45.5×8.3	13,000	
杭 打 船	D - 25	22.0×11.0×2.2	190	
	〃 - 45	26.0×13.0×2.6	310	
	〃 - 72	36.0×18.0×3.6	820	
	〃 - 80	46.0×19.0×3.6	1,070	
	H - 65	26.0×13.0×2.6	310	
	〃 -125	36.0×18.0×3.6	820	
	〃 -150	46.0×19.0×3.6	1,070	

被回航船舶	規 格	標 準 形 状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘 要
サントトトレン船	6連装 鋼DE 625kW	32.0×20.0×3.0	680	
	12 " " DE 3,052kW	45.0×23.0×3.9	1,400	
サントコンバクション船	3連装 鋼DE 35m	45.0×18.0×3.5	1,000	
	" " 40 "	45.5×20.7×3.8	1,300	
	" " 45 "	50.0×22.8×4.2	1,700	
	" " 50 "	55.0×23.8×4.3	2,000	
	" " 55 "	60.0×25.2×4.5	2,400	
ガットバージ	鋼 1,000m ³ 積	44.9×14.6×4.1	940	
土 運 船	鋼 100m ³ 積	30.5× 8.2×3.1	270	
	" 300 "	35.5× 9.0×3.3	370	
	" 650 "	43.0×10.5×3.7	590	
	" 1,300 "	59.0×13.0×4.5	1,200	
台 船	鋼 100 t積	18.0× 7.0×1.6	70	
	" 150 "	21.0× 9.0×1.7	110	
	" 200 "	24.0×10.0×1.8	150	
	" 300 "	26.0×11.0×2.2	220	
	" 400 "	29.0×12.0×2.3	280	
	" 500 "	32.0×13.0×2.4	350	
	" 700 "	37.0×15.0×2.6	510	
	" 1,000 "	42.0×16.0×3.0	710	
	" 1,500 "	48.0×17.0×3.4	980	
" 2,000 "	54.0×18.0×3.8	1,300		
フローティングトック	鋼 1,300 t積	32.0×24.0× 9.5	2,600	
	" 1,500 "	34.0×26.0×10.0	3,100	
	" 2,000 "	37.0×29.0×11.5	4,400	
	" 2,500 "	39.0×31.0×13.0	5,500	
	" 3,200 "	43.0×33.0×13.7	6,900	
	" 4,000 "	48.0×33.5×14.5	8,200	
	" 6,000 "	56.0×40.5×16.5	13,000	
	" 7,000 "	58.2×41.9×17.9	15,000	
トルフィントック	鋼 1,300 t積	24.2×23.2× 4.7	930	
	" 1,700 "	26.6×24.9× 6.0	1,400	
	" 2,500 "	30.5×27.4× 8.3	2,450	
コンクリートミキサー船	(ハッチ式)			
	鋼DE 1.0 m ³ 338kW	37.4×16.2×3.3	710	
	" 1.5 " 530kW	44.2×18.3×3.8	1,090	
	" 2.0 " 633kW	49.8×19.9×4.3	1,500	
	" 2.5 " 736kW	54.6×21.3×4.6	1,890	
	(コンテナ式)			
	鋼DE 25型 177kW	30.0×13.0×2.8	390	
	" 45 " 279kW	35.0×15.0×3.0	560	
" 90 " 434kW	43.0×20.0×3.6	1,100		
深層混合処理船	2.2m ² 809kW	36.0×15.5×2.8	560	
	4.6m ² 2,059KW	52.8×24.2×4.0	1,800	
	5.7m ² 3,457KW	54.6×28.3×4.3	2,300	

2. 自力回航船舶総トン数一覧表

自力回航船舶	規 格	総トン数(t)	摘 要
起 重 機 船 (自航旋回)	鋼D 50 t 吊	230	
	" 70 "	320	
	" 100 "	460	
	" 120 "	550	
	" 150 "	690	
	" 200 "	920	
引 船	鋼D 200PS型	15	
	" 250 "	20	
	" 300 "	25	
	" 350 "	30	
	" 450 "	35	
	" 500 "	40	
	" 550 "	45	
	" 600 "	50	
	" 700 "	60	
	" 800 "	70	
	" 1,000 "	90	
	" 1,200 "	100	
	" 1,500 "	130	
	" 2,000 "	180	
	" 2,500 "	220	
" 3,000 "	330		
" 4,000 "	450		
揚 錨 船	鋼D 3 t 吊	10	
	" 5 "	20	
	" 10 "	40	
	" 15 "	60	
	" 20 "	80	
	" 25 "	100	
	" 30 "	125	
" 35 "	145		
押 船	鋼D 1,300PS型	150	
	" 2,000 "	200	

補足資料－１ 間接工事費（回航・えい航費）

1. 平水区域

平水区域とは、「船舶安全法施行規則」により定められる、湖、川及び港内の水域をいう。
この場合において港の区域は、「港則法」に基づく港の区域「港域」とする。

2. 往復・片道の考え方

往復の回航（えい航）費の対象船舶であっても、当該工事の完了後、引き続き現場付近で使用見込みのある場合や当該工事現場付近を次期工事のための基地として利用する場合等は、片道（往路）のみの計上となる。そのため、他事業の利用計画も含めて契約時期の状況を十分状況把握した上で決定する。

3. 作業船回航の動静確認

回航費の計上については、「当該工事現場付近で使用の見込みがある場合」及び「当該工事現場を次期工事のため基地として利用する場合」は往路のみ計上する。このため、復路の回航費と別件工事による回航費の2重計上を防止するため、回航後の動静確認を確実に把握する。

4. 排砂管設備の回航方式

フロータの回航で32組を超える場合は、次式による。

全数（N）／32組＝n（小数1位切り上げ）

$N / n = \text{〇組の回航}$

（例 6000ps用 標準70組……70／32＝2.1≒3

70／3より 23組×2回、24組×1回）

5. 回航・えい航距離の算定

海上保安庁海洋情報部編集の「距離表」、（社）日本海運集会所発行「内航距離表」または海図等により算出する。

6. 船舶回航費における乗組員の労務単価

1) 回航費算定に用いる乗組員の労務単価は、工事施工場所の労務単価とする。

2) 船団長の乗船手当は、高級船員を適用する。

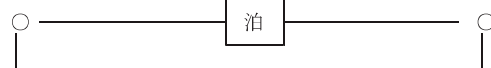
7. 回航費の算定における乗組員の旅費算定

1) 上乗り以外の被回航船舶乗務員（船団長、高級船員、普通船員）の旅行日は被回航船舶艙装解除日とし、人件費（8時間単価：人件費は半日程度であっても1日分計上する）・普通日額旅費・交通費を計上し、宿泊費は計上しない。但し、移動所要日数が1日を越える場合は別途考慮する。
なお、回航における艙装については、回航専門業者が行うため乗組員の基準日額は原則として計上しない。

2) 宿泊を要しない場合は、旅行日1日以内とする。
旅行日1日以内とは、出発から目的地迄の到着が、その日のうちに可能な場合とする。

3) 宿泊を要する場合は、旅行日1日を越える場合とする。
旅行日1日を越える場合とは、旅程が長距離に亘り、出発から目的地迄の到着に必ず宿泊（車中泊）を要する場合とする。

（例） 出 発 車中泊 目的地に到着



旅行日1泊2日

※車中泊として宿泊費を計上する

4) 交通費は消費税を含まない額を積上げる。（所要額×100/110）

5) 交通費はシーズンに関係なく「通常期料金」とする。

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

2 節

運 搬 費

2 節 運搬費（土木基準による）

第 5 章

間 接 工 事 費 の 施 工 歩 掛

3 節

準 備 費

3節 準備費

1. 総則

1-1	適用範囲	-----	5-3-1
1-2	積算ツリー	-----	5-3-1
1-3	積算フロー	-----	5-3-1

2. 準備費

2-1	代価表作成手順	-----	5-3-1
2-2	施工歩掛	-----	5-3-1

3. 準備費（海岸）

3-1	繋船費	-----	5-3-2
3-2	退避	-----	5-3-2
3-3	交通船	-----	5-3-2
3-4	回航またはえい航	-----	5-3-2

3 節 準備費

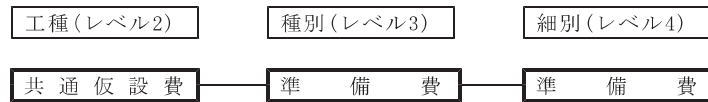
1. 総則

1-1 適用範囲

準備費のうち、積上げ計算による費用の算定に適用する。

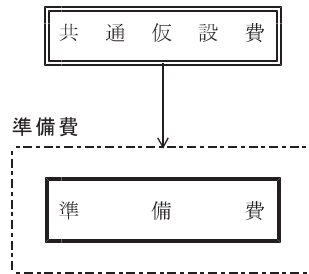
ただし、本基準によることが著しく不相当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

1-3 積算フロー

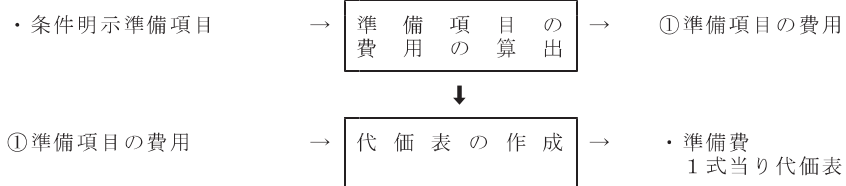


2. 準備費

準備費に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
準備費	準備費	準備費	準備費 1式当り

2-1 代価表作成手順



2-2 施工歩掛

1) 代価表

(1) 準備費 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
準備費		式	1	

3. 準備費（海岸）

3-1 繫船費

作業船の休転中の労務費であり、以下による。

- (1) 海象条件不良による休転日……………繫船費対象とする。
- (2) 休日等による休転日……………繫船費対象外とする。
- (3) 運転準備、後片付け期間……………繫船費対象とする。
- (4) 休転率

$$(A-B-C) / C$$

A：供用日数（運転準備、後片付け期間を含む）

B：休日等による休転日数

C：海上作業可能日数（休日などに係る日を除く）

- (5) 繫船日数
作業日数（全作業量／1日当り作業量）×休転率
- (6) 繫船費対象労務員
各船舶の船員を対象とする。

3-2 退避

現地作業途中で降雨、波浪等の気象、海象条件により退避する場合の経費で、引船の損料および燃料費を計上する。

この場合、労務費は、繫船費に含まれる。

航行速度は、平均速度5.5km/hとする。

計上日数は、各海岸の実績による（参考値は1ヶ月当り2～3日程度が多い）。

3-3 交通船

「第2章 工事費の積算 2節 間接工事費 2. 共通仮設費 ②海上輸送に要する補正」を適用する。

3-4 回航またはえい航

「第5章 間接工事費の施工歩掛 1節 回航・えい航費」を適用する。

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

4 節

事業損失防止施設費

4節 事業損失防止施設費

1. 総則	
1-1 適用範囲	5-4-1
1-2 積算ツリー	5-4-1
1-3 積算フロー	5-4-1
1-4 数量計算等	5-4-1
2. 水質汚濁防止膜	
2-1 適用範囲	5-4-2
2-2 施工フロー	5-4-2
2-3 汚濁防止膜設置・撤去	
2-3-1 代価表作成手順	5-4-2
2-3-2 施工方式	5-4-3
2-3-3 施工歩掛	5-4-3
2-4 汚濁防止膜移設	
2-4-1 代価表作成手順	5-4-3
2-4-2 施工方式	5-4-3
2-4-3 施工歩掛	5-4-4
2-5 汚濁防止膜保守管理	
2-5-1 代価表作成手順	5-4-4
2-5-2 施工方式	5-4-4
2-5-3 施工歩掛	5-4-4
2-6 汚濁防止膜清掃	
2-6-1 代価表作成手順	5-4-5
2-6-2 施工方式	5-4-5
2-6-3 施工歩掛	5-4-5
3. 水質汚濁防止柵	
3-1 適用範囲	5-4-5
3-2 施工フロー	5-4-5
3-3 代価表作成手順	5-4-6
3-4 汚濁防止柵の規格選定	5-4-6
3-5 施工歩掛	5-4-6
付属資料	
付属資料-1 汚濁防止膜の運搬費	5-4-(1)
補足資料	
補足資料-1 間接工事費（事業損失防止施設費）	5-4-(2)

4 節 事業損失防止施設費

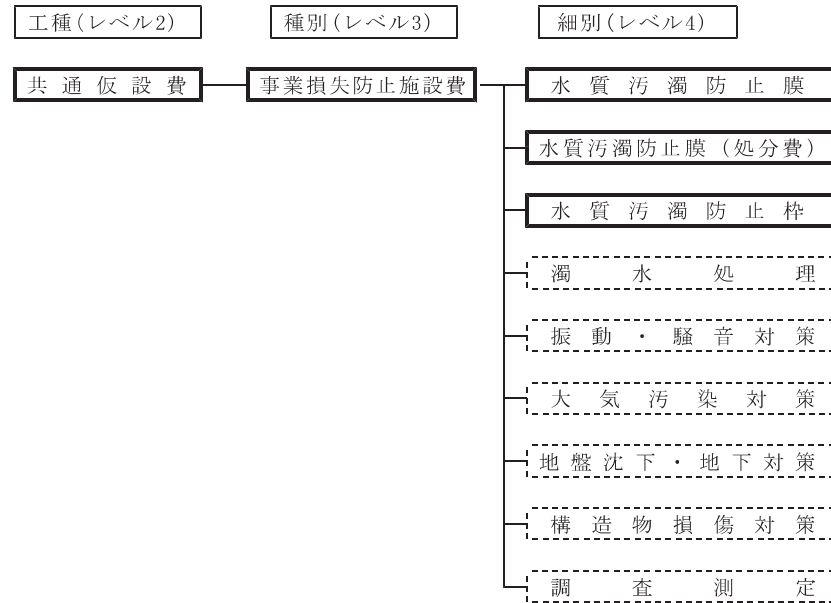
1. 総則

1-1 適用範囲

工事の施工に伴って発生する事業損失を未然に防止するために必要な仮設備の設置・撤去、ならびに維持補修に要する費用の算定に適用する。

ただし、本基準によることが著しく不適當又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

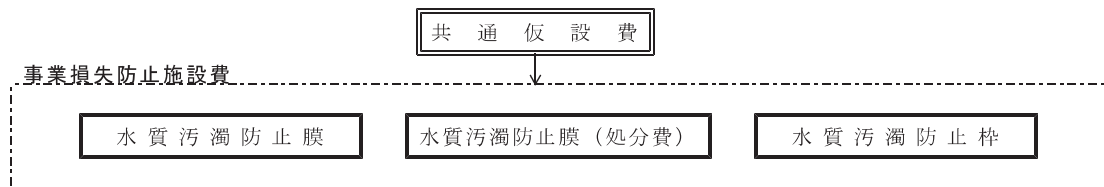
1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

 : 施工条件を勘案し別途積算する施工歩掛 (未制定歩掛)

1-3 積算フロー



1-4 数量計算等

1) 集計数値

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		単位	数 位	摘 要
事業損失防止施設費	水質汚濁防止膜	汚濁防止膜設置・撤去	汚濁防止膜延長	m	1位止を原則とする。	四捨五入
		汚濁防止膜移設				
		汚濁防止膜保守管理	汚濁防止膜設置期間	日		
		汚濁防止膜清掃	汚濁防止膜面積	m ²		
	水質汚濁防止枠	汚濁防止枠設置・撤去	汚濁防止枠基数	基		

2. 水質汚濁防止膜

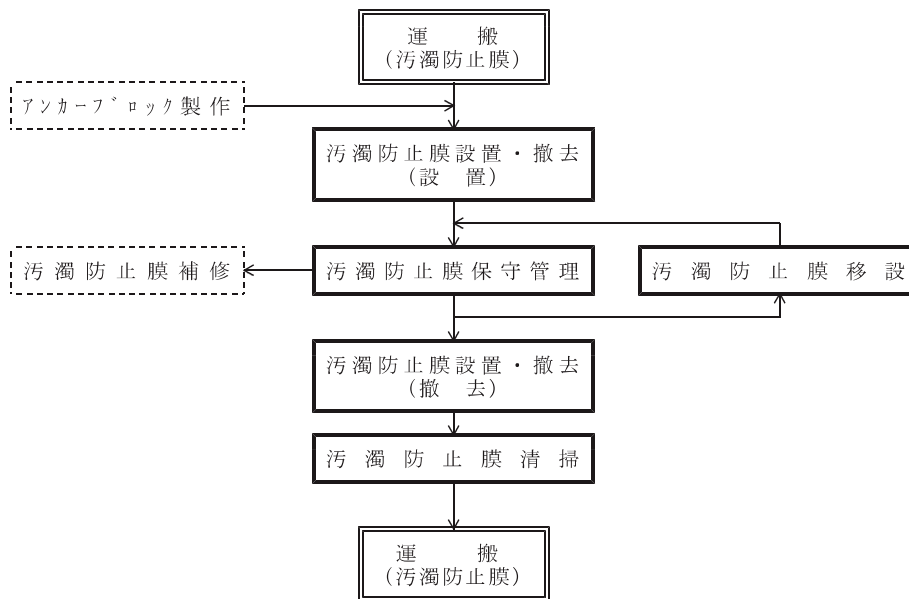
水質汚濁防止膜に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
事業損失防止 施設費	水質汚濁防止膜	汚濁防止膜 設置・撤去	汚濁防止膜設置 120m当り
			汚濁防止膜撤去 120m当り
		汚濁防止膜移設	汚濁防止膜賃料 1式当り
			汚濁防止膜移設 120m当り
	汚濁防止膜保守管理	汚濁防止膜点検 1式当り	
水質汚濁防止膜 (処分費)	汚濁防止膜清掃 (処分費)	汚濁防止膜清掃 100m ² 当り	
		処分費 1式当り	

2-1 適用範囲

本項は、汚濁防止膜の設置・撤去、移設および保守管理等に適用する。

2-2 施工フロー

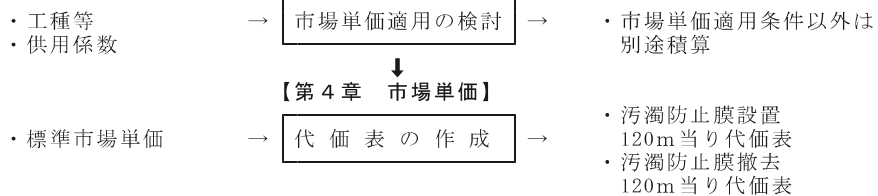


注) 本項の歩掛は、 の部分である。

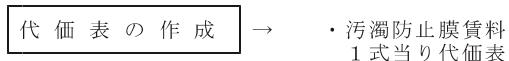
2-3 汚濁防止膜設置・撤去

2-3-1 代価表作成手順

[汚濁防止膜設置・撤去の積算]



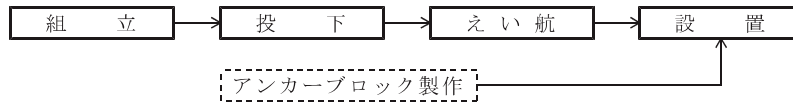
[汚濁防止膜賃料]



2-3-2 施工方式

1) 作業内容

(1) 汚濁防止膜設置



注) : 別途計上

(2) 汚濁防止膜撤去



2-3-3 施工歩掛

1) 代価表

(1) 汚濁防止膜設置 120m 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚濁防止膜設置	クレーン込み	m	120	市場単価

注) アンカーブロック製作は、別途計上する。

(2) 汚濁防止膜撤去 120m 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚濁防止膜撤去	クレーン込み	m	120	市場単価

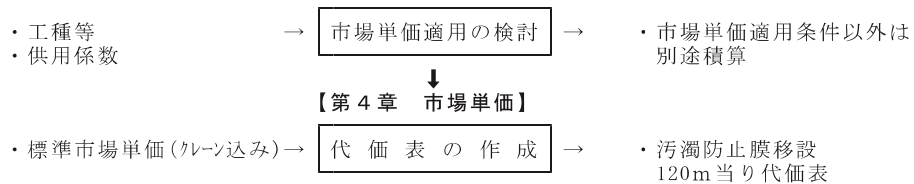
(3) 汚濁防止膜賃料 1 式 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚濁防止膜賃料		式	1	

注) 汚濁防止膜賃料は、「第 1 部 第 2 章 1 節 2-2-1 材料単価」による。

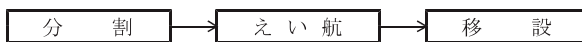
2-4 汚濁防止膜移設

2-4-1 代価表作成手順



2-4-2 施工方式

1) 作業内容



2-4-3 施工歩掛

1) 代価表

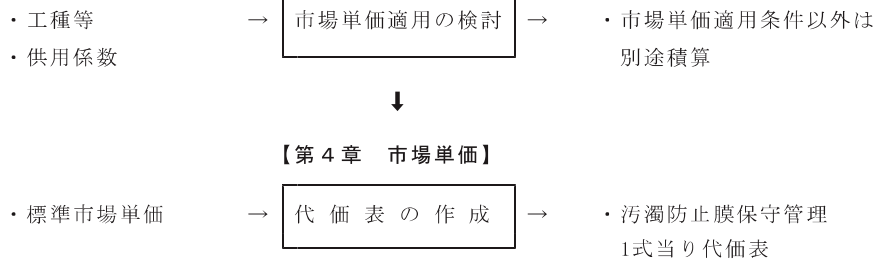
(1) 汚濁防止膜移設 120m 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚濁防止膜移設		m	120	市場単価

2-5 汚濁防止膜保守管理

2-5-1 代価表作成手順

[汚濁防止膜保守管理の積算]



2-5-2 施工方式

1) 汚濁防止膜保守管理は、3日に1回の点検を標準とする。

2-5-3 施工歩掛

1) 代価表

(1) 汚濁防止膜保守管理 1式当り

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
汚濁防止膜点検		回		市場単価

[計 算 例]

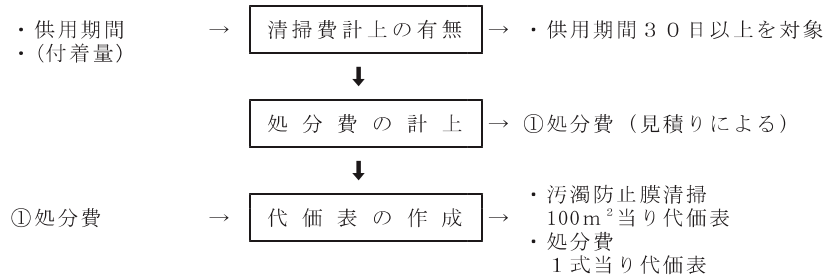
条件：施工延長 700m，対象期間 70日

点検回数

$$70日 \times 1回 / 3日 = 23回 \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

2-6 汚濁防止膜清掃

2-6-1 代価表作成手順



2-6-2 施工方式

1) 供用期間 30 日以上を対象とし、清掃範囲はカーテン高 4 m までとする。

2-6-3 施工歩掛

1) 代価表

(1) 汚濁防止膜清掃 100m² 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.1	標準運転時間
普通作業員		人	0.5	
雑 材 料				

(2) 処分費 1 式 当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
処 分 費		式	1	見積りによる

3. 水質汚濁防止枠

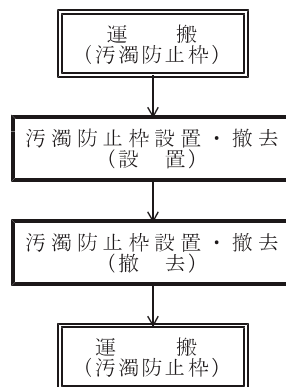
水質汚濁防止枠に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
事業損失防止 施設費	水質汚濁防止枠	汚濁防止枠 設置・撤去	汚濁防止枠設置 1基当り 汚濁防止枠撤去 1基当り
			汚濁防止枠撤去 1基当り
			汚濁防止枠損料等 1式当り

3-1 適用範囲

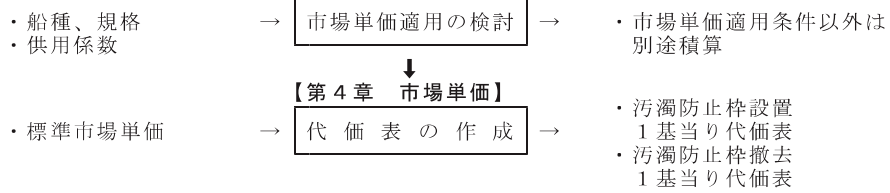
本項は、汚濁防止枠の設置・撤去等に適用する。

3-2 施工フロー



注) 本項の歩掛は、の部分である。

3-3 代価表作成手順



3-4 汚濁防止枠の規格選定

グラフ浚渫船については、下表を標準とする。

グラフ浚渫船の船種・規格		汚濁防止枠		摘 要
普通地盤用	硬土盤用、岩盤用	規 格	形状寸法	
鋼D 2.5 ~ 5m ³	鋼D 3.5m ³	2.5 ~ 5m ³ 用	14×14m	
鋼D 9 ~ 15m ³	鋼D 5.5m ³ ~ 7.5m ³	9 ~ 15m ³ 〃	20×20〃	
鋼D 23 ~ 30m ³	鋼D 11.5m ³	23 ~ 30m ³ 〃	22×22〃	

3-5 施工歩掛

1) 代価表

(1) 汚濁防止枠設置 1基当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚 濁 防 止 枠 設 置	クレーン込み	基	1	市場単価

(2) 汚濁防止枠撤去 1基当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
汚 濁 防 止 枠 撤 去	クレーン込み	基	1	市場単価

(3) 汚濁防止枠損料等 1式当り

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
汚 濁 防 止 枠		式	1	損料
汚 濁 防 止 膜 費 用		〃	1	

注) 1. 汚濁防止膜費用は、別途算定する。

2. 汚濁防止枠および汚濁防止膜は、組立1日・組外1日を計上する。

付属資料－１ 汚濁防止膜の運搬費

①運搬費

貨物自動車運賃は、国土交通省認可「一般貨物自動車運送事業に係る標準的な運賃」による。なお、車扱運賃料金の適用は、原則として「距離制運賃料金」により、往復運賃を積算する。

トラック１台当りの積載数量は下表による。

汚濁防止膜積載数量表

	単独フロート	連続フロート(φ300)	連続フロート(φ400)
4t車	20 ～ 120m	－	－
10t車	140 ～ 240m	20 ～ 200m	20 ～ 120m

補足資料－1 間接工事費（事業損失防止施設費）

1. 汚濁防止膜の清掃に係わる処分量

汚濁防止膜の清掃に係わる処分量の算定方法については、以下とする。

ただし、その付着量は各海域ごとに異なり、以下の算定式により難しい場合は別途考慮する。

$$\text{付着物処分量} = 0.03(\text{m}^3/\text{m}^2) \times \text{汚濁防止膜延長(m)} \times \text{カーテン高さ(4mまで)}$$

2. 汚濁防止膜賃料対象日数

汚濁防止膜賃料の算定に使用する供用日数は、下記を標準とする。

$$\begin{aligned} \text{供用日数} = & \text{浚渫等施工数量} \div \text{1日当り作業量} \times \text{供用係数} + \text{設置} \cdot \text{撤去日数} + \text{搬入} \cdot \text{搬出日数(2日)} \\ & + \text{その他必要な日数} \end{aligned}$$

(小数1位切り上げ)

$$\begin{aligned} \text{(設置) 組立} \cdot \text{投下} & : \text{設置延長} \times 0.5\text{日} / 120\text{m} \times \text{陸上供用係数(1.65)} & \text{(小数2位四捨五入)} \\ \text{えい航} \cdot \text{設置} & : \text{設置延長} \times 0.7\text{日} / 120\text{m} \times \text{海上供用係数(当該ランク)} & \text{(小数2位四捨五入)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(撤去) 撤去} \cdot \text{えい航} & : \text{撤去延長} \times 0.7\text{日} / 120\text{m} \times \text{海上供用係数(当該ランク)} & \text{(小数2位四捨五入)} \\ \text{陸揚} \cdot \text{組外} & : \text{撤去延長} \times 0.5\text{日} / 120\text{m} \times \text{陸上供用係数(1.65)} & \text{(小数2位四捨五入)} \end{aligned}$$

$$\text{(移設) えい航} \cdot \text{設置} : \text{移設延長} \times 0.7\text{日} / 120\text{m} \times \text{海上供用係数(当該ランク)} \quad \text{(小数2位四捨五入)}$$

3. 汚濁防止枠損料対象日数

汚濁防止枠損料の算定に使用する供用日数は、下記を標準とする。

$$\begin{aligned} \text{供用日数} = & \text{浚渫施工数量} \div \text{1日当り作業量} \times \text{供用係数} + \text{枠取付} \cdot \text{取外日数(1日)} \\ & + \text{枠(膜)組立} \cdot \text{組外日数(2日)} \times \text{陸上供用係数(1.65)} + \text{枠(膜)搬入} \cdot \text{搬出日数(2日)} \\ & + \text{その他必要な日数} \end{aligned}$$

(小数1位切り上げ)

第 5 章

間 接 工 事 費 の 施 工 歩 掛

5 節

安 全 費

5節 安全費

1. 総則

1-1	適用範囲	-----	5-5-1
1-2	積算ツリー	-----	5-5-1
1-3	積算フロー	-----	5-5-1

2. 標識

2-1	施工フロー	-----	5-5-2
2-2	灯浮標設置撤去		
2-2-1	代価表作成手順	-----	5-5-2
2-2-2	施工歩掛	-----	5-5-2
2-3	灯浮標・標識灯維持管理		
2-3-1	代価表作成手順	-----	5-5-3
2-3-2	施工歩掛	-----	5-5-3

3. 安全対策

3-1	巡視・保安		
3-1-1	代価表作成手順	-----	5-5-4
3-1-2	施工歩掛	-----	5-5-4
3-2	安全監視船		
3-2-1	代価表作成手順	-----	5-5-4
3-2-2	施工歩掛	-----	5-5-4

5 節 安全費

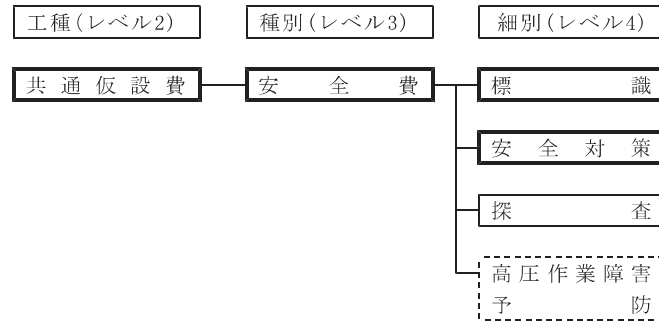
1. 総則

1-1 適用範囲

安全費のうち、灯標類の設置・維持管理および撤去、各種安全管理および安全監視船等に要する費用の算定に適用する。

ただし、本基準によることが著しく不相当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

1-2 積算ツリー

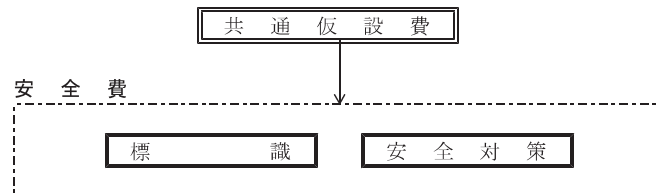


注) : 本節で取扱う施工歩掛

: 他の施工歩掛により積算する施工歩掛

: 施工条件を勘案し別途積算する施工歩掛 (未制定歩掛)

1-3 積算フロー

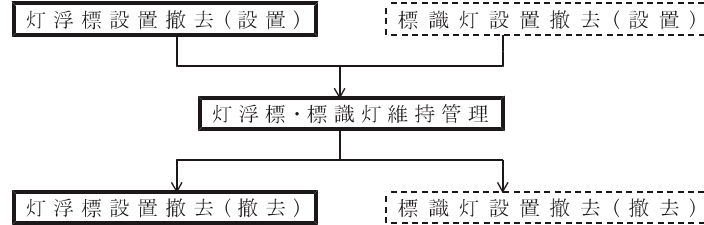


2. 標 識

標識に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
安 全 費	標 識	灯浮標設置撤去	灯浮標設置(撤去) 1式当り
		灯浮標・標識灯維持管理	灯浮標・標識灯維持管理 1式当り

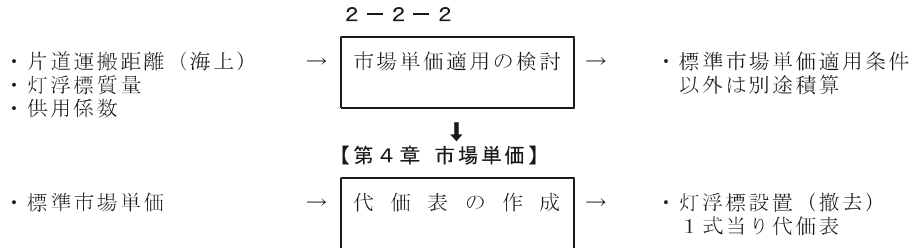
2-1 施工フロー



注) 本項の歩掛は、 の部分である。

2-2 灯浮標設置撤去

2-2-1 代価表作成手順



2-2-2 施工歩掛

1) 代価表

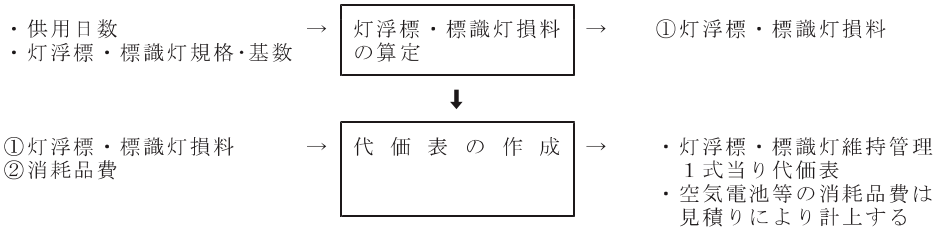
(1) 灯浮標設置(撤去) 1式当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
灯浮標設置(撤去)		個		市場単価

注) 設置、撤去および移設を行う場合は、各々の費用を計上する。

2-3 灯浮標・標識灯維持管理

2-3-1 代価表作成手順



2-3-2 施工歩掛

1) 灯浮標・標識灯の損料算出

灯浮標・標識灯損料 = (供用日数 + 搬入・搬出日数[2日]) × 1日当り供用損料額 × 灯浮標・標識灯基数

注) 供用日数とは、設置から撤去までの日数とし、日数の端数処理は少数1位切り上げとする。

2) 消耗品費

品名	消耗品費 (%)	摘要
灯浮標	5	
標識灯		

3) 代価表

(1) 灯浮標・標識灯維持管理 1式当り

名称	規格	単位	数量		摘要
			灯浮標	標識灯	
灯浮標		式	1	—	損料
標識灯		〃	—	1	損料
消耗品費		%	5		損料の%

注) 通常の乾電池 (単1) 以外 (空気電池等) を使用する場合は、消耗品費は見積り等により計上する。

3. 安全対策

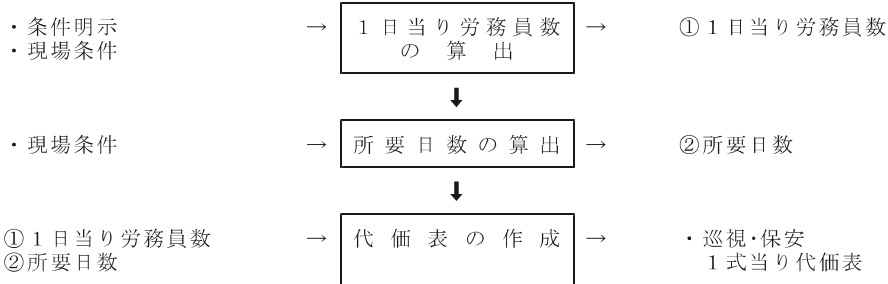
安全対策に含まれる代価表は、下表のとおりである。

なお、関係施設等に近接した工事現場の出入り口等に配置する一般交通誘導を伴わない安全管理員等に要する費用に適用する。

種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	積算要素 (レベル6)	
安全費	安全対策	巡視・保安	巡視・保安 1式当り
		安全監視船	安全監視船 1式当り

3-1 巡視・保安

3-1-1 代価表作成手順



3-1-2 施工歩掛

1) 代価表

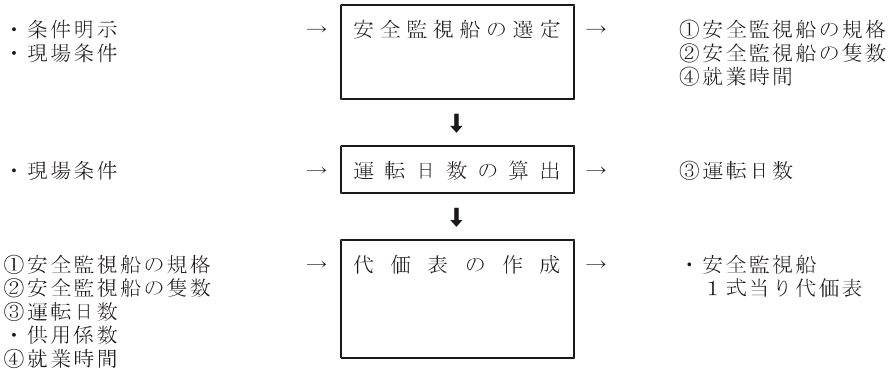
(1) 巡視・保安 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
交通誘導警備員B		人		
雑材料				

注) 交通誘導警備員の人数については、現場条件により決定する。

3-2 安全監視船

3-2-1 代価表作成手順



3-2-2 施工歩掛

1) 代価表

(1) 安全監視船 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
安全監視船	FRPD 180PS型	日		就業 H
安全監視船	FRPD 260PS型	日		就業 H
国際VHF装備		日		損料
雑材料				

注) 1. 安全監視船の規格は180PS型を標準とし、国際VHF装備使用の場合は260PS型を標準とする。

2. 安全監視船の規格は、現場条件により他規格を使用できる。

3. 安全監視船の就業時間は、監視対象船舶の就業時間と同一とする。

4. 国際VHF装備損料=供用1日当り損料×α (供用係数)

第 5 章

間 接 工 事 費 の 施 工 歩 掛

6 節

役 務 費

6 節 役務費

1. 総則

1-1	適用範囲	-----	5-6-1
1-2	積算ツリー	-----	5-6-1
1-3	積算フロー	-----	5-6-1

2. 借上げ料等

2-1	土地借上げ・道路占有料		
2-1-1	代価表作成手順	-----	5-6-2
2-1-2	施工歩掛	-----	5-6-2
2-2	電力・用水基本料		
2-2-1	代価表作成手順	-----	5-6-2
2-2-2	施工歩掛	-----	5-6-2

補足資料

補足資料-1	間接工事費（役務費）	-----	5-6-(1)
--------	------------	-------	---------

6節 役務費

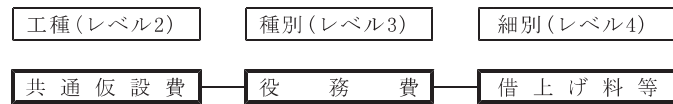
1. 総則

1-1 適用範囲

仮設工事、材料置場等の土地借上げおよび道路等の占有に要する費用、ならびに電力・用水等基本料の算定に適用する。

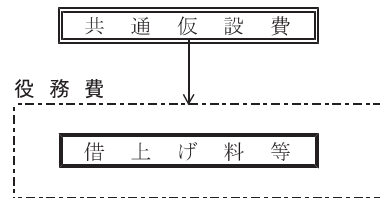
ただし、本基準によることが著しく不相当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

1-3 積算フロー



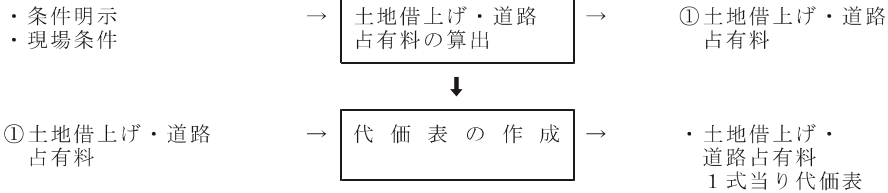
2. 借上げ料等

借上げ料等に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
		役 務 費	借 上 げ 料 等
		電力・用水基本料	電力・用水基本料 1式当り

2-1 土地借上げ・道路占有料

2-1-1 代価表作成手順



2-1-2 施工歩掛

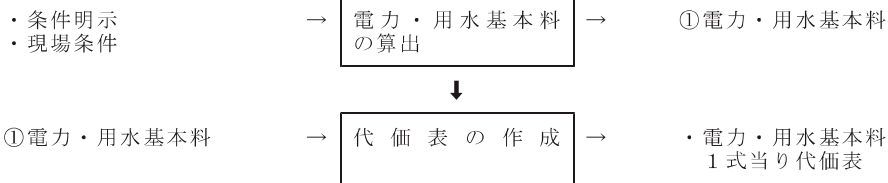
1) 代価表

(1) 土地借上げ・道路占有料 1式当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
土 地 借 上 げ 料		式	1	見積りによる
道 路 占 有 料		〃	1	〃

2-2 電力・用水基本料

2-2-1 代価表作成手順



2-2-2 施工歩掛

1) 代価表

(1) 電力・用水基本料 1式当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
電 力 基 本 料		式	1	見積りによる
用 水 基 本 料		〃	1	〃

補足資料－1 間接工事費（役務費）

1. 係船・施設使用料

工事実施に伴い必要となる係船・施設使用料は、役務費として計上することができる。

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

7 節

技術管理費

7節 技術管理費（土木基準による）

第 5 章

間接工事費の施工歩掛

8 節

水雷・傷害等保険料

8節 水雷・傷害等保険料

1. 総則

1-1	適用範囲	-----	5-8-1
1-2	積算ツリー	-----	5-8-1
1-3	積算フロー	-----	5-8-1

2. 水雷保険料

2-1	適用範囲	-----	5-8-2
2-2	代価表作成手順	-----	5-8-2
2-3	積算方法	-----	5-8-2

3. 傷害保険料

3-1	適用範囲	-----	5-8-3
3-2	代価表作成手順	-----	5-8-3
3-3	積算方法	-----	5-8-3

参考資料

参考資料-1	水雷・傷害保険の変更契約の扱い	-----	5-8-(1)
参考資料-2	動産総合保険の取扱い	-----	5-8-(2)

8 節 水雷・傷害等保険料

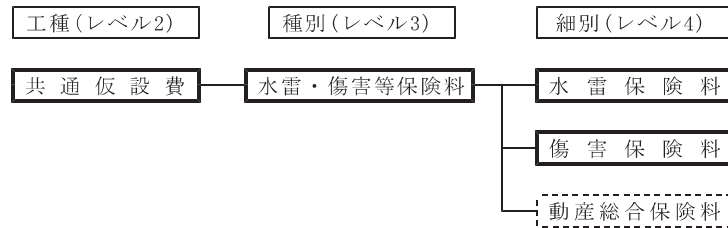
1. 総則

1-1 適用範囲

危険区域等で工事を施工する場合に付保する水雷・傷害等の保険料の算定に適用する。

ただし、本基準によることが著しく不相当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

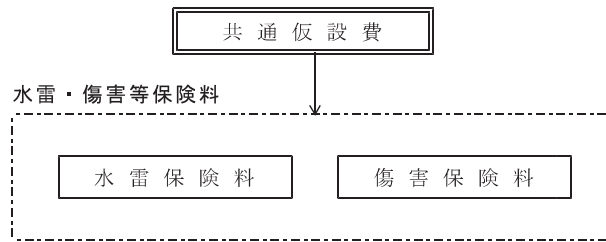
1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

: 施工条件を勘案し別途積算する施工歩掛 (未制定歩掛)

1-3 積算フロー



2. 水雷保険料

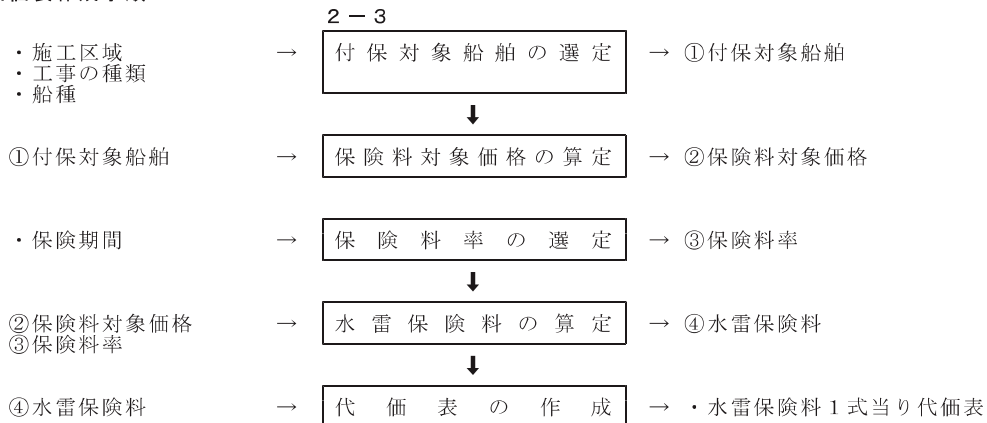
水雷保険料に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
水雷・傷害等保険料	水雷保険料	水雷保険料	水雷保険料	1式当り

2-1 適用範囲

浚渫、床掘および地盤改良、杭打工事等に從事する船舶に付保する水雷保険に適用する。また、これらの工事と同程度に海底をかく乱または海底に衝撃を与える工事についても同様に適用する。

2-2 代価表作成手順



2-3 積算方法

1) 付保対象船舶

付保する対象船舶は、下表のとおりとする。また、これらの船舶と同程度に海底をかく乱または海底に衝撃を与える船舶についても同様に適用する。

付保対象船舶
ポンプ浚渫船 グラブ浚渫船 バックホウ浚渫船 土運船 サンドドレーン船 サンドコンパクション船 杭打船 深層混合処理船 潜水土船（潜水探査）

注) 付属船は、現場条件により付保することができる。

2) 保険料の算定

水雷保険料は、下式により算定する。

$$\text{水雷保険料} = \left[\left\{ \text{保険料対象価格} \times \frac{\text{保険料率}(\%)}{100} \right\} \div 1.10 \right] \times \text{対象船舶の隻数}$$

([] は小数3位切捨て、 { } は小数1位切捨て、全体は小数1位切捨て)

注) 1. 1隻の最低保険料は5,000円とする。

2. 船舶乗組員に対する船主責任を附帯させることを原則とする。

(1) 保険料対象価格

「船舶および機械器具等の損料算定基準」に示す基礎価格の51.5%とする。

(2) 保険料率

保険期間	3ヶ月まで	6ヶ月まで	9ヶ月まで	12ヶ月まで
保険料率(%)	0.00313	0.00625	0.00938	0.01250

注) 1. 保険期間は、供用日数を対象とする。ただし、断続施工の場合は、それぞれの供用日数とする。

2. 保険期間が12ヶ月を超える場合は、別途考慮する。

3) 代価表

(1) 水雷保険料 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
水雷保険料		式	1	

3. 傷害保険料

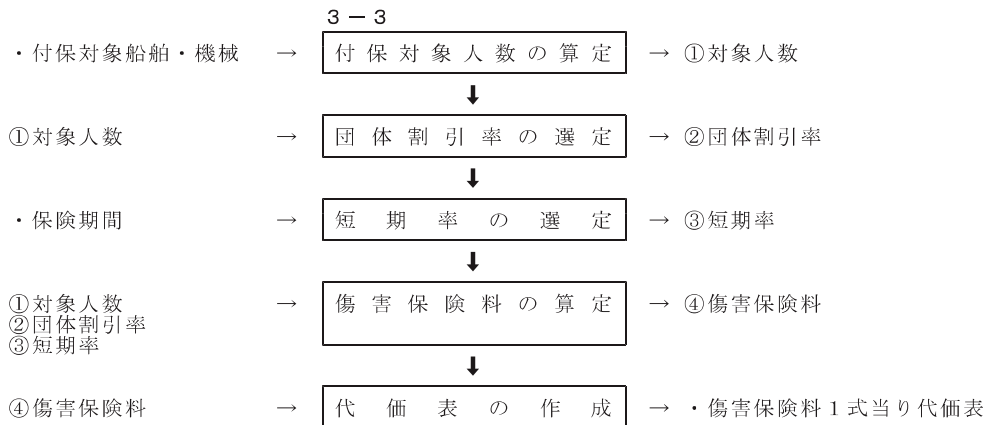
傷害保険料に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
水雷・傷害等保険料	傷 害 保 険 料	傷害保険料	傷害保険料	1 式当り

3-1 適用範囲

海上および陸上の危険区域に従事する潜水土、作業員および運転手（付保対象船舶・機械の中で作業する潜水土、作業員および運転手は除く）に付保する傷害保険に適用する。

3-2 代価表作成手順



3-3 積算方法

1) 保険料の算定

傷害保険は、下式により算定する。

$$\text{傷害保険料} = [\{ \text{保険金額} \times (\text{年間基本料率} \times \text{団体制引率} \times \text{短期率}) \} \div 1.10] \times \text{人数}$$

（ ）は小数6位四捨五入、{ }は小数1位切捨て、[]は小数3位切捨て、全体は小数1位切捨て）

(1) 保険金額

1人当り3,000万円とする。（普通傷害保険）

対象職種は、直接作業に従事する潜水土・作業員等とする。

(2) 年間基本料率

0.00100 とする。

(3) 団体制引率

付保人数	団体制引率
20名以上 100名未満	0.95 (5%引き)
100名以上 500名未満	0.90 (10%引き)

(4) 短期率

保険期間	7日まで	15日まで	1ヶ月まで	2ヶ月まで	3ヶ月まで	4ヶ月まで	5ヶ月まで
短期率	0.10	0.15	0.25	0.35	0.45	0.55	0.65
保険期間	6ヶ月まで	7ヶ月まで	8ヶ月まで	9ヶ月まで	10ヶ月まで	11ヶ月まで	12ヶ月まで
短期率	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00

注) 保険期間は、付保対象船舶・機械の供用日数を対象とする。ただし、断続施工の場合は、それぞれの供用日数とする。

2) 代価表

(1) 傷害保険料 1式当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
傷害保険料		式	1	

参考資料－１ 水雷・傷害保険の変更契約の扱い

1) 保険契約締結前の場合

変更後の条件で、保険料を算定する。

2) 保険契約締結後に変更契約する場合

(1) 増額の場合

原積算を不変とし、これに増額相当分の保険料を加算する。ただし、増額相当分を算出する保険対象日数は、変更後の保険日数から原積算の保険日数を控除したものとする。

(2) 減額の場合

原積算を変更しない。

3) その他の扱い

上記の他、付保条件以外の事故等が生じた場合は、保険会社に照会の上、適正に積算計上する。

4) 変更積算の算定例

保険の種類	変更時期	ケース	保険対象期間		変更積算	
			原積算	変更後	保険対象期間	保険期間
水雷保険	保険契約日前	1	80日	95日	95日	6ヶ月
		2	80 "	90 "	90 "	3 "
		3	95 "	80 "	80 "	3 "
	保険契約日後	1	80 "	95 "	90日＋5日	3ヶ月＋(3ヶ月)
		2	80 "	90 "	90日	3ヶ月
		3	95 "	90 "	95 "	6 "
傷害保険	保険契約日前	1	80 "	95 "	95 "	4 "
		2	80 "	90 "	90 "	3 "
		3	95 "	80 "	80 "	3 "
	保険契約日後	1	80 "	95 "	90日＋5日	3ヶ月＋(7日まで)
		2	80 "	90 "	90日	3ヶ月
		3	95 "	90 "	95 "	4 "

注) () は増額相当分の保険料を算出する場合の保険日数を示す。

参考資料－２ 動産総合保険の取扱い

陸上建設機械の損料価格の中には、年間管理費として動産総合保険料相当額が含まれている。ただし、この保険料は「**動産総合保険普通保険約款**」に基づくもので、残存爆発物等に起因する損害については免責事項となっている。しかし、免責事項は各保険会社の運用状況に多少の相異があるため、動産総合保険に特約を付保する必要がある場合は、保険会社に前記の点を照会の上適切な額を計上する。

第 5 章

間 接 工 事 費 の 施 工 歩 掛

9 節

営 繕 費

9 節 営繕費（土木基準による）

第 5 章

間 接 工 事 費 の 施 工 歩 掛

1 0 節

現 場 環 境 改 善 費

10節 現場環境改善費

1. 総則

- 1-1 適用範囲 ----- 5-10-1
- 1-2 積算ツリー ----- 5-10-1
- 1-3 積算フロー ----- 5-10-1

2. 現場環境改善費

- 2-1 代価表作成手順 ----- 5-10-1
- 2-2 施工歩掛 ----- 5-10-1

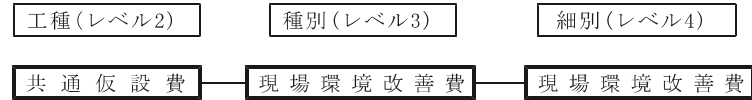
10節 現場環境改善費

1. 総則

1-1 適用範囲

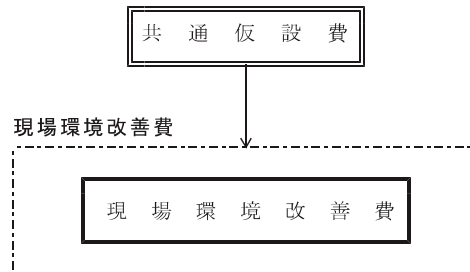
現場環境改善費のうち、積上げ計算による費用の算定に適用する。

1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛

1-3 積算フロー

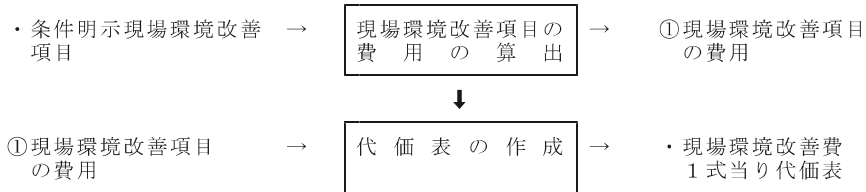


2. 現場環境改善費

現場環境改善費に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
現場環境改善費	現場環境改善費	現場環境改善費	現場環境改善費	1式当り

2-1 代価表作成手順



2-2 施工歩掛

1) 代価表

(1) 現場環境改善費 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
現場環境改善費		式	1	見積りによる

第 6 章

船舶および機械器具等単価表

目 次

1. ポンプ浚渫船	-----	11
2. グラブ浚渫船		
①普通地盤用	-----	11
②硬土盤用	-----	12
③岩盤用	-----	12
3. バックホウ浚渫船	-----	12
4. バージアンローダ船	-----	13
5. サンドドレーン船	-----	13
6. サンドコンパクション船	-----	14
7. 深層混合処理船	-----	14
8. 杭打船	-----	17
9. ケーソン製作用台船		
①フローティングドック	-----	17
②ドルフィンドック	-----	17
10. コンクリートミキサー船		
①バッチ式	-----	18
②コンティニアス式	-----	18
11. 起重機船（非航）		
①固定式	-----	19
②旋回式	-----	20
12. 起重機船（自航旋回）	-----	21
13. クレーン付台船	-----	21
14. ガット船	-----	22
15. ガットバージ	-----	22
16. 揚錨船	-----	23
17. 引船	-----	24
18. 押船	-----	28
19. 潜水士船	-----	29
20. 安全監視船	-----	30
21. 土運船（曳航）	-----	30
22. 土運船（押航）	-----	31
23. 砂貯蔵船	-----	31
24. 台船	-----	32
25. 空気圧送船	-----	32
26. 海岸関連	-----	33
27. 交通船	-----	34
28. トラッククレーン	-----	34
29. ラフテレーンクレーン	-----	34
30. クローラクレーン	-----	34
31. クローラ式杭打機	-----	35
32. クローラ式サンドパイル打機	-----	35
33. ペーパードレーン施工機	-----	35
34. トラック	-----	36
35. トレーラ	-----	36
36. ブルドーザ	-----	36
37. クローラローダ	-----	37
38. ホイールローダ	-----	37
39. ダンプトラック	-----	37
40. バックホウ	-----	38
41. クラムシェル	-----	38
42. モータグレーダ	-----	38
43. タイヤローラ	-----	38

44.	ロードローラ	-----	39
45.	振動ローラ	-----	39
46.	タンバ	-----	39
47.	アスファルトフィニッシャ	-----	40
48.	コンクリートフィニッシャ	-----	40
49.	コンクリートスプレッダ	-----	40
50.	コンクリートレベラ	-----	40
51.	振動目地切機	-----	41
52.	ジョイントシーラ	-----	41
53.	インナバイブレータ	-----	41
54.	散水車	-----	41
55.	コンクリート簡易仕上機	-----	41
56.	コンクリートカッタ	-----	42
57.	コンクリートポンプ車	-----	42
58.	空気圧縮機	-----	42
59.	発動発電機	-----	43
60.	溶接機	-----	45
61.	水中ポンプ	-----	45
62.	グラウトポンプ	-----	45
63.	パイプロハンマ	-----	45
64.	パイプロハンマ用ウォータージェット	-----	46
65.	ウォータージェット（ジェット併用パイプロ）	-----	46
66.	鋼管チャック（ジェット併用パイプロ）	-----	47
67.	さく岩機	-----	47
68.	スタッド溶接装置および施工管理計	-----	47
69.	ディストリビュータ	-----	48
70.	コンクリートパケット	-----	48

以下の単価表は、各節の施工歩掛で「参考資料」で使用する作業船舶機械である。

71.	起重機船（非航固定）	-----	49
72.	深層混合処理機	-----	49
73.	スラリープラント	-----	49
74.	揚土船（リクレーマ船）	-----	50
75.	捨石均し船	-----	50
76.	ペーパードレーン（液状化対策）施工機	-----	51
77.	グラベルドレーン施工機	-----	51
78.	グラベルドレーン（締固め式）施工機	-----	51
79.	水中バックホウ	-----	52
80.	バックホウ（バックホウ揚土）	-----	52
81.	杭打船	-----	52
82.	クローラ式杭打機	-----	53
83.	事前混合処理設備	-----	53
84.	発動発電機（事前混合処理 陸上）	-----	53
85.	高所作業車（事前混合処理）	-----	53
86.	二軸同軸式アースオーガ機（先行掘削 海上）	-----	54
87.	発動発電機（先行掘削 海上）	-----	54
88.	全回転型オールケーシング掘削機（先行掘削 海上）	-----	54
89.	油圧式スパッド台船	-----	55
90.	クローラクレーン（先行掘削 海上）	-----	55
91.	バックホウ（先行掘削 海上）	-----	55

1. 燃料消費量

燃料消費量は、以下により算出する。

$$\begin{aligned} \text{運転1日当り燃料消費量} &= \text{運転1時間当り燃料消費量} \times \text{運転時間} && (\text{小数1位四捨五入}) \\ \text{運転1時間当り燃料消費量} &= \text{燃料消費率(雑品含む)} \times \text{機関出力} && (\text{作業船は小数2位四捨五入}) \\ &&& (\text{陸上機械は有効数字3位四捨五入}) \end{aligned}$$

なお、燃料消費率(雑品含む)および運転時間は、それぞれ「別表-1」、「別表-2」による。

2. 供用日数

2-1 作業船および付属品等

作業船および船員の運転1日当り供用日数(M)は、船舶供用係数(α)、船員供用係数(β)（「第2章 工事費の積算、1節 直接工事費、2-5 供用日数の算定」を参照）とする。 α および β の値は、当該施工海域の気象・海象条件等を考慮して設定する。全国主要港湾の α ならびに β は、それぞれ「別表-3」、「別表-4」による。なお、 β は、船員の時間外割増手当および深夜割増手当を考慮した係数である。

2-2 機械器具等

機械器具等の運転1日当り供用日数(M)は、以下による。

$$M = \frac{\text{年間標準供用日数}}{\text{年間標準運転日数}} \quad (\text{小数3位四捨五入})$$

なお、年間標準供用日数、年間標準運転日数は、「船舶および機械器具等の損料算定基準」による。

3. 建設機械運転労務

3-1 適用職種

建設機械の運転・操作にかかわる職種区分は、下表のとおりとする。

職 種	適 用 建 設 機 械
運転手（特殊）	特殊免許、資格等を必要とする建設機械
運転手（一般）	上記以外で、公道を走行する建設機械

3-2 労務歩掛

機械運転1日当りの労務歩掛は、以下による。

$$\begin{aligned} \text{歩掛} &= \text{運転1時間当り労務歩掛} \times \text{標準運転時間} (T_2) \\ &= \frac{1}{T_1} \times T_2 && (\text{小数3位四捨五入}) \end{aligned}$$

- 注) 1. T_1 および T_2 は運転日当り運転時間で、「船舶および機械器具等の損料算定基準」における年間標準運転時間および年間標準運転日数より算出する。（小数2位四捨五入）
なお、 T_1 は4～7時間について適用するものとし、 T_1 が4時間未満の場合は4時間を、7時間を超える場合は7時間を使用する。
2. 日当り施工歩掛に対する単価表の労務歩掛は指定事項となり、その運転労務数量による。

4. 賃料を適用する機械器具

適用機種は、以下による。

- ・トラッククレーン
- ・ラフテレーンクレーン
- ・クローラクレーン（油圧駆動式）
- ・発動発電機
- ・空気圧縮機

5. 職種の定義

潜水世話役および船団長の職務の定義は、下表のとおりである。

職 種	定 義
潜水世話役	潜水関係作業について相当程度の技術を有し、指導的業務を行うもの
船 団 長	海上作業船団の本船船長で、船団の指揮・監督業務を行うもの

6. 供用係数適用に当たっての留意事項

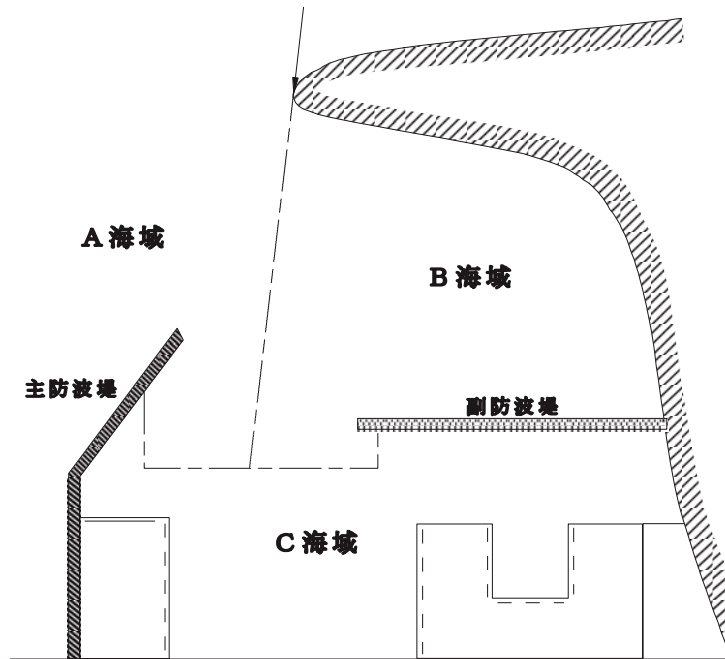
- 1) 船舶供用係数ランクと船員供用係数ランクは、同一ランクとする。
- 2) 「別表-3」における船舶供用係数は、各港の気象・海象条件の厳しい海域における係数ランクを表示した。
- 3) 各港とも、自然の地形や防波堤等により遮蔽された港内作業に適用する船舶供用係数は、「ランク1」とする。
- 4) 同一港湾内に「別表-3」の表示ランクと「ランク1」の間の気象・海象条件に該当する海域（地区）がある場合には、当該海域の荒天実績を考慮して表示ランクと「ランク1」の間の任意ランクを設定することができる。
- 5) 係数ランクが異なった複数の海域で連携して作業を行う場合は、上位の係数ランクを適用する。
- 6) 「別表-3」に掲載されていない港湾における係数ランクは、原則として当該港湾が所在する海域および荒天実績等を勘案し決定する。なお、荒天実績が把握されていない場合には、実績を把握するまでの間、係数が設定されている近隣類似港湾の係数ランクを考慮して設定する。

<参考例1 同一港において、海象条件の大きく異なる複数海域で事業を実施している場合>

A海域：主防波堤の築造工事施工箇所は、当港の最も気象・海象条件の厳しい海域なので係数ランクは、別表-3に掲載されている「ランク6」を採用する。

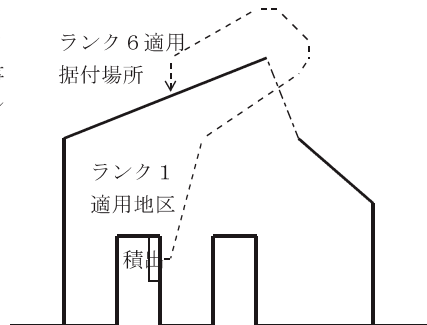
B海域：港の利用率を向上させるための、副防波堤の築造工事施工箇所は、半島の遮蔽域に当る海域で、推定の換算年間荒天日数は100日なので、「ランク3」を運用することとした。

C海域：岸壁築造工事施工箇所は、年間を通じて静穏な港内であり、留意事項の3)を適用し、「ランク1」を採用する。



<参考例2 消波ブロックを港内の積出施設から積出し、防波堤に据付（乱積）する場合>

積出施設およびブロック据付地区場所の供用係数ランクがそれぞれ「ランク1」、「ランク6」であれば、留意事項の5)を適用し、当該工事の供用係数ランクは、「ランク6」を採用する。



別表 1 燃料消費率

1) 作業船の燃料消費率

作業船名	燃料種類	単位	燃料消費率 (含雑品)	
ポンプ浚渫船	重油A	ℓ/kW・h	0.337	
グラブ浚渫船	〃	〃	0.176	
バックホウ浚渫船	免税軽油	〃	0.197	
バージアンローダ船	重油A	〃	0.481	
空気圧送船	〃	〃	0.256	
サンドドレーン船	〃	〃	0.158	
サンドコンパクション船	〃	〃	0.158	
深層混合処理船	〃	〃	0.141	
フローティングトック	1,300 t 積	免税軽油	ℓ/h	21.2
	1,500 t 〃	〃	〃	21.7
	2,000 t 〃	〃	〃	22.9
	2,500 t 〃	〃	〃	24.2
	3,200 t 〃	〃	〃	25.9
	4,000 t 〃	〃	〃	27.8
	6,000 t 〃	〃	〃	32.7
	7,000 t 〃	〃	〃	35.1
コンクリートミキサー船	重油A	ℓ/kW・h	0.238	
杭打船	杭打船	〃	〃	0.191
	ディーゼルハンマ	免税軽油	ℓ/t・h	7.648
	油圧ハンマ	〃	ℓ/kW・h	0.181
非航起重機船	重油A	〃	0.191	
自航起重機船	航行	〃	〃	0.191
	積込・積卸	〃	〃	0.191
クレーン付台船	免税軽油	〃	0.167	
ガット船	航行	重油A	〃	0.277
	積込・排出	〃	〃	0.277
ガットバージ	〃	〃	0.191	
揚錨船	〃	〃	0.155	
引船	〃	〃	0.155	
押船	〃	〃	0.155	
潜水士船	免税軽油	〃	0.108	
交通船	重油A	〃	0.146	
安全監視船	〃	〃	0.046	
船外機船	ガソリン	〃	0.209	

注) t : ディーゼルハンマの燃料消費量を求める際のラム質量 (ト)

2) 陸上機械の燃料消費率

機 械 名	燃 料 類	単 位	燃 料 消 費 率 (含雑品)
トラッククレーン	軽油	ℓ/kW・h	0.044
クローラクレーン	〃	〃	0.076
ラフテレーンクレーン	〃	〃	0.088
クローラ式	ヘースマシン	〃	0.085
杭打機	油圧ハンマ	〃	0.181
クローラ式サンドパイル打機	〃	〃	0.085
ペーパードレーン施工機	〃	〃	0.188
トラック	〃	〃	0.043
交通車(ライトバン)	ガソリン	〃	0.047
クレーン付トラック	軽油	〃	0.043
トレーラ	〃	〃	0.075
ブルドーザ	〃	〃	0.153
ボーリングマシン	ボーリングマシン	〃	0.151
	グランドボブ	〃	0.207
クローラローダ	〃	〃	0.153
ホイールローダ	〃	〃	0.153
ダンプトラック	〃	〃	0.043
バックホウ	〃	〃	0.153
クラムシエル	〃	〃	0.153
モータグレーダ	〃	〃	0.108
タイヤローラ	〃	〃	0.085
ロードローラ	〃	〃	0.118
振動ローラ(ハトガ付式)	〃	〃	0.231
振動ローラ(搭乗式)	〃	〃	0.160
タンバ	ガソリン	〃	0.346
アスファルトフィニッシャ	軽油	〃	0.147
コンクリートフィニッシャ	〃	〃	0.122
コンクリートスプレッダ	〃	〃	0.122
コンクリートレベラ	〃	〃	0.122
振動目地切機	ガソリン	〃	0.233
インナバイブレータ	軽油	〃	0.122
散水車	軽油	〃	0.044
コンクリート簡易仕上機	〃	〃	0.122

機 械 名	燃 料 類 種	単 位	燃 料 消 費 率 (含雑品)
コ ン ク リ ー ト カ ッ タ	ガソリン	ℓ/kW・h	0.227
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車	軽 油	〃	0.078
空 気 圧 縮 機	〃	〃	0.187
発 動 発 電 機	〃	〃	0.145
	ガソリン	〃	0.436
溶 接 機	軽 油	〃	0.261
バ イ ブ レ ー タ	ガソリン	〃	0.347
ベ ル ト コ ン ベ ヤ	〃	〃	0.512
ウ ォ ー タ ー ジ ェ ッ ト	軽 油	〃	0.192
エ ン ジ ン ス プ レ ー ヤ	ガソリン	〃	0.227

別表 2 1 日の運転時間

1) 作業船の運転時間

作業船名	規格	運転時間(h)	摘要
ポンプ浚渫船	全規格	16.0	
クラブ浚渫船	〃	8.0	
バックホウ浚渫船	〃	8.0	
バー吉安ローダ船	〃	作業能力	
空気圧送船	〃	作業能力	
サンドドレーン船	〃	8.0	
サンドコンパクション船	〃	8.0	
深層混合処理船	〃	14.0	
フローティングドック	〃	6.0	
コンクリートミキサー船	〃	作業能力	
杭打船	〃	6.0	
非航起重機船	〃	作業能力	2, 4, 6h
自航起重機船	〃	6.0	
クレーン付台船	〃	作業能力	2, 4, 6h
ガット船	〃	8.0	
ガットバージ	〃	8.0	
引船	〃	作業能力	2, 4, 6, 8h
潜水士船	〃	6.0	
船外機船	〃	6.0	

なお、次の船舶の燃料算出における運転時間は、下表のとおりとする。

作業船名		運転時間 (h)
自航起重機船	航行	3.0
	積込・積卸	3.0
ガット船	航行	4.0
	積込・排出	4.0
交通船		4.0
安全監視船	就業 8 H	6.0
	就業 10 H	8.0
	就業 22 H	16.0
揚錨船		4.0
杭打船	クラブ浚渫船 (スパット式)	2.0
	杭打船	6.0
	ハンマ	6.0×0.4

2) 陸上機械の運転時間

機 種	規 格	運転時間 (h)	摘 要
トラッククレーン	賃料を対象	7.0	
クローラクレーン	油圧駆動式、賃料を対象	7.0	
ラフテレーンクレーン	賃料を対象	7.0	
クローラ式杭打機	油圧	6.2	
クローラ式サンドパイル打機	パイプロ式	6.0	
ペーバードレーン施工機		6.9	
ト ラ ッ ク		4.7	
	クレーン付	5.8	
ト レ ー ラ	15~70 t 積	6.3	
ブ ル ド ー ザ	3 t 級、15 t 級	5.3	
	21 t 級、32 t 級	6.3	
	湿地16 t 級	5.3	
	湿地20 t 級	6.3	
クローラローダ		4.7	
ホ イ ールローダ		4.7	0.8m ³ 、1.2m ³ 、 1.9~2.1m ³
		5.0	3.1~3.3m ³
ダンプトラック		5.9	
バックホウ		6.3	
クラムシエル		6.3	
モーターグレーダ	油圧式	5.1	
タイヤローラ		5.1	
ロードローラ		5.1	
振 動 ロ ー ラ	ハンドガイド式	5.1	
	搭乗式 タンデム型	4.6	
	搭乗式コンバインド型	4.0	
アスファルトフィニッシャ	クローラ型	5.0	
コンクリートフィニッシャ		6.4	
コンクリートスプレッダ		6.0	
コンクリートレベラ		6.4	
インナバイブレータ		5.7	
散 水 車		5.5	
コンクリートポンプ車		6.9	

なお、次の機械の燃料算出における運転時間は、下表のとおりとする。

機 種	運 転 時 間 (h)	
ベルトコンベヤ	6.0	
コンクリート簡易仕上機	6.0	
コンクリートカッタ	5.0	
エンジンスプレーヤ	5.0	
グラウトミキサ	6.0	
グラウトポンプ	6.0	
溶 接 機	陸上施工	6.0
	海上施工	5.0
タ ン パ	5.0	
ジョイントシーラ	4.0	
ディストリビュータ	4.3	
発 動 発 電 機	陸上施工	6.0
	海上施工	5.0
空 気 圧 縮 機	陸上施工	6.0
	海上施工	5.0
クローラ式杭打機	ベースマシン	6.2
	ハンマ	6.2×0.4
水中バックホウ	5.0	
ボーリングマシン	6.0	

別表－3 全国主要港湾の供用係数

係数 ランク	船 供用係数 (a)	換算年間 荒天日数	適 用 港 湾 の 明 細										
			北陸地方 整備局管内	東北地方 整備局管内	関東地方 整備局管内	中部地方 整備局管内	近畿地方 整備局管内	中国地方 整備局管内	四国地方 整備局管内	九州地方 整備局管内	北海道 開発局管内	沖縄総合 事務局管内	
1	1.65	24日以下	七尾港 敦賀港	青森港 仙台釜釜港 (塩釜港区)	東京港 川崎港 横浜港 横須賀港 千葉港 木更津港 東京湾口航路 (中ノ瀬航路) (浦賀水道航路)	名古屋港 衣浦港 三河港 四日市港 津松阪港	舞鶴港 大阪港 堺泉北港 神戸港 姫路港	宇野港 水島港 尾道糸崎港 呉港 広島港 福山港 境港 小野田港 宇部港 三田尻中関港 岩国港 徳山下松港 油谷港 音戸瀬戸航路	徳島小松島港 高松港 三島川之江港 松山港 今治港 宿毛湾港 東予港 備讃瀬戸航路 来島海峡航路	下関港 北九州港 菊田港 博多港 三池港 唐津港 伊万里港 郷ノ浦港 長崎港 佐世保港 熊本港 八代港 本瀬瀬戸航路 鹿兒島港 別府港 大分港 佐伯港 中津港 関門航路 平戸瀬戸航路	稚内港 船泊港 霧多布港 (琵琶瀬)	中城湾港 石垣港 竹富南航路	
2	1.80	25～72日 以下	伏木富山港	宮古港		清水港	和歌山下津港		四国西南航路	北九州港 (響灘地区) 福江港	網走港 小樽港 函館港 根室港 (根室地区) 余市港 奥尻港 森港 天売港 増毛港 鶴泊港 鬼脇港 香深港 霧多布港 (浜中) 石狩湾新港 松前港		
3	2.05	73～120日 以下	新潟港 直江津港	大船渡港						須崎港 上川口港	敵原港 志布志港 名瀬港	紋別港 留萌港 根室港 (花咲地区) 岩内港 瀬棚港 江差港 焼尻港 羽幌港 枝幸港 宗谷港 杵形港 室蘭港	平良港
4	2.25	121～144日 以下	輪島港 福井港 金沢港	深浦港 能代港 秋田港 酒田港 仙台釜釜港 (仙台港区) (石巻港区)		田子の浦港 中山水道航路	日高港 柴山港	鳥取港 浜田港	室津港 高知港		撥法華港 えりも港 天塩港 苫小牧港 (西港区)		
5	2.45	145～168日 以下		釜石港		御前崎港					白老港 浦河港 苫小牧港 (東港区)		
6	2.65	169～192日 以下		相馬港						細島港		那覇港	
7	2.90	193～216日 以下		小名浜港		下田港				宮崎港	釧路港		
8	3.20	217～240日 以下		むつ小川原港 八戸港 久慈港	茨城港 (常陸那珂地区)						十勝港		
9	3.70	241～264日 以下			鹿島港								

別表－４ 就業時間別の船員供用係数

船舶供用係数(α)と就業時間別船員供用係数(β) (1ワッチ制)

係 数 ランク	船舶供用係数 (α)	就業時間別の船員供用係数(β)								備 考
		就業時間 8H		就業時間 9H		就業時間 10H		就業時間 11H		
		[超勤時間 0H]		[超勤時間 1H]		[超勤時間 2H]		[超勤時間 3H]		
		[深夜時間 0H]		[深夜時間 0H]		[深夜時間 0H]		[深夜時間 0H]		
		船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	
1	1.65	1.20	1.20	1.32	1.32	1.43	1.43	1.55	1.55	
2	1.80	1.30	1.30	1.42	1.42	1.53	1.53	1.65	1.65	
3	2.05	1.45	1.45	1.57	1.57	1.68	1.68	1.80	1.80	
4	2.25	1.60	1.60	1.72	1.72	1.83	1.83	1.95	1.95	
5	2.45	1.70	1.70	1.82	1.82	1.93	1.93	2.05	2.05	
6	2.65	1.80	1.80	1.92	1.92	2.03	2.03	2.15	2.15	
7	2.90	1.95	1.95	2.07	2.07	2.18	2.18	2.30	2.30	
8	3.20	2.15	2.15	2.27	2.27	2.38	2.38	2.50	2.50	
9	3.70	2.40	2.40	2.52	2.52	2.63	2.63	2.75	2.75	

船舶供用係数(α)と就業時間別船員供用係数(β) (2ワッチ制)

係 数 ランク	船舶供用係数 (α)	就業時間別の船員供用係数(β)								備 考
		就業時間 16H		就業時間 18H		就業時間 20H		就業時間 22H		
		[超勤時間 0H]		[超勤時間 2H]		[超勤時間 4H]		[超勤時間 6H]		
		[深夜時間 1H]		[深夜時間 3H]		[深夜時間 4H]		[深夜時間 6H]		
		船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	船団長・高級船員	普通船員	
1	1.65	1.21	1.21	1.35	1.35	1.48	1.48	1.62	1.62	
2	1.80	1.31	1.31	1.45	1.45	1.58	1.58	1.72	1.72	
3	2.05	1.46	1.46	1.60	1.60	1.73	1.73	1.87	1.87	
4	2.25	1.61	1.61	1.75	1.75	1.88	1.88	2.02	2.02	
5	2.45	1.71	1.71	1.85	1.85	1.98	1.98	2.12	2.12	
6	2.65	1.81	1.81	1.95	1.95	2.08	2.08	2.22	2.22	
7	2.90	1.96	1.96	2.10	2.10	2.23	2.23	2.37	2.37	
8	3.20	2.16	2.16	2.30	2.30	2.43	2.43	2.57	2.57	
9	3.70	2.41	2.41	2.55	2.55	2.68	2.68	2.82	2.82	

- 注) 1. 別表－４における就業時間別船員供用係数(β)は、就業時間8H[超勤時間0H 深夜時間0H]の場合を除き、令和5年3月から適用の割増対象賃金比をもとに算出された就業時間別船員供用係数(β)である。したがって、割増対象賃金比に変更があった場合は、下記「就業時間別船員供用係数(β)の算出式」をもとに別途算出するものとする。
2. 就業時間と超勤時間および深夜時間の関係が別表－４によらない場合についても、同様に、下記「就業時間別船員供用係数(β)の算出式」をもとに別途算出するものとする。
3. 上記船員以外にも潜水士等も対象とする。

就業時間別船員供用係数(β)の算出式

$$\beta = \beta_0 + \frac{1}{8} \times \text{割増対象賃金比} \times (1.25 \times \text{超勤時間数} + 0.25 \times \text{深夜時間数}) \div \text{ワッチ数}$$

(小数3位四捨五入)

β : 時間外手当および深夜手当を考慮した船員供用係数

β₀ : 就業8時間の場合の船員供用係数

割増対象賃金比 : 労務単価に占める割増賃金の対象となる賃金の比率をいう。

ただし、2ワッチにおける超過勤務時間数および深夜労働時間数は、2ワッチの合計の時間数とする。

【土木工事】

1. ポンプ浚渫船

ポンプ浚渫船 運転 1日当り

就業 22時間

名称	形状寸法	単位	数 量						摘要
			鋼D 1,350PS型 993kW	2,250PS型 1,655kW	3,200PS型 2,354kW	4,000PS型 2,942kW	6,000PS型 4,413kW	8,000PS型 5,884kW	
主燃料	重油A	ℓ	5,354	8,923	12,693	15,864	23,795	31,726	
船団長		人	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	27ツチ
高級船員		〃	2×β	2×β	2×β	4×β	4×β	4×β	〃
普通船員		〃	20×β	22×β	22×β	26×β	30×β	34×β	〃
損料	運 転	時間	16						
〃	供 用	日	α						

ポンプ浚渫船 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量						摘要
			鋼D 1,350PS型 993kW	2,250PS型 1,655kW	3,200PS型 2,354kW	4,000PS型 2,942kW	6,000PS型 4,413kW	8,000PS型 5,884kW	
船団長		人	2	2	2	2	2	2	27ツチ
高級船員		〃	2	2	2	4	4	4	〃
普通船員		〃	20	22	22	26	30	34	〃
損料	供 用	日	1						

2. グラブ浚渫船

①グラブ浚渫船（普通地盤用） 運転 1日当り

就業 10時間

名称	形状寸法	単位	数 量						摘 要
			鋼D 2.5m ³ 191kW	5.0m ³ 456kW	9.0m ³ 883kW	15.0m ³ 1,397kW	23.0m ³ 1,912kW	30.0m ³ 2,363kW	
主燃料	重油A	ℓ	269	642	1,243	1,967	2,692	3,327	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	1×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	3×β	4×β	5×β	6×β	7×β	7×β	
損料	運 転	時間	8						
〃	供 用	日	α						

グラブ浚渫船（普通地盤用） 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量						摘 要
			鋼D 2.5m ³ 191kW	5.0m ³ 456kW	9.0m ³ 883kW	15.0m ³ 1,397kW	23.0m ³ 1,912kW	30.0m ³ 2,363kW	
船団長		人	1	1	1	1	1	1	
高級船員		〃	1	1	2	2	2	2	
普通船員		〃	3	4	5	6	7	7	
損料	供 用	日	1						

②グラブ浚渫船（硬土盤用） 運転 1日当り

就業 10時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D 3.5㎡ 456kW	5.5㎡ 883kW	7.5㎡ 1,397kW	11.5㎡ 1,912kW	
主燃料	重油 A	ℓ	642	1,243	1,967	2,692	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	4×β	5×β	6×β	7×β	
損料	運 転	時間	8				
〃	供 用	日	α				

グラブ浚渫船（硬土盤用） 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D 3.5㎡ 456kW	5.5㎡ 883kW	7.5㎡ 1,397kW	11.5㎡ 1,912kW	
船団長		人	1	1	1	1	
高級船員		〃	1	2	2	2	
普通船員		〃	4	5	6	7	
損料	供 用	日	1				

③グラブ浚渫船（岩盤用） 運転 1日当り

就業 10時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 3.5㎡ 456kW	5.5㎡ 883kW	7.5㎡ 1,397kW	
主燃料	重油 A	ℓ	642	1,243	1,967	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	4×β	5×β	6×β	
損料	運 転	時間	8			
〃	供 用	日	α			

グラブ浚渫船（岩盤用） 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 3.5㎡ 456kW	5.5㎡ 883kW	7.5㎡ 1,397kW	
船団長		人	1	1	1	
高級船員		〃	1	2	2	
普通船員		〃	4	5	6	
損料	供 用	日	1			

3. バックハウ浚渫船

バックハウ浚渫船 運転 1日当り

就業 10時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 1.0㎡ 206kW	鋼D 2.0㎡ 302kW	
主燃料	軽油	ℓ	325	476	
船団長		人	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	1×β	
普通船員		〃	3×β	4×β	
損料	運 転	時間	8		
〃	供 用	日	α		

バックホウ浚渫船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 1.0㎡ 206kW	鋼D 2.0㎡ 302kW	
船 団 長		人	1	1	
高級船員		〃	1	1	
普通船員		〃	3	4	
損 料	供 用	日	1		

4. バージアンローダ船

バーミアンローダ船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 420PS型 309kW	1,000PS型 736kW	1,600PS型 1,177kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	148.6×T	354.0×T	566.1×T	707.6×T	884.6×T	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	4×β	4×β	4×β	4×β	5×β	
損 料	運 転	時間	T					
〃	供 用	日	α					

注) 作業能力より運転時間 (T) を決定し主燃料および損料 (運転) を算出し使用する。

バーミアンローダ船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 420PS型 309kW	1,000PS型 736kW	1,600PS型 1,177kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	1	
高級船員		〃	2	2	2	2	2	
普通船員		〃	4	4	4	4	5	
損 料	供 用	日	1					

5. サンドドレーン船

サンドドレーン船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			6 連装 DE 625kW	12連装 DE 3,052kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	790	3,858	
船 団 長		人	1×β	1×β	
高級船員		〃	2×β	2×β	
普通船員		〃	9×β	12×β	
損 料	運 転	時間	8		
〃	供 用	日	α		

サンドドレーン船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			6連装 DE 625kW	12連装 DE 3,052kW	
船 団 長		人	1	1	
高級船員		〃	2	2	
普通船員		〃	9	12	
損 料	供 用	日	1		

6. サンドコンパクション船

サンドコンパクション船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数量					摘要
			3連装					
			35m 2,618kW	40m 2,993kW	45m 3,369kW	50m 3,744kW	55m 4,119kW	
主燃料	重油A	ℓ	3,309	3,783	4,258	4,733	5,206	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	9×β	9×β	9×β	9×β	9×β	
損料	運	時間	8					
〃	供	日	α					

サンドコンパクション船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数量					摘要
			3連装					
			35m 2,618kW	40m 2,993kW	45m 3,369kW	50m 3,744kW	55m 4,119kW	
船団長		人	1	1	1	1	1	
高級船員		〃	2	2	2	2	2	
普通船員		〃	9	9	9	9	9	
損料	供	日	1					

7. 深層混合処理船

①深層混合処理船 運転1日当り

就業16時間

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
主燃料	重油A	ℓ	1,597	4,064	6,824	
船団長		人	2×β	2×β	2×β	2ワッチ
高級船員		〃	6×β	8×β	8×β	〃
普通船員		〃	22×β	24×β	28×β	〃
損料	運	時間	14			
〃	供	日	α			

深層混合処理船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
船団長		人	2	2	2	2ワッチ
高級船員		〃	6	8	8	〃
普通船員		〃	22	24	28	〃
損料	供	日	1			

②深層混合処理船 運転1日当り

就業11時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			改 良 面 積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	1,027	2,613	4,387	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	3×β	4×β	4×β	
普 通 船 員		〃	11×β	12×β	14×β	
損 料	運 転	時 間	9			
〃	供 用	日	α			

深層混合処理船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			改 良 面 積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高 級 船 員		〃	3	4	4	
普 通 船 員		〃	11	12	14	
損 料	供 用	日	1			

③深層混合処理船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			改 良 面 積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	913	2,322	3,899	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	3×β	4×β	4×β	
普 通 船 員		〃	11×β	12×β	14×β	
損 料	運 転	時 間	8			
〃	供 用	日	α			

深層混合処理船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			改 良 面 積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高 級 船 員		〃	3	4	4	
普 通 船 員		〃	11	12	14	
損 料	供 用	日	1			

④深層混合処理船 運転1日当り

就業9時間

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
主燃料	重油 A	ℓ	799	2,032	3,412	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	3×β	4×β	4×β	
普通船員		〃	11×β	12×β	14×β	
損料	運転	時間	7			
〃	供用	日	α			

深層混合処理船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
船団長		人	1	1	1	
高級船員		〃	3	4	4	
普通船員		〃	11	12	14	
損料	供用	日	1			

⑤深層混合処理船 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
主燃料	重油 A	ℓ	685	1,742	2,924	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	3×β	4×β	4×β	
普通船員		〃	11×β	12×β	14×β	
損料	運転	時間	6			
〃	供用	日	α			

深層混合処理船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			改良面積 m ²			
			2.2m ² 809kW	4.6m ² 2,059kW	5.7m ² 3,457kW	
船団長		人	1	1	1	
高級船員		〃	3	4	4	
普通船員		〃	11	12	14	
損料	供用	日	1			

8. 杭打船

杭打船（油圧ハンマ）運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			H-65 221kW 7t質量 6.5t 132kW	H-125 405kW 7t質量 10~12.5t 184kW	H-150 515kW 7t質量 15.0t 235kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	253	464	590	杭打船
〃	軽 油	〃	57	80	102	油圧ハンマ
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	1×β	2×β	2×β	
普 通 船 員		〃	6×β	7×β	7×β	
損 料	運 転	時間	6			
〃	供 用	日	α			

杭打船（油圧ハンマ）供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			H-65 221kW 7t質量 6.5t 132kW	H-125 405kW 7t質量 10~12.5t 184kW	H-150 515kW 7t質量 15.0t 235kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高 級 船 員		〃	1	2	2	
普 通 船 員		〃	6	7	7	
損 料	供 用	日	1			

9. ケーソン製作用台船

①フローティングドック 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量							摘 要	
			鋼 1,300 t積	1,500 t積	2,000 t積	2,500 t積	3,200 t積	4,000 t積	6,000 t積		7,000 t積
主 燃 料	軽 油	ℓ	127	130	137	145	155	167	196	211	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	-	-	-	-	-	-	-	-	
普 通 船 員		〃	2×β	2×β	3×β	3×β	3×β	3×β	3×β	3×β	
損 料	供 用	日	α								

フローティングドック 供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量							摘 要	
			鋼 1,300 t積	1,500 t積	2,000 t積	2,500 t積	3,200 t積	4,000 t積	6,000 t積		7,000 t積
船 団 長		人	1	1	1	1	1	1	1	1	
高 級 船 員		〃	-	-	-	-	-	-	-	-	
普 通 船 員		〃	2	2	3	3	3	3	3	3	
損 料	供 用	日	1								

②ドルフィンドック 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			鋼 1,300t積	1,700t積	2,500t積	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	-	-	-	
普 通 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	
損 料	供 用	日	α			

ドルフィンドック 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼 1,300t積	1,700t積	2,500t積	
船 団 長		人	1	1	1	
高級 船員		〃	-	-	-	
普通 船員		〃	1	1	1	
損 料	供 用	日	1			

10. コンクリートミキサー船

①コンクリートミキサー船（バッチ式）運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼DE 1.00㎡ 338kW	1.50㎡ 530kW	2.00㎡ 633kW	2.50㎡ 736kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	80.4×T	126.1×T	150.7×T	175.2×T	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級 船員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	
普通 船員		〃	7×β	7×β	7×β	7×β	
損 料	運 転	時間	T				
〃	供 用	日	α				

注) 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。

コンクリートミキサー船（バッチ式）供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼DE 1.00㎡ 338kW	1.50㎡ 530kW	2.00㎡ 633kW	2.50㎡ 736kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	
高級 船員		〃	1	1	1	1	
普通 船員		〃	7	7	7	7	
損 料	供 用	日	1				

②コンクリートミキサー船（コンティニアス式）運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼DE 25型 177kW	鋼DE 45型 279kW	鋼DE 90型 434kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	42.1×T	66.4×T	103.3×T	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高級 船員		〃	2×β	2×β	2×β	
普通 船員		〃	4×β	6×β	7×β	
損 料	運 転	時間	T			
〃	供 用	日	α			

注) 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。

コンクリートミキサー船（コンティニアス式）供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼DE 25型 177kW	鋼DE 45型 279kW	鋼DE 90型 434kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高級 船員		〃	2	2	2	
普通 船員		〃	4	6	7	
損 料	供 用	日	1			

1.1. 非航起重機船

①起重機船（非航固定）

起重機船（非航固定） 運轉 1 日 当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			固定鋼 D E					
			500t吊 441kW	1,400t吊 1,015kW	2,000t吊 1,324kW	2,200t吊 1,397kW	3,000t吊 1,765kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	168	388	506	534	674	運轉 2h
			337	776	1,012	1,067	1,348	運轉 4h
			505	1,163	1,517	1,601	2,023	運轉 6h
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	2×β	2×β	
普 通 船 員		〃	8×β	15×β	15×β	16×β	19×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			固定鋼 D E					
			3,700t吊 2,721kW					
主 燃 料	重 油 A	ℓ	1,039					運轉 2h
			2,079					運轉 4h
			3,118					運轉 6h
船 団 長		人	1×β					
高 級 船 員		〃	3×β					
普 通 船 員		〃	19×β					
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

起重機船（非航固定） 供用 1 日 当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			固定鋼 D E					
			500t吊 441kW	1,400t吊 1,015kW	2,000t吊 1,324kW	2,200t吊 1,397kW	3,000t吊 1,765kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	1	
高 級 船 員		〃	1	1	1	2	2	
普 通 船 員		〃	8	15	15	16	19	
損 料	供 用	日	1					

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			固定鋼 D E					
			3,700t吊 2,721kW					
船 団 長		人	1					
高 級 船 員		〃	3					
普 通 船 員		〃	19					
損 料	供 用	日	1					

②起重機船（非航旋回）

起重機船（非航旋回）運転 1 日当り

就業 8 時間

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 30t吊 103kW	40t吊 143kW	50t吊 177kW	70t吊 235kW	100t吊 313kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	39	55	68	90	120	運転 2h
			79	109	135	180	239	運転 4h
			118	164	203	269	359	運転 6h
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
普 通 船 員		〃	3×β	4×β	4×β	4×β	5×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 120t吊 353kW	150t吊 405kW	200t吊 588kW	250t吊 736kW	300t吊 883kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	135	155	225	281	337	運転 2h
			270	310	449	562	675	運転 4h
			404	464	674	844	1,012	運転 6h
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
普 通 船 員		〃	5×β	5×β	6×β	6×β	6×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

起重機船（非航旋回）供用 1 日当り

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 30t吊 103kW	40t吊 143kW	50t吊 177kW	70t吊 235kW	100t吊 313kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	1	
高 級 船 員		〃	1	1	1	1	1	
普 通 船 員		〃	3	4	4	4	5	
損 料	供 用	日	1					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 120t吊 353kW	150t吊 405kW	200t吊 588kW	250t吊 736kW	300t吊 883kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	1	
高 級 船 員		〃	1	1	1	1	1	
普 通 船 員		〃	5	5	6	6	6	
損 料	供 用	日	1					

1 2. 起重機船（自航旋回）

起重機船（自航旋回） 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 50t吊 航行 405kW 積込 177kW	鋼D 70t吊 航行 515kW 積込 235kW	鋼D 100t吊 航行 736kW 積込 313kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	333	430	601	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	2×β	2×β	3×β	
普 通 船 員		〃	3×β	3×β	4×β	
損 料	運 転	時間	6			
〃	供 用	日	α			

名 称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 120t吊 航行 809kW 積込 353kW	鋼D 150t吊 航行 883kW 積込 405kW	鋼D 200t吊 航行 1,030kW 積込 588kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	666	738	927	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	3×β	3×β	3×β	
普 通 船 員		〃	4×β	4×β	5×β	
損 料	運 転	時間	6			
〃	供 用	日	α			

起重機船（自航旋回） 供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 50t吊 航行 405kW 積込 177kW	鋼D 70t吊 航行 515kW 積込 235kW	鋼D 100t吊 航行 736kW 積込 313kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高 級 船 員		〃	2	2	3	
普 通 船 員		〃	3	3	4	
損 料	供 用	日	1			

名 称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 120t吊 航行 809kW 積込 353kW	鋼D 150t吊 航行 883kW 積込 405kW	鋼D 200t吊 航行 1,030kW 積込 588kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高 級 船 員		〃	3	3	3	
普 通 船 員		〃	4	4	5	
損 料	供 用	日	1			

1 3. クレーン付台船

クレーン付台船 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			35～40t吊 94kW	45～50t吊 102kW	80t吊 161kW	100t吊 193kW	150t吊 195kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	31	34	54	64	65	運転 2h
			63	68	108	129	130	運転 4h
			94	102	161	193	196	運転 6h
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	-	-	-	-	-	
普 通 船 員		〃	5×β	5×β	5×β	5×β	5×β	
損 料	運 転	日	1					
〃	供 用	〃	α					

クレーン付台船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			35~40t吊 94kW	45~50t吊 102kW	80t吊 161kW	100t吊 193kW	150t吊 195kW	
船 団 長		人	1	1	1	1	1	
高級船員		〃	-	-	-	-	-	
普通船員		〃	5	5	5	5	5	
損 料	供 用	日	1					

14. ガット船

ガット船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	グラブ容量 1.8m ³	グラブ容量 3.0m ³	摘 要
			積込・排出 航 行 243kW 588kW	積込・排出 航 行 294kW 1,103kW	
主 燃 料	重油 A	ℓ	921	1,548	
高級船員		人	2×β	4×β	
普通船員		〃	4×β	2×β	
損 料	運 転	時間	8		
〃	供 用	日	α		

ガット船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	グラブ容量 1.8m ³	グラブ容量 3.0m ³	摘 要
			積込・排出 航 行 243kW 588kW	積込・排出 航 行 294kW 1,103kW	
高級船員		人	2	4	
普通船員		〃	4	2	
損 料	供 用	日	1		

15. ガットバージ

ガットバージ 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	グラブ容量 3.0m ³	摘 要
			1,000m ³ 積 排出 294kW	
主 燃 料	重油 A	ℓ	450	
高級船員		人	2×β	
普通船員		〃	2×β	
損 料	運 転	日	1	
〃	供 用	〃	α	

ガットバージ 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	グラブ容量 3.0m ³	摘 要
			1,000m ³ 積 排出 294kW	
高級船員		人	2	
普通船員		〃	2	
損 料	供 用	日	1	

16. 揚錨船

①揚錨船 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D3t吊 161kW	鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	
主燃料	重油A	ℓ	100	125	148	176	
高級船員		人	1×β	1×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	2×β	2×β	3×β	3×β	
損料	運 転	日	1				
〃	供 用	〃	α				

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D20t吊 303kW	鋼D25t吊 306kW	鋼D30t吊 334kW	鋼D35t吊 340kW	
主燃料	重油A	ℓ	188	190	207	211	
高級船員		人	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	3×β	3×β	3×β	3×β	
損料	運 転	日	1				
〃	供 用	〃	α				

揚錨船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D3t吊 161kW	鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	
高級船員		人	1	1	2	2	
普通船員		〃	2	2	3	3	
損料	供 用	日	1				

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D20t吊 303kW	鋼D25t吊 306kW	鋼D30t吊 334kW	鋼D35t吊 340kW	
高級船員		人	2	2	2	2	
普通船員		〃	3	3	3	3	
損料	供 用	日	1				

②揚錨船 運転1日当り (グラブ浚渫船 (スパッド式))

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D3t吊 161kW	鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	
主燃料	重油A	ℓ	50	63	74	88	
高級船員		人	1×β	1×β	1×β	1×β	
普通船員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	
損料	運 転	日	1				
〃	供 用	〃	α				

揚錨船 供用1日当り (グラブ浚渫船 (スパッド式))

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼D3t吊 161kW	鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	
高級船員		人	1	1	1	1	
普通船員		〃	1	1	1	1	
損料	供 用	日	1				

③揚錨船 運転1日当り (船員を伴わない場合)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	鋼D20t吊 303kW	鋼D30t吊 334kW	
主燃料	重油A	ℓ	125	148	176	188	207	
損料	運 転	日	1					
〃	供 用	〃	α					

揚錨船 供用1日当り (船員を伴わない場合)

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D5t吊 202kW	鋼D10t吊 238kW	鋼D15t吊 284kW	鋼D20t吊 303kW	鋼D30t吊 334kW	
損料	供 用	日	1					

17. 引 船

①引 船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 200PS型 147kW	250PS型 184kW	300PS型 221kW	350PS型 257kW	450PS型 331kW	
主燃料	重油A	ℓ	46	57	69	80	103	運転 2h
			91	114	137	159	205	運転 4h
			137	171	206	239	308	運転 6h
			182	228	274	318	410	運転 8h
高級船員		人	1×β	1×β	1×β	1×β	2×β	
普通船員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
損料	運 転	時間	2					
			4					
			6					
			8					
〃	供 用	日	α					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 500PS型 368kW	550PS型 405kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	800PS型 588kW	
主燃料	重油A	ℓ	114	126	137	160	182	運転 2h
			228	251	274	319	364	運転 4h
			342	377	410	479	547	運転 6h
			456	502	547	638	729	運転 8h
高級船員		人	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
損料	運 転	時間	2					
			4					
			6					
			8					
〃	供 用	日	α					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 1,000PS型 736kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	228	274	342	456	570	運転 2h
			456	548	684	912	1,140	運転 4h
			685	821	1,026	1,368	1,710	運転 6h
			913	1,095	1,368	1,824	2,280	運転 8h
高級船員		人	2×β	3×β	3×β	3×β	3×β	
普通船員		人	1×β	1×β	1×β	1×β	2×β	
損 料	運 転	時間	2					
			4					
			6					
			8					
〃	供 用	日	α					

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 3,000PS型 2,207kW	4,000PS型 2,942kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	684	912	運転 2h
			1,368	1,824	運転 4h
			2,053	2,736	運転 6h
			2,737	3,648	運転 8h
高級船員		人	4×β	4×β	
普通船員		人	2×β	3×β	
損 料	運 転	時間	2		
			4		
			6		
			8		
〃	供 用	日	α		

引 船 供 用 1 日 当 り

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 200PS型 147kW	250PS型 184kW	300PS型 221kW	350PS型 257kW	450PS型 331kW	
高級船員		人	1	1	1	1	2	
普通船員		人	1	1	1	1	1	
損 料	供 用	日	1					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 500PS型 368kW	550PS型 405kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	800PS型 588kW	
高級船員		人	2	2	2	2	2	
普通船員		人	1	1	1	1	1	
損 料	供 用	日	1					

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 1,000PS型 736kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
高級船員		人	2	3	3	3	3	
普通船員		人	1	1	1	1	2	
損 料	供 用	日	1					

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 3,000PS型 2,207kW	4,000PS型 2,942kW	
高級船員		人	4	4	
普通船員		人	2	3	
損 料	供 用	日	1		

②引 船 運 転 1 日 当 り (就 業 8 時 間)

就 業 8 時 間

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 200PS型 147kW	250PS型 184kW	300PS型 221kW	350PS型 257kW	450PS型 331kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	46	57	69	80	103	運 転 2h
			91	114	137	159	205	運 転 4h
			137	171	206	239	308	運 転 6h
高 級 船 員		人	1×β	1×β	1×β	1×β	2×β	
普 通 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 500PS型 368kW	550PS型 405kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	800PS型 588kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	114	126	137	160	182	運 転 2h
			228	251	274	319	364	運 転 4h
			342	377	410	479	547	運 転 6h
高 級 船 員		人	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普 通 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 1,000PS型 736kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	228	274	342	456	570	運 転 2h
			456	548	684	912	1,140	運 転 4h
			685	821	1,026	1,368	1,710	運 転 6h
高 級 船 員		人	2×β	3×β	3×β	3×β	3×β	
普 通 船 員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	2×β	
損 料	運 転	時 間	2					
			4					
			6					
〃	供 用	日	α					

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量		摘 要
			鋼 D 3,000PS型 2,207kW	4,000PS型 2,942kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	684	912	運 転 2h
			1,368	1,824	運 転 4h
			2,053	2,736	運 転 6h
高 級 船 員		人	4×β	4×β	
普 通 船 員		〃	2×β	3×β	
損 料	運 転	時 間	2		
			4		
			6		
〃	供 用	日	α		

引 船 供用 1 日 当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 200PS型 147kW	250PS型 184kW	300PS型 221kW	350PS型 257kW	450PS型 331kW	
高級 船員		人	1	1	1	1	2	
普通 船員		〃	1	1	1	1	1	
損 料	供 用	日	1					

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 500PS型 368kW	550PS型 405kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	800PS型 588kW	
高級 船員		人	2	2	2	2	2	
普通 船員		〃	1	1	1	1	1	
損 料	供 用	日	1					

名 称	形状寸法	単 位	数 量					摘 要
			鋼 D 1,000PS型 736kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	2,500PS型 1,839kW	
高級 船員		人	2	3	3	3	3	
普通 船員		〃	1	1	1	1	2	
損 料	供 用	日	1					

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			鋼 D 3,000PS型 2,207kW	4,000PS型 2,942kW	
高級 船員		人	4	4	
普通 船員		〃	2	3	
損 料	供 用	日	1		

③引 船 (遠距離土捨) 運 転 1 日 当り

就業 T' 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			鋼 D500PS型 368kW	鋼 D1,000PS型 736kW	鋼 D1,500PS型 1,103kW	
主 燃 料	重油 A	ℓ	57.0×T	114.1×T	171.0×T	
高級 船員		人	2×β	2×β	3×β	就業16時間未満(17ツチ)
			4×β	4×β	6×β	就業16時間以上(27ツチ)
普通 船員		〃	1×β	1×β	1×β	就業16時間未満(17ツチ)
			2×β	2×β	2×β	就業16時間以上(27ツチ)
損 料	運 転	時間	T			
〃	供 用	日	α			

注) 作業能力より運転時間(T)および就業時間(T')を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。

引 船 (遠距離土捨) 供用 1 日 当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			鋼 D500PS型 368kW	鋼 D1,000PS型 736kW	鋼 D1,500PS型 1,103kW	
高級 船員		人	2	2	3	就業16時間未満(17ツチ)
			4	4	6	就業16時間以上(27ツチ)
普通 船員		〃	1	1	1	就業16時間未満(17ツチ)
			2	2	2	就業16時間以上(27ツチ)
損 料	供 用	日	1			

④引 船（グラブ浚渫船（スパッド式）） 運転 1日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 450PS型 331kW	600PS型 441kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	103	137	274	342	456	運転 2h
高級船員		人	2×β	2×β	2×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	1×β	1×β	1×β	1×β	1×β	
損 料	運 転	時間	2					
〃	供 用	日	α					

引 船（グラブ浚渫船（スパッド式）） 供用 1日当り

名 称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼D 450PS型 331kW	600PS型 441kW	1,200PS型 883kW	1,500PS型 1,103kW	2,000PS型 1,471kW	
高級船員		人	2	2	2	2	2	
普通船員		〃	1	1	1	1	1	
損 料	供 用	日	1					

18. 押 船

①押 船 運転 1日当り

就業 10 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 1,300PS型 956kW	鋼D 2,000PS型 1,471kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	148.2×T	228.0×T	
高級船員		人	3×β	3×β	
普通船員		〃	1×β	2×β	
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	α		

注) 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。

押 船 供用 1日当り

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 1,300PS型 956kW	鋼D 2,000PS型 1,471kW	
高級船員		人	3	3	
普通船員		〃	1	2	
損 料	供 用	日	1		

②押 船（遠距離土捨） 運転 1日当り

就業 T' 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼D 1,300PS型 956kW	鋼D 2,000PS型 1,471kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	148.2×T	228.0×T	
高級船員		人	3×β	3×β	就業16時間未満(1ワッ)
			6×β	6×β	就業16時間以上(2ワッ)
普通船員		〃	1×β	2×β	就業16時間未満(1ワッ)
			2×β	4×β	就業16時間以上(2ワッ)
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	α		

注) 作業能力より運転時間(T)および就業時間(T')を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。

押 船（遠距離土捨） 供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			鋼D 1,300PS型 956kW	鋼D 2,000PS型 1,471kW	
高級 船員		人	3	3	就業16時間未満(1ワッヂ)
			6	6	就業16時間以上(2ワッヂ)
普通 船員		"	1	2	就業16時間未満(1ワッヂ)
			2	4	就業16時間以上(2ワッヂ)
損 料	供 用	日	1		

19. 潜水士船

①潜水士船 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			D 270PS型 3~5t吊 199kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	129		
潜水世話役		人	0.20×β		
潜 水 士		"	1×β		
潜水連絡員		"	1×β		
潜水送気員		"	1×β		
損 料	運 転	日	1		
"	供 用	"	α		

潜水士船 供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			D 270PS型 3~5t吊 199kW		
潜水世話役		人	0.20		
潜 水 士		"	1		
潜水連絡員		"	1		
潜水送気員		"	1		
損 料	供 用	日	1		

②潜水士船(2人潜水方式(交互)) 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			D 270PS型 3~5t吊 199kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	129		
潜水世話役		人	0.20×β		
潜 水 士		"	2.1×β		
潜水連絡員		"	1×β		
潜水送気員		"	1×β		
損 料	運 転	日	1		
"	供 用	"	α		

注) 潜水士の歩掛りには2名交互潜水作業にかかる安全費等装備費を含む。

潜水士船(2人潜水方式(交互)) 供用 1 日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			D 270PS型 3~5t吊 199kW		
潜水世話役		人	0.20		
潜 水 士		"	2.1		
潜水連絡員		"	1		
潜水送気員		"	1		
損 料	供 用	日	1		

注) 潜水士の歩掛りには2名交互潜水作業にかかる安全費等装備費を含む。

20. 安全監視船

安全監視船 運転 1日当り

就業 8 時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			FRP D 180PS型 10.0t 132kW	FRP D 260PS型 15.0t 191kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	37	53	
高級 船員		人	1×β	1×β	
普通 船員		〃	1×β	1×β	
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	α		

注) 安全監視船の損料は交通船を準用する。

安全監視船 運転 1日当り

就業 10 時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			FRP D 180PS型 10.0t 132kW	FRP D 260PS型 15.0t 191kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	49	70	
高級 船員		人	1×β	1×β	
普通 船員		〃	1×β	1×β	
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	α		

注) 安全監視船の損料は交通船を準用する。

安全監視船 運転 1日当り

就業 22 時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			FRP D 180PS型 10.0t 132kW	FRP D 260PS型 15.0t 191kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	98	141	
高級 船員		人	2×β	2×β	2ワッチ
普通 船員		〃	2×β	2×β	〃
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	α		

注) 安全監視船の損料は交通船を準用する。

21. 土運船 (曳航)

①土運船 運転 1日当り

就業 10 時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼100㎡積	鋼300㎡積	鋼650㎡積	鋼1,300㎡積	
普通 船員		人	2×β				
損 料	供 用	日	α				

土運船 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼100㎡積	鋼300㎡積	鋼650㎡積	鋼1,300㎡積	
普通 船員		人	2				
損 料	供 用	日	1				

②土運船 (遠距離土捨) 運転 1日当り

就業 T' 時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼100㎡積	鋼300㎡積	鋼650㎡積	鋼1,300㎡積	
普通 船員		人	2×β				就業16時間未満 (17ワッチ)
			4×β				就業16時間以上 (27ワッチ)
損 料	供 用	日	α				

注) 作業能力より就業時間 (T') を決定し使用する。

土運船（遠距離土捨） 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			鋼100㎡積	鋼300㎡積	鋼650㎡積	鋼1,300㎡積	
普通船員		人	2				就業16時間未満(17ツフ)
			4				就業16時間以上(27ツフ)
損 料	供 用	日	1				

2.2. 土運船（押航）

①土運船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 650㎡積	鋼 1,300㎡積	
損 料	供 用	日	α		

土運船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 650㎡積	鋼 1,300㎡積	
損 料	供 用	日	1		

②土運船（遠距離土捨） 運転1日当り

就業T'時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 650㎡積	鋼 1,300㎡積	
損 料	供 用	日	α		

注) 作業能力より就業時間(T')を決定し使用する。

土運船（遠距離土捨） 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 650㎡積	鋼 1,300㎡積	
損 料	供 用	日	1		

2.3. 砂貯蔵船

砂貯蔵船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
			鋼 1,000㎡積	
普通船員		人	2 × β	
損 料	供 用	日	α	

砂貯蔵船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
			鋼 1,000㎡積	
普通船員		人	2	
損 料	供 用	日	1	

注) 砂貯蔵船の損料は、非航土運船（密閉式）鋼1,300㎡積を準用する。

24. 台 船

①台 船 運転 1日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量						摘 要
			鋼 100t積	200t積	300t積	400t積	500t積	700t積	
普通船員		人	2×β						
損 料	供 用	日	α						

台 船 供用 1日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量						摘 要
			鋼 100t積	200t積	300t積	400t積	500t積	700t積	
普通船員		人	2						
損 料	供 用	日	1						

②台 船 運転 1日当り(ケーソン製作台船工、上部工補助ヤード施設)

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			鋼 100t積	鋼 200t積	
損 料	供 用	日	α		

台 船 供用 1日当り(ケーソン製作台船工、上部工補助ヤード施設)

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			鋼 100t積	鋼 200t積	
損 料	供 用	日	1		

25. 空気圧送船

空気圧送船 運転 1日当り

就業 10 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			鋼 D 2,000PS型 1,471kW	鋼 D 3,000PS型 2,207kW	鋼 D 6,000PS型 4,413kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	376.6×T	565.0×T	1,129.7×T	
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	2×β	2×β	
普通船員		〃	6×β	6×β	6×β	
損 料	運 転	時間	T			
〃	供 用	日	α			

注) 作業能力により運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し決定する。

空気圧送船 供用 1日当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量			摘 要
			鋼 D 2,000PS型 1,471kW	鋼 D 3,000PS型 2,207kW	鋼 D 6,000PS型 4,413kW	
船 団 長		人	1	1	1	
高級船員		〃	1	2	2	
普通船員		〃	6	6	6	
損 料	供 用	日	1			

26. 海岸関連

クレーン付台船運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			45～50t吊 102kW	80t吊 161kW	100t吊 193kW	
主燃料	軽油	L	108	172	206	指定事項
高級船員		人		1		指定事項
普通船員		人		2		指定事項
損料(換算)	供用	日		1.89		指定事項

起重機船(非航旋回)運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			非航旋回 鋼D 100t吊 313kW	120t吊 353kW	150t吊 405kW	
主燃料	重油 A	L	372	417	480	指定事項
高級船員		人		1		指定事項
普通船員		人		2		指定事項
損料(換算)	供用	日		1.89		指定事項

繫船費(クレーン付台船または起重機船(非航旋回))

名称	形状寸法	単位	数	量	摘 要
高級船員		人		1	指定事項
普通船員		人		2	指定事項

潜水士船運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			D180PS型 捨石本均し 捨石荒均し 被覆均し	3～5t吊 132kW 被覆ブロック据付 消波ブロック据付	
主燃料	軽油	L	145	110	指定事項
高級船員		人		1	指定事項
潜水士		人		1	指定事項
潜水連絡員		人		1	指定事項
損料(換算)	供用	日		1.89	指定事項

繫船費(潜水士船)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			D180PS型 捨石本均し 捨石荒均し 被覆均し	3～5t吊 132kW 被覆ブロック据付 消波ブロック据付	
高級船員		人		1	指定事項
潜水士		人		1	指定事項
潜水連絡員		人		1	指定事項

引船運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 450PS型 331kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	
主燃料	重油 A	L	375	500	585	指定事項
高級船員		人		2		指定事項
損料(換算)	供用	日		1.89		指定事項

繫船費(引船)

名称	形状寸法	単位	数	量	摘 要
高級船員		人		2	指定事項

退避費(引船)

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼D 450PS型 331kW	600PS型 441kW	700PS型 515kW	
主燃料	重油 A	L	375	500	585	指定事項
損料(換算)	供用	日		1.89		指定事項

2.7. 交通船

交通船 運転 1日当り

就業 8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			FRP D 70PS型 3.0t 51kW		
			1名船員	2名船員	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	30	30	
高級船員		人	1 × β	1 × β	
普通船員		〃	-	1 × β	
損 料	運 転	日	1	1	
〃	供 用	〃	α	α	

注) 1名船員を標準とする。ただし、安全対策など現場条件により、必要に応じて2名船員とすることができる。

交通船 供用 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			FRP D 70PS型 3.0t 51kW		
			1名船員	2名船員	
高級船員		人	1	1	
普通船員		〃	-	1	
損 料	供 用	日	1	1	

注) 1名船員を標準とする。ただし、安全対策など現場条件により、必要に応じて2名船員とすることができる。

2.8. トラッククレーン

トラッククレーン 運転 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			全規格		
賃 料		日	1		

注) 賃料は物価資料による。

2.9. ラフテレーンクレーン

ラフテレーンクレーン (排出ガス対策型) 運転 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			全規格		
賃 料		日	1		

注) 1. 賃料は物価資料による。
2. 固化工：スラリープラント現場内移設による場合の油圧伸縮ジブ型25t吊については、排出ガス対策型(第2次基準値)を適用する。

3.0. クローラクレーン

クローラクレーン(油圧駆動式) (排出ガス対策型) 運転 1日当り (陸上パイプロハンマによる場合) 就業 8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			(油) 50~55t吊 132kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	69		指定事項
運 転 手	(特 殊)	人	1		指定事項
損料(換算)	供 用	日	1.30		指定事項

注) 1. 損料(換算)は、損料算定基準の参考欄の供用1日当り換算損料を使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

クローラクレーン (油圧駆動式) 運転 1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要	
			50t吊 132kW	55t吊 132kW	65t吊 166kW	80t吊 170kW	100t吊 204kW		150t吊 221kW
主 燃 料	軽 油	ℓ	70	70	91	91	112	119	
賃 料		日	1	1	1	1	1	1	

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			200t吊 235kW	350t吊 302kW	450t吊 448kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	126	161	238	
賃 料		日	1	1	1	

注) 賃料は物価資料による。

3.1. クローラ式杭打機

クローラ式杭打機（油圧ハンマ）運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			ラム質量 4~4.5t 118kW 121kW	6.5~8t 132kW 132kW	10~12.5t 132kW 184kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	62	68	68	ベースマシン
〃	〃	〃	55	60	82	ハンマ
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	
特殊作業員		〃	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.2	6.2	6.2	
〃	供 用	日	1.70	1.70	1.70	

注) 数量欄の馬力は、上段ベースマシン、下段ハンマ機関出力を示す。

3.2. クローラ式サンドパイル打機

クローラ式サンドパイル打機（バイプロ式） 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			リーダ長 30m 35~37t吊 83kW	リーダ長 30m 40t吊 105kW	リーダ長 45m 40t吊 108kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	43	53	55	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.0	6.0	6.0	
〃	供 用	日	1.67	1.67	1.67	

施工管理計（ロッドコンパクション用） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			施 工 管 理 計			
損 料	運 転	日	1			
〃	供 用	〃	1.78			

3.3. ペーパードレーン施工機

ペーパードレーン施工機 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			打 込 長			
			20m以下 81kW	30m以下 96kW	40m以下 147kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	104	124	193	
運 転 手	(特殊)	人	1			
損 料	運 転	時間	6.9			
〃	供 用	日	1.88			

施工管理計（ペーパードレーン用） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			施 工 管 理 計			
損 料	運 転	日	1			
〃	供 用	〃	2.21			

34. トラック

①トラック 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			2t積 98kW	8t積 186kW	11t積 257kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	20	38	52	
運 転 手	(一般)	人	1	1	1	
損 料	運 転	時間	4.7	4.7	4.7	
〃	供 用	日	1.13	1.13	1.13	

②クレーン付トラック 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			2t積 2t吊 98kW	4t積 2t吊 132kW	4t積 2.9t吊 132kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	24	33	33	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	
損 料	運 転	時間	5.8	5.8	5.8	
〃	供 用	日	1.23	1.23	1.23	

35. トレーラ

トレーラ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			15t積 235kW	20t積 235kW	25t積 235kW	32t積 235kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	113	113	113	113	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.3	6.3	6.3	6.3	
〃	供 用	日	1.90	1.90	1.90	1.90	

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			40t積 382kW	50t積 393kW	60t積 393kW	70t積 393kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	183	183	183	183	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.3	6.3	6.3	6.3	
〃	供 用	日	1.90	1.90	1.80	1.80	

36. ブルドーザ

①ブルドーザ(排出ガス対策型) 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量						摘 要
			3t級 29kW	15t級 100kW	21t級 152kW	32t級 208kW	湿地 16t級 102kW	湿地 20t級 139kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	23	80	145	202	85	132	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	1	1	
損 料	運 転	時間	5.3	5.3	6.3	6.3	5.3	6.3	
〃	供 用	日	1.75	1.75	1.58	1.58	1.75	1.58	

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

②ブルドーザ（排出ガス対策型） 運転1日当り（標準運転時間によらない場合） 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			11t級 78kW	15t級 100kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	12×T	15×T	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	
損 料	運 転	時間	T	T	
〃	供 用	日	1.75	1.75	

注) 1. 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

③ブルドーザ（排出ガス対策型） 運転1日当り（陸上地盤改良工（敷砂工）による場合） 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			湿地 16t級 102kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	109		指定事項
運 転 手	(特殊)	人	1		指定事項
損料(換算)	供 用	日	1.64		指定事項

注) 1. 損料(換算)は、損料算定基準の参考欄の供用1日当り換算損料を使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

37. クローラローダ

クローラローダ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			1.8~1.9㎡ 112kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	80		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	4.7		
〃	供 用	日	1.44		

38. ホイールローダ

ホイールローダ（排出ガス対策型） 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			0.8㎡ 42kW	1.2㎡ 62kW	1.9~2.1㎡ 91kW	3.1~3.3㎡ 156kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	30	45	66	120	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	
損 料	運 転	時間	4.7	4.7	4.7	5.0	
〃	供 用	日	1.55	1.55	1.55	1.50	

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

39. ダンプトラック

ダンプトラック 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			10t積級 246kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	65		
運 転 手	(一般)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.9		
〃	供 用	日	1.29		
タイヤ損耗費 及び補修費	〃	〃	1.29		

4.0. バックホウ

バックホウ（排出ガス対策型）運転 1 日当たり

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			山積0.45㎡(平積0.35㎡) 60kW	山積0.8㎡(平積0.6㎡) 104kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	58	101	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	
損 料	運 転	時間	6.3	6.3	
〃	供 用	日	1.64	1.64	

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。なお、捨石本均し・荒均し(陸上)、被覆均し(陸上)、裏込均し(陸上)、および土工:機械盛土(埋戻)による場合のクローラ型山積0.8㎡(平積0.6㎡)については、排出ガス対策型(第2次基準値)を適用する。

4.1. クラムシェル

クラムシェル（油圧ロープ式） 運転 1 日当たり

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			平積 0.6㎡ 109kW	平積 1.0㎡ 113kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	105	109	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	
損 料	運 転	時間	6.3	6.3	
〃	供 用	日	1.50	1.50	

4.2. モータグレーダ

①モータグレーダ（排出ガス対策型） 運転 1 日当たり

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			3.1m 85kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	47		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.1		
〃	供 用	日	1.57		

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

②モータグレーダ（排出ガス対策型） 運転 1 日当たり（標準運転時間によらない場合）

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			3.1m 85kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	9.2×T		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	1.57		

注) 1. 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

4.3. タイヤローラ

①タイヤローラ（排出ガス対策型） 運転 1 日当たり

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			8~20t 71kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	31		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.1		
〃	供 用	日	1.86		

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

②タイヤローラ（排出ガス対策型） 運転1日当り（標準運転時間によらない場合） 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			8～20t 71kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	6.0×T		
運 転 手	（特殊）	人	1		
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	1.86		

注) 1. 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料（運転）を算出し使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

4.4. ロードローラ

①ロードローラ（排出ガス対策型） 運転1日当り 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			マカダム 10～12t 56kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	34		
運 転 手	（特殊）	人	1		
損 料	運 転	時間	5.1		
〃	供 用	日	1.57		

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

②ロードローラ（排出ガス対策型） 運転1日当り（標準運転時間によらない場合） 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			マカダム 10～12t 56kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	6.6×T		
運 転 手	（特殊）	人	1		
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	1.57		

注) 1. 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料（運転）を算出し使用する。
2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

4.5. 振動ローラ

振動ローラ 運転1日当り 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			ハンドガイド式 0.8～1.1t 5kW	排出ガス対策型 搭乗式 タンデム型 2.4～2.8t 19kW	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t 20kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	6	14	13	
特殊作業員		人	1	1	—	
運 転 手	（特殊）	〃	—	—	1	
損 料	運 転	時間	5.1	4.6	4.0	
〃	供 用	日	1.50	1.57	1.40	

注) 使用原動機（ハンドガイド式は除く）は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

4.6. タンパ

タンパ 運転1日当り 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			60～80kg 3kW		
主 燃 料	ガソリン	ℓ	5		
特殊作業員		人	1		
普通作業員		〃	1		
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	1.33		

4.7. アスファルトフィニッシャー

①アスファルトフィニッシャー（排出ガス対策型） 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			クローラ型	2.4~6.0m 70kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	50		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.0		
〃	供 用	日	1.75		

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

②アスファルトフィニッシャー（排出ガス対策型） 運転1日当り（標準運転時間によらない場合） 就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			クローラ型	2.4~6.0m 70kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	10×T		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	1.75		

注) 1. 作業能力より運転時間(T)を決定し主燃料および損料（運転）を算出し使用する。

2. 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

4.8. コンクリートフィニッシャー

コンクリートフィニッシャー 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			3.0~7.5m	33kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	26		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	6.4		
〃	供 用	日	2.00		

4.9. コンクリートスプレッダ

コンクリートスプレッダ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			ブレード式 33kW	ボックス式 3.0~7.5m 57kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	24	42	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	
損 料	運 転	時間	6.0	6.0	
〃	供 用	日	2.00	2.00	

5.0. コンクリートレベラ

コンクリートレベラ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			3.0~7.5m	18kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	14		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	6.4		
〃	供 用	日	2.00		

5 1. 振動目地切機

振動目地切機 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3.5~8.5m	3kW	
主 燃 料	ガソリン	ℓ	1		
特殊作業員		人	0.5		
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	1.83		

5 2. ジョイントシーラ

ジョイントシーラ 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			100 ℓ 型	4.0kW	
主 燃 料	ガソリン	ℓ	8		
〃	プロパン	kg	20		
特殊作業員		人	1		
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	1.63		

5 3. インナバイブレータ

インナバイブレータ 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3.5~8.5m	24kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	17		
運 転 手	(特 殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.7		
〃	供 用	日	1.83		

5 4. 散水車

散水車 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3,800 ℓ	118kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	29		
運 転 手	(一 般)	人	1		
損 料	運 転	時間	5.5		
〃	供 用	日	1.70		

5 5. コンクリート簡易仕上機

コンクリート簡易仕上機 運転 1 日当り

就業 8 時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3.5~5.0m	4kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	3		
損 料	運 転	日	1		
〃	供 用	〃	2.00		

56. コンクリートカッタ

コンクリートカッタ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			ブレード径 20cm 1kW	ブレード径 30cm 4kW	
主 燃 料	ガソリン	ℓ	1	5	
特殊作業員		人	1	1	
損 料	運 転	日	1	1	
〃	供 用	〃	1.67	1.67	

57. コンクリートポンプ車

コンクリートポンプ車 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			ブーム式 90~110m ³ /h 199kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	110		
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	6.9		
〃	供 用	日	1.14		

58. 空気圧縮機

①空気圧縮機（排出ガス対策型） 運転1日当り（陸上）

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			可搬式、スクリュー、エンジン掛					
			3.5~3.7 m ³ /min 26kW	5 m ³ /min 39kW	7.5~7.8 m ³ /min 59kW	10.5~11 m ³ /min 78kW	18~19 m ³ /min 140kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	29	44	66	90	156	
賃 料		日	1.56	1.56	1.56	1.56	1.56	

注) 賃料は物価資料による。

②空気圧縮機（排出ガス対策型） 運転1日当り（陸上）（雑工（削孔工）による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			可搬式、スクリュー、エンジン掛（低騒音型）		
			3.5~3.7m ³ /min		
主 燃 料	軽 油	ℓ	24		指定事項
賃 料		日	1.7		指定事項

注) 賃料は物価資料による。

③空気圧縮機（排出ガス対策型） 運転1日当り（海上）

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			可搬式、スクリュー、エンジン掛					
			3.5~3.7 m ³ /min 26kW	5 m ³ /min 39kW	7.5~7.8 m ³ /min 59kW	10.5~11 m ³ /min 78kW	18~19 m ³ /min 140kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	25	37	55	75	130	
賃 料		日	α	α	α	α	α	

注) 賃料は物価資料による。

5.9. 発動発電機

①発動発電機 運転1日当り（雑工（削孔工）による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			2kVA 2.7kW		
主 燃 料	ガソリン	ℓ	7.0		指定事項
賃 料		日	1.3		指定事項

注) 賃料は物価資料による。

②発動発電機 運転1日当り（陸上）

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カ ^ス 対策 45kVA 42kW	排出カ ^ス 対策型 100kVA 92kW	排出カ ^ス 対策型 125kVA 117kW	排出カ ^ス 対策型 150kVA 134kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	37	78	102	114	
賃 料		日	1.18	1.18	1.18	1.18	

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カ ^ス 対策 200kVA 195kW	排出カ ^ス 対策型 250kVA 235kW	排出カ ^ス 対策型 300kVA 248kW	350kVA 331kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	168	204	216	288	
賃 料		日	1.18	1.18	1.18	1.18	

注) 賃料は物価資料による。

③発動発電機 運転1日当り（海上）

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カ ^ス 対策 45kVA 42kW	排出カ ^ス 対策型 100kVA 92kW	排出カ ^ス 対策型 125kVA 117kW	排出カ ^ス 対策型 150kVA 134kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	31	65	85	95	
賃 料		日	α	α	α	α	

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カ ^ス 対策 200kVA 195kW	排出カ ^ス 対策型 250kVA 235kW	排出カ ^ス 対策型 300kVA 248kW	350kVA 331kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	140	170	180	240	
賃 料		日	α	α	α	α	

注) 賃料は物価資料による。

④発動発電機 運転1日当り（海上）バージアンローダ船による場合

名称	形状寸法	単位	数 量						摘 要
			排出カ ^ス 対策型 100kVA 92kW	排出カ ^ス 対策型 125kVA 117kW	排出カ ^ス 対策型 150kVA 134kW	排出カ ^ス 対策型 200kVA 195kW	排出カ ^ス 対策型 250kVA 235kW	排出カ ^ス 対策型 300kVA 248kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	13.0×T	17.0×T	19.0×T	28.0×T	34.0×T	36.0×T	
賃 料		日	α	α	α	α	α	α	

注) 1. 賃料は物価資料による。

2. 作業能力より運転時間(T)を決定し、主燃料および賃料を算出し決定する。

⑤発動発電機 運転1日当り（本体工：鋼矢板式・鋼杭式、仮設工：継手溶接による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カ ^ス 対策型 100kVA 92kW		排出カ ^ス 対策型 125kVA 117kW		
			陸上	海上	陸上	海上	
主 燃 料	軽 油	ℓ	78	65	102	85	
賃 料		日	1.18	α	1.18	α	

注) 賃料は物価資料による。

⑥発動発電機 運転1日当り（本体工：鋼矢板式・鋼杭式、仮設工：導材設置撤去による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			排出カゝス対策型 150kVA 134kW		
			陸上	海上	
主 燃 料	軽 油	ℓ	133	114	
賃 料		日	1.18	α	

注) 賃料は物価資料による。

⑦発動発電機 運転1日当り（仮設工：鋼管杭・鋼管矢板打設工の陸上施工による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			排出カゝス対策型 10kVA 13kW	排出カゝス対策型 20kVA 19kW	排出カゝス対策型 35kVA 33kW	排出カゝス対策型 45kVA 42kW	排出カゝス対策型 60kVA 57kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	13	20	34	43	56	
賃 料		日	1.18					

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要	
			排出カゝス対策型 75kVA 69kW	排出カゝス対策型 150kVA 134kW	排出カゝス対策型 200kVA 195kW	排出カゝス対策型 300kVA 248kW		400kVA 346kW
主 燃 料	軽 油	ℓ	70	133	196	252	350	
賃 料		日	1.18					

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			500kVA 427kW	600kVA 514kW	800kVA 677kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	434	525	686	
賃 料		日	1.18			

注) 賃料は物価資料または見積りによる。

⑧発動発電機 運転1日当り（仮設工：鋼管杭・鋼管矢板打設工の海上施工による場合）

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			排出カゝス対策型 10kVA 13kW	排出カゝス対策型 20kVA 19kW	排出カゝス対策型 35kVA 33kW	排出カゝス対策型 45kVA 42kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	11	17	29	37	
賃 料		日	α				

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要	
			排出カゝス対策型 150kVA 134kW	排出カゝス対策型 200kVA 195kW	排出カゝス対策型 300kVA 248kW		400kVA 346kW
主 燃 料	軽 油	ℓ	114	168	216	300	
賃 料		日	α				

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			500kVA 427kW	600kVA 514kW	800kVA 677kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	372	450	588	
賃 料		日	α			

注) 賃料は物価資料または見積りによる。

60. 溶接機

溶接機 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量						摘 要
			手動 D300A 16kW		半自動アーク溶接				
					E300A		E500A		
		陸上	海上	陸上	海上	陸上	海上		
主 燃 料	軽 油	ℓ	25	21	—	—	—	—	
損 料	運 転	日	1	1	1	1	1	1	
〃	供 用	〃	1.80	α	1.45	α	1.45	α	

注) 陸上電力を使用する場合の電力料は代価表に計上する。

61. 水中ポンプ

①水中ポンプ 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			口径150mm 揚程 15m	口径200mm 揚程 15m	口径200mm 揚程 10m	口径250mm 揚程 10m	
損 料	運 転	日	1	1	1	1	
〃	供 用	〃	1.40	1.40	1.40	1.40	

62. グラウトポンプ

グラウトポンプ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			発 動 発 電 機 使 用		
			37~100 ℓ/min	350~400 ℓ/min	
特殊作業員		人	1	1	
損 料	運 転	日	1	1	
〃	供 用	〃	1.63	1.63	

63. バイブロハンマ

①バイブロハンマ 運転1日当り (鋼矢板等打設引抜)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			電動式・普通型 60kW 90kW		
			クローラクレーン (油) 50~55t吊		
損料(換算)	供 用	日	1.30		指定事項

注) 損料(換算)は、損料算定基準の参考欄の供用1日当り換算損料を使用する。

②バイブロハンマ 運転1日当り (ハット形鋼矢板打設・陸上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			電動式・可変モーメント型 60kW 90kW		
			クローラクレーン (油) 50~55t吊		
損料(換算)	供 用	日	1.30		指定事項

注) 損料(換算)は、損料算定基準の参考欄の供用1日当り換算損料を使用する。

③バイブロハンマ 運転1日当り (ハット形鋼矢板打設・海上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			電動式・可変モーメント型 60kW 90kW		
			クレーン付台船、起重機船		
損 料	運 転	時間	6.0		
〃	供 用	日	α		

④パイプロハンマ 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			60kW	45kW、60kW、90kW	
損 料	運 転	時間	7.0	6.0	
〃	供 用	日	1.50	α	

注) パイプロハンマの運転時間は、クレーン類の運転時間による。

⑤パイプロハンマ 運転1日当り (鋼管杭・鋼管矢板打設工・陸上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			45kW、60kW、90kW、120kW	150kW、200kW、240kW	
			クローラクレーン t吊		
損 料	運 転	時間	7.0		
〃	供 用	日	1.50	1.50	

⑥パイプロハンマ 運転1日当り (鋼管杭・鋼管矢板打設工・海上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			45kW、60kW、90kW、120kW	150kW、200kW、240kW	
			クレーン付台船、起重機船、杭打船		
損 料	運 転	時間	6.0		
〃	供 用	日	α	α	

注) パイプロハンマの運転時間は、クレーン類の運転時間による。

6.4. パイプロハンマ用ウォータージェット

①ウォータージェット 運転1日当り (鋼矢板打設・陸上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			14.7MPa	325L/min	100kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	120			指定事項
損料(換算)	供 用	日	1.30			指定事項

注) 損料(換算)は、損料算定基準の参考欄の供用1日当り換算損料を使用する。

②ウォータージェット 運転1日当り (鋼矢板打設・海上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			14.7MPa	325L/min	100kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	114			
損 料	運 転	時間	6.0			
〃	供 用	日	α			

注) パイプロハンマの運転時間は、クレーン類の運転時間による。

6.5. ウォータージェット (ジェット併用パイプロ)

①ウォータージェット 運転1日当り (鋼管杭・鋼管矢板打設工・陸上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			14.7MPa	895L/min 243kW	
			45kW、60kW、90kW、120kW	150kW、200kW、240kW 用	
主 燃 料	軽 油	ℓ	329	329	
損 料	運 転	時間	7.0	7.0	
〃	供 用	日	1.50	1.50	

②ウォータージェット 運転1日当り (鋼管杭・鋼管矢板打設工・海上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			14.7MPa	895L/min 243kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	282		
損 料	運 転	時間	6.0		
〃	供 用	日	α		

注) バイプロハンマの運転時間は、クレーン類の運転時間による。

6.6. 鋼管チャック (ジェット併用バイプロ)

①鋼管チャック 運転1日当り (陸上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			60kW、90kW、120kW	150kW、200kW、240kW 用	
損 料	運 転	時間	7.0	7.0	
〃	供 用	日	1.50	1.50	

②鋼管チャック 運転1日当り (海上施工)

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			60kW、90kW、120kW、150kW、200kW、240kW 用		
損 料	運 転	時間	6.0		
〃	供 用	日	α		

注) バイプロハンマの運転時間は、クレーン類の運転時間による。

6.7. さく岩機

さく岩機 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			ハンドドリル(空圧式) 15kg級	コンクリートブレーカ 20kg級	
損 料	運 転	日	1	1	
〃	供 用	〃	1.71	1.71	

6.8. スタッド溶接装置および施工管理計

①スタッド溶接装置 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
損 料	運 転	日	1	溶接ユニット
〃	供 用	〃	1.36	
〃	運 転	〃	1	銃 (水中用)
〃	供 用	〃	1.50	

②施工管理計 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
損 料	運 転	日	1	
〃	供 用	〃	1.53	

69. ディストリビュータ

燃料消費量 軽油 0.090 ℓ/kW・h (雑材料含む)

ディストリビュータ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			自走式	2,000~3,000L 8kw	
主 燃 料	軽 油	ℓ	25		
運 転 手	(一 般)	人	1		
損 料	運 転	日	1		ディストリビュータ装置本体
〃	供 用	〃	1.50		ディストリビュータ装置本体
〃	運 転	時間	4.7		パースタック[普通]3~3.5t積
〃	供 用	日	1.13		パースタック[普通]3~3.5t積

70. コンクリートバケット

コンクリートバケット 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			1.5m³	3.0m³	5.0m³	
損 料	運 転	日	1	1	1	
〃	供 用	〃	2.00	2.00	2.00	

71. リフター

リフター 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			せり上げ能力50 t		
賃 料		日	1		

注) 1. 賃料は224,000円を標準とする。

7.2. 起重機船（非航固定）

起重機船（非航固定） 運転 1 日当り

就業 8 時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 D 200t吊 243kW	鋼 D E 300t吊 324kW	
主 燃 料	重 油 A	ℓ	46.4×T	61.9×T	
船 団 長		人	1×β	1×β	
高 級 船 員		〃	1×β	1×β	
普 通 船 員		〃	8×β	8×β	
損 料	運 転	時間	T		
〃	供 用	日	α		

注) 作業能力により運転時間(T)を決定し主燃料および損料(運転)を算出し決定する。

起重機船（非航固定） 供用 1 日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 D 200t吊 243kW	鋼 D E 300t吊 324kW	
船 団 長		人	1	1	
高 級 船 員		〃	1	1	
普 通 船 員		〃	8	8	
損 料	供 用	日	1		

7.3. 深層混合処理機

深層混合処理機 運転 1 日当り

就業 8 時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			単 軸 施 工				
			27.4kN・m	90~110kW ×1 20m	90~110kW ×1 30m	90kW×2	
主 燃 料	軽 油	ℓ	34	62	72	62	指定事項
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	指定事項
損料(換算)	供 用	日	1.59	1.59	1.59	1.59	指定事項

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			二 軸 施 工				
			45kW×2	55~60kW×2	75~90kW×2	90kW×2	
主 燃 料	軽 油	ℓ	35	38	56	56	指定事項
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	指定事項
損料(換算)	供 用	日	1.59	1.59	1.59	1.59	指定事項

注) 馬力はバースマシンを示す。

7.4. スラリープラント

スラリープラント 運転 1 日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			10 m ³ /h	20 m ³ /h	
損料(換算)	供 用	日	1.59	1.59	指定事項

75. 揚土船（リクレーマ船）

燃料消費量 重油A 0.326 ℓ/kW・h （雑材料含む）

揚土船（リクレーマ船） 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼DE 1,200PS型 883kW	2,800PS型 2,059kW	3,200PS型 2,354kW	
主燃料	重油A	ℓ	287.9×T	671.2×T	767.4×T	
船団長		人	1×β	1×β	1×β	
高級船員		〃	1×β	3×β	3×β	
普通船員		〃	4×β	10×β	11×β	
損料	運 転	時間	T			
〃	供 用	日	α			

注) 作業能力により運転時間(T)を決定し主燃料および損料（運転）を算出し決定する。

揚土船（リクレーマ船） 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			鋼DE 1,200PS型 883kW	2,800PS型 2,059kW	3,200PS型 2,354kW	
船団長		人	1	1	1	
高級船員		〃	1	3	3	
普通船員		〃	4	10	11	
損料	供 用	日	1			

76. 捨石均し船

燃料消費量 重油A 0.276 ℓ/kW・h （雑材料含む）

捨石均し船 運転1日当り

就業10時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			1,000PS型	736kW	
主燃料	重油A	ℓ	1,219		
船団長		人	1×β		
高級船員		〃	2×β		
普通船員		〃	8×β		
損料	運 転	時間	6		
〃	供 用	日	α		

捨石均し船 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			1,000PS型	736kW	
船団長		人	1		
高級船員		〃	2		
普通船員		〃	8		
損料	供 用	日	1		

77. ペーパードレーン（液状化対策）施工機

燃料消費率 軽油 0.087 ℓ/kW・h （雑材料含む）

ペーパードレーン（液状化対策）施工機 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数量			摘要
			打込長			
			15m以下 88kW	20m以下 125kW	25m以下 132kW	
主燃料	軽油	ℓ	53	76	76	
運転手	(特殊)	人	1			
損料	運転	時間	6.9			
〃	供用	日	1.88			

施工管理計（ペーパードレーン〈液状化対策〉用） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			施工管理計		
損料	運転	日	1		
〃	供用	〃	2.00		

78. グラベルドレーン施工機

燃料消費率 軽油 0.087 ℓ/kW・h （雑材料含む）

グラベルドレーン施工機 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			打込長		
			パイプロ式30m以下 95t級 114kW	パイプロ式36m以下 105t級 114kW	
主燃料	軽油	ℓ	54		
運転手	(特殊)	人	1		
損料	運転	時間	5.5		
〃	供用	日	1.45		

施工管理計（グラベルドレーン用） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			施工管理計		
損料	運転	日	1		
〃	供用	〃	1.45		

79. グラベルドレーン（締固め式）施工機

燃料消費率 軽油 0.087 ℓ/kW・h （雑材料含む）

グラベルドレーン（締固め式）施工機 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			打込長		
			パイプロ式30m以下 105t級 114kW	パイプロ式36m以下 125t級 136kW	
主燃料	軽油	ℓ	54	66	
運転手	(特殊)	人	1		
損料	運転	時間	5.5		
〃	供用	日	1.45		

施工管理計（グラベルドレーン用） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			施工管理計		
損料	運転	日	1		
〃	供用	〃	1.45		

80. 水中バックホウ

燃料消費率 軽油 0.153 ℓ/kW・hr (雑材料含む)

水中バックホウ 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			71kW		
主 燃 料	軽 油	ℓ	55		
損 料	運 転	時間	5		
〃	供 用	日	α		

水中バックホウ 供用1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			71kW		
損 料	供 用	日	1		

81. バックホウ (バックホウ揚土)

バックホウ (排出ガス対策型) 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			山積1.4m ³ (平積1.0m ³) 164kW	山積1.9m ³ (平積1.4m ³) 223kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	158	214	
運 転 手	(特殊)	人	1	1	
損 料	運 転	時間	6.3	6.3	
〃	供 用	日	1.64	1.64	

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

82. 杭打船

杭打船 (ディーゼルハンマ) 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			D-25 103kW 7.5t質量 2.5t	D-45 221kW 7.5t質量 4.5t	D-72 405kW 7.5t質量 7.2t	D-80 515kW 7.5t質量 8.0t	
主 燃 料	重油 A	ℓ	118	253	464	590	杭打船
〃	軽 油	〃	46	83	132	147	ディーゼルハンマ
船 団 長		人	1×β	1×β	1×β	1×β	
高級 船員		〃	-	1×β	1×β	1×β	
普通 船員		〃	6×β	6×β	8×β	8×β	
損 料	運 転	時間	6				
〃	供 用	日	α				

杭打船 (ディーゼルハンマ) 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			D-25 103kW 7.5t質量 2.5t	D-45 221kW 7.5t質量 4.5t	D-72 405kW 7.5t質量 7.2t	D-80 515kW 7.5t質量 8.0t	
船 団 長		人	1	1	1	1	
高級 船員		〃	-	1	1	1	
普通 船員		〃	6	6	8	8	
損 料	供 用	日	1				

8.3. クローラ式杭打機

クローラ式杭打機（ディーゼルハンマ）運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量				摘 要
			ラム質量 1.3t 77kW	2.5t 92kW	3.5t 92kW	4.5t 92kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	40	48	48	48	ベースマシン
〃	〃	〃	25	47	67	85	ハンマ
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	1	
特殊作業員		〃	1	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.2	6.2	6.2	6.2	
〃	供 用	日	1.70	1.70	1.70	1.70	

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			ラム質量 6.0t 105kW	7.2t 106kW	8.0t 106kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	55	56	56	ベースマシン
〃	〃	〃	114	137	152	ハンマ
運 転 手	(特殊)	人	1	1	1	
特殊作業員		〃	1	1	1	
損 料	運 転	時間	6.2	6.2	6.2	
〃	供 用	日	1.70	1.70	1.70	

- 注) 1. ラム質量1.3tは、ブーム式である。
 2. 数量欄の馬力は、ベースマシンの機関出力を示す。
 3. 損料は、見積りによる。

8.4. 事前混合処理設備

燃料消費率（空気圧縮機） 軽油 0.187 ℓ/kW・hr（雑材料含む）

〃（発動発電機） 〃 0.145 ℓ/kW・hr（ 〃 ）

事前混合処理設備 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			B 500型	B 900型	
主 燃 料	軽 油	ℓ	169	433	
損 料	運 転	時間	5.6		
〃	供 用	日	1.65		

8.5. 発動発電機（事前混合処理 陸上）

発動発電機（排出ガス対策型） 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			35kVA	33kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	29		
賃 料		日	1.65		

注) 賃料は物価資料による。

8.6. 高所作業車（事前混合処理）

燃料消費率 軽油 0.044 ℓ/kW・hr（雑材料含む）

高所作業車 運転1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			ブーム型	12m 96kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	22		
運 転 手	(特殊)	人	1		
賃 料		日	1.40		

注) 賃料は物価資料による。

87. 二軸同軸式アースオーガ機(先行掘削 海上)

二軸同軸式アースオーガ機 運転1日当り (海上)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量			摘 要
			180kW	200kW	290kW	
運 転 手	(特殊)	人	1			
損 料	運 転	時間	6.0			
〃	供 用	日	α			
オーガ ^{スクリュー} 損料	必 要 径	〃	1			
オーガ ^{ヘッド} 損料	必 要 径	〃	1			
ケーシング ^{損料}	必 要 径	〃	1			

オーガスクリュー損料 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
損 料	運 転	時間	6.0	必要長
〃	供 用	日	α	

オーガヘッド損料 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
損 料	運 転	時間	6.0	
〃	供 用	日	α	

ケーシング損料

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
オーガ ^{ケーシング} 損料	供 用	日	α	必要長
ケーシング ^{ヘッド} 損料	供 用	〃	α	

88. 発動発電機(先行掘削 海上)

発動発電機 運転1日当り (海上)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			400kVA 346kW	600kVA 514kW	
主 燃 料	軽 油	ℓ	301	447	指定事項
賃 料		日	α		指定事項

注) 賃料は物価資料による。

89. 全回転型オールケーシング掘削機(先行掘削 海上)

燃料消費率 軽油 0.104 ℓ/kW・hr (雑材料含む)

全回転型オールケーシング掘削機 運転1日当り (海上)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			φ 1,500mm級	φ 2,000mm級	
主 燃 料	軽 油	ℓ	78	90	
運 転 手	(特殊)	人	1		
損 料	運 転	時間	6.0		
〃	供 用	日	α		
ハンマク ^{ラフ} 損料	必 要 径	〃	α		
ハンマク ^{ラウン} 損料	必 要 径	〃	α		
ケーシング ^{損料}	必 要 径	〃	α		

ケーシング損料

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
ケーシング ^{チューブ} 損料	必 要 径	日	1	必要長
ファースト ^{チューブ} 損料	必 要 径	〃	1	

90. 油圧式スパッド台船(先行掘削)

油圧式スパッド台船(先行掘削用) 運転1日当り

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 800t積~1,000t積 昇降能力 220~240t		
普通船員		人	2×β		
損 料	供 用	日	α		

油圧式スパッド台船(先行掘削用) 供用1日当り

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			鋼 800t積~1,000t積 昇降能力 220~240t		
普通船員		人	2		
損 料	供 用	日	1		

91. クローラクレーン(先行掘削 海上)

クローラクレーン(油圧駆動式)80t吊 運転1日当り (海上)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
主 燃 料	軽 油	ℓ	77	指定事項
賃 料		日	α	指定事項

注) 賃料は物価資料による。

92. バックホウ(先行掘削 海上)

バックホウ(排出ガス対策型) 運転1日当り (海上)

就業8時間

名称	形状寸法	単位	数 量		摘 要
			山積0.8m ³ (平積0.6m ³)		
主 燃 料	軽 油	ℓ	95		指定事項
運 転 手	(特殊)	人	1		指定事項
損 料	運 転	時間	6.0		指定事項
〃	供 用	日	α		指定事項

注) 使用原動機は、排出ガス対策型(第1次基準値)を適用する。

